

OMPU
CAMPUS LIFE
REPORT
2024



大阪医科薬科大学
キャンパスライフ
レポート

2024

医学部 | 薬学部 | 看護学部



大阪医科薬科大学
Osaka Medical and Pharmaceutical University

発刊趣旨

初等中等教育の改革が進み、大学に入学する学生の質が大きく変化しており、超少子社会における大学は新しい時代の学生を受け入れ、高等教育を提供していくことになります。民法の改正による成年年齢の引き下げや大学設置基準の改正による学生厚生補導体制の充実などは同じ流れの中にあるものと思われます。

2021年に大阪医科大学と大阪薬科大学が統合されて誕生した大阪医科薬科大学では、新たな時代の大学教育の一環として、学生生活支援を充実すべく学部を横断する学生生活支援機構を設置し、学生厚生補導の手本であった Student Personnel Service の基本である「学生の人間形成」を支援することとしました。学生生活支援を充実する上で、これまで各学部で行われていた学修実態ならびに学生生活に関する調査を統合し、大阪医科薬科大学の医学部、薬学部、看護学部共通の調査として IR 室が「大阪医科薬科大学 学生調査」を実施していくことになりました。そして、その調査結果を大学の構成員である学生とその保護者そして教職員が共有するため、毎年度「大阪医科薬科大学 キャンパスライフ・レポート」として刊行することにいたしました。

大阪医科薬科大学の3学部は、医学部が本部キャンパス、薬学部は阿武山キャンパス、看護学部は本部北キャンパスをそれぞれの本拠地として、各キャンパスでは医学部生、薬学部生、看護学部生が日々、学修やクラブ活動等に励み、切磋琢磨しています。最優の医療系総合大学を目指し、さらに素晴らしい大学を作り上げていくために、大阪医科大学と大阪薬科大学の歴史と伝統そして学部の特性を踏まえつつ、大阪医科薬科大学生の豊かな気質を育てたいと願っています。そのためにこの「キャンパスライフ・レポート」が想定を超えるスピードで出生数が減少する中で有効に利用されることを望んでおります。

皆様におかれましては、本冊子をご覧いただき、本学の学生生活支援に倍旧のご理解とご指導をお願いいたします。

大阪医科薬科大学
学長 佐野 浩一

目次

発刊趣旨

調査概要

I. 学修実態

1. 本学の教育方針	2
(1) 建学の精神の理解	
(2) ディプロマポリシー（学位授与の方針）の認知	
(3) 今年度、身についた能力や態度（ディプロマポリシー項目に対する自己評価）	
2. 今年度の授業を振り返って	17
(1) 授業への積極的な参加	
(2) アクティブラーニングの状況	
(3) 授業カリキュラムの満足度	
(4) 現在あるいは将来役立ちそうな授業	
(5) 授業全般への評価	
3. 教員との面談	29
(1) 面談の利用	
(2) 面談に対する評価	
4. UNIVERSAL PASSPORT（UNIPA）の利用	31
(1) 今年度の利用状況	
(2) UNIPA の利用目的	
(3) UNIPA「マイステップ」の利用状況	
5. 授業外学習	34
(1) 予習・復習時間	
(2) 授業以外の学習方法	
(3) 授業以外で学習する相手の有無	

II. 学生生活

1. 居住と通学	40
(1) 現在の住居	
(2) 通学時間	
2. 睡眠時間	42
3. 学内施設・支援の利用状況と満足度	43
(1) 図書館、自学自習室、共用スペースなどの学習支援施設	
(2) 就職・進路への支援	
(3) 学習・心身の健康面の相談体制（面談・カウンセリングを含む）	
(4) 奨学金等の経済支援に関する情報提供	

4. クラブ・サークル・同好会活動	51
(1) 今年度加入しているクラブ・サークル・同好会	
(2) 1週間あたりの活動時間	
(3) 部活動の学業への影響	
(4) 活動の満足度	
5. ボランティア活動	55
6. 今年度の経済状況	57
(1) 平均的な1か月あたりの総収入	
(2) 平均的な1か月あたりの総支出	
7. アルバイト	59
(1) 現在のアルバイト状況	
(2) 現在行っているアルバイトの種類	
(3) 平均的な1週間あたりの就労時間	
(4) アルバイト収入の用途	
(5) アルバイトと学業の関係	
8. 不安や悩み	64
(1) 今年度の状況	
(2) 今年度の不安や悩みの種類	
(3) 悩みの相談相手	
9. 卒業後の進路	67

III. 総合評価

1. 入学前後の本学への印象 【1年生と最終学年のみ】	70
2. 入学以降の総合的な学修成果（結果）の満足度	72
3. 大学生生活全般の満足度	73

2024年大阪医科薬科大学学生調査 調査概要

1. 調査対象・方法

	医学部	薬学部	看護学部
調査対象人数	674人	1812人	352人
調査時期	2024年10月～ 2025年2月	2024年12月～ 2025年2月	2024年12月～ 2025年1月
調査方法	UNIPAによるweb調査	MS Formsによるweb調査	UNIPAによるweb調査

2. 回答結果

(1) 医学部

学 年	在籍学生数	学修実態		学生生活	
		有効回答数	有効回答率	有効回答数	有効回答率
第1学年	113	107	94.7%	108	95.6%
第2学年	114	106	93.0%	110	96.5%
第3学年	125	118	94.4%	120	96.0%
第4学年	109	104	95.4%	105	96.3%
第5学年	115	108	93.9%	110	95.7%
第6学年	98	90	91.8%	95	96.9%
合 計	674	633	93.9%	648	96.1%

(2) 薬学部

学 年	在籍学生数	有効回答数	有効回答率
第1学年	312	292	93.6%
第2学年	332	257	77.4%
第3学年	343	297	86.6%
第4学年	277	265	95.7%
第5学年	259	234	90.3%
第6学年	289	270	93.4%
合 計	1812	1615	89.1%

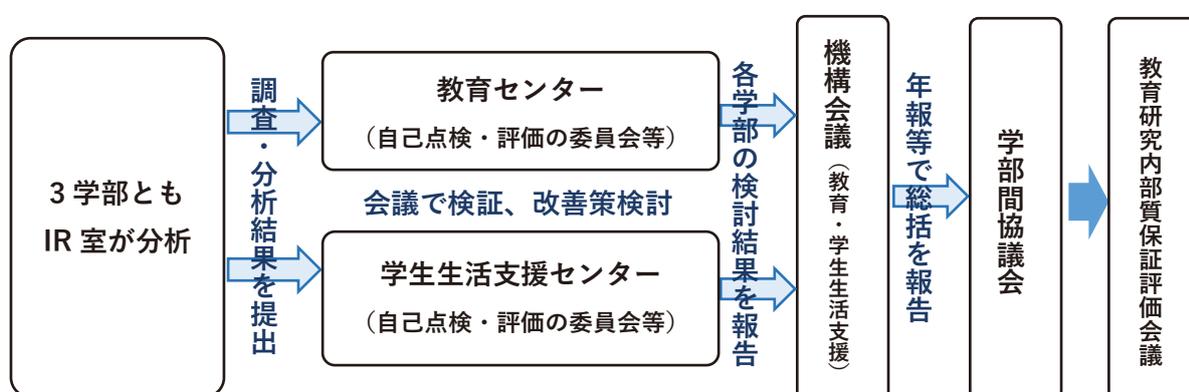
(3) 看護学部

学 年	在籍学生数	有効回答数	有効回答率
第1学年	83	79	95.2%
第2学年	88	77	87.5%
第3学年	90	84	93.3%
第4学年	91	87	95.6%
合 計	352	327	92.9%

(4) 性別

性別	医学部	薬学部	看護学部
男性	61.7%	30.8%	4.6%
女性	36.6%	67.8%	92.7%
回答しない	1.7%	1.4%	2.8%

3. 「学生調査」調査結果の活用

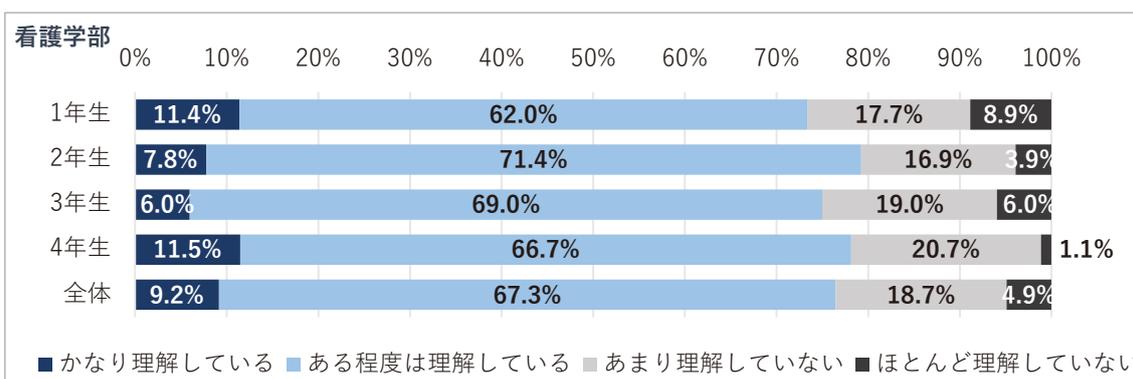
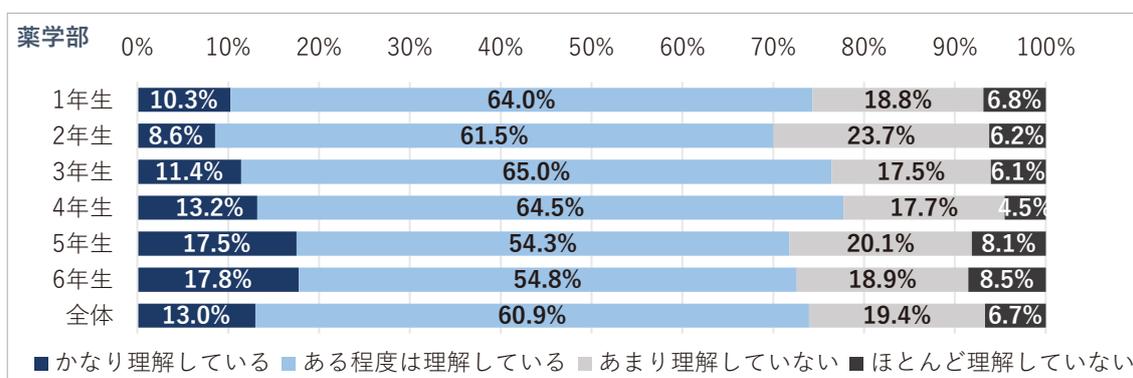
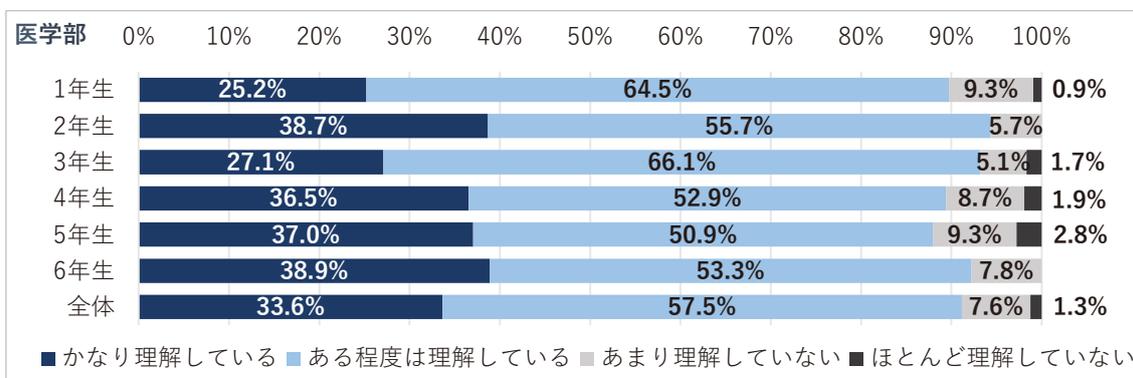


学生調査の調査結果は、毎年度、IR室から医学部・薬学部・看護学部の教育センターと学生生活支援センターに提出されます。その調査結果は、各学部のセンター会議等の検証を経て、学修支援・学生生活支援の改善に活用されています。また検証結果と改善報告は大学全体で共有され、全学的な学生支援の方針に活かされています。

I. 学修実態

1. 本学の教育方針

(1) 建学の精神の理解



「建学の精神」の理解に対する自己評価について学部全体で見ると、もっとも自己評価が高いのは医学部で「かなり理解している」が33.6%、「ある程度理解している」をあわせると91.1%が理解していると回答している。薬学部と看護学部の全体では、「かなり理解している」が9~13%程度、「ある程度理解している」をあわせると薬学部では73.9%、看護学部では76.5%が理解していると回答している。

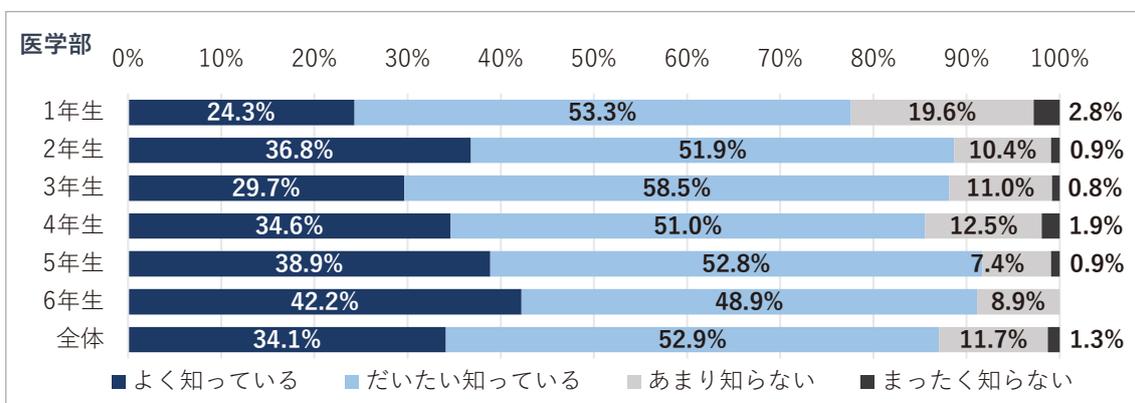
医学部

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

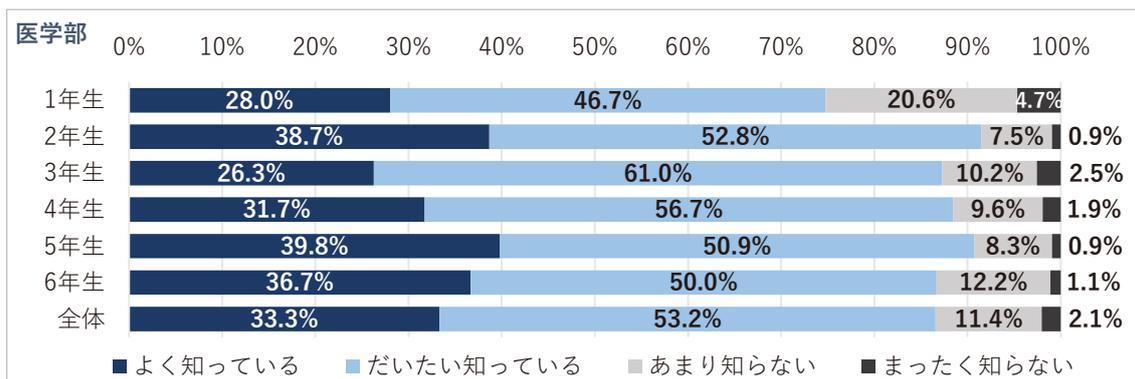
- ① 倫理とプロフェッショナリズム：
高い倫理性と誇りをもって、自己管理能力とリーダーシップを有し、他者に敬意をもって接することができる。
- ② 医学・科学的知識：
医学における科学的知識について十分に理解し、診療や研究に活用できる。
- ③ 実践的診療能力：
統合された医学・科学的知識、技能に基づいて、高い倫理観を有し、患者に敬意と思いやりをもって、医療行為を実践できる。
- ④ 自律的探求能力：
医師や医学研究者としての能力の向上を目指し、生涯にわたって自ら学習することができる。
- ⑤ 多職種連携とコミュニケーション：
他の医療職の立場や考え方を理解、尊重しながら自分の考えを伝え、チーム医療において良好な人間関係を構築することができる。
- ⑥ 医療の社会性と国際性：
医療の社会性に関する基本的な知識を身につけたうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。また医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者・研究者や患者とコミュニケーションを取ることができる。

（2）ディプロマポリシー（学位授与の方針）の認知

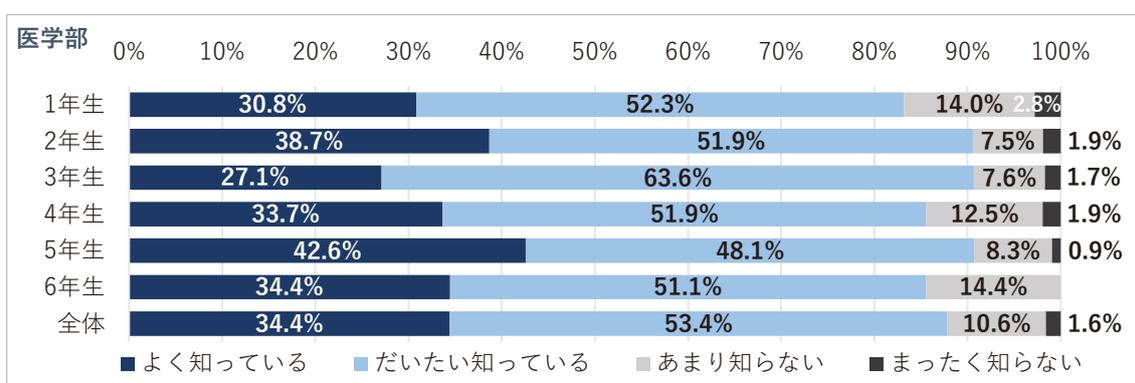
① 倫理とプロフェッショナリズム



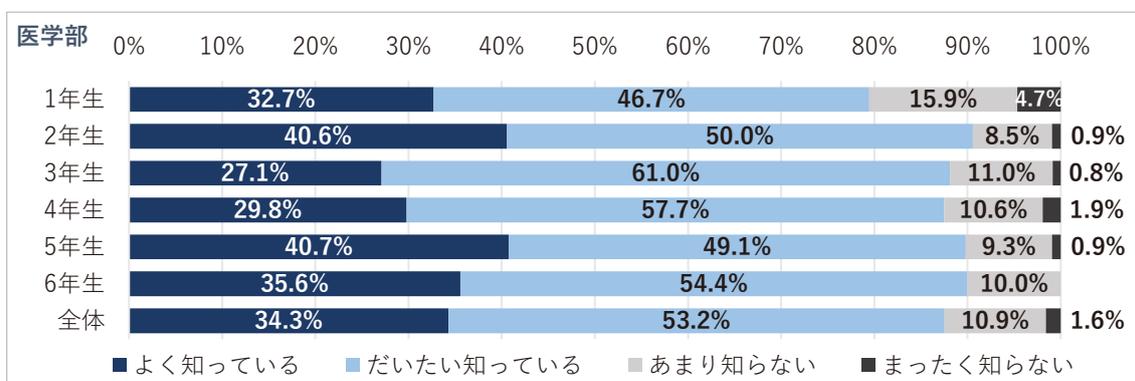
② 医学・科学的知識



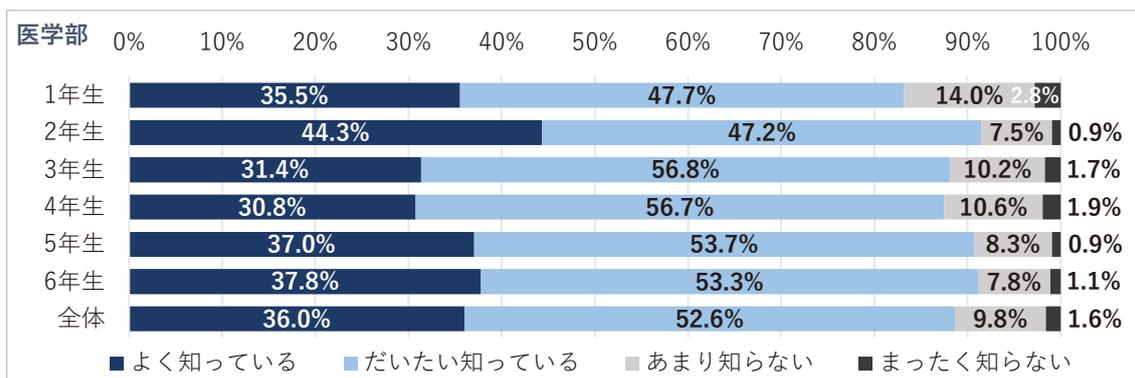
③ 実践的診療能力



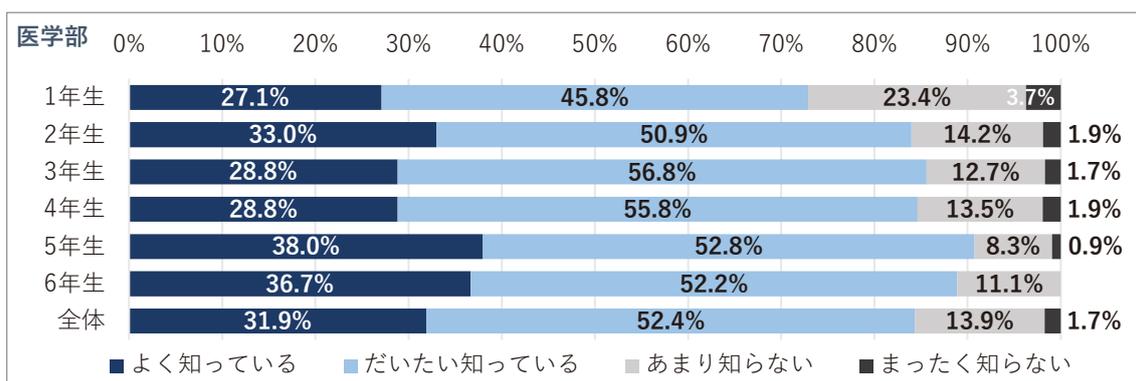
④ 自律的探求能力



⑤ 多職種連携とコミュニケーション



⑥ 医療の社会性と国際性

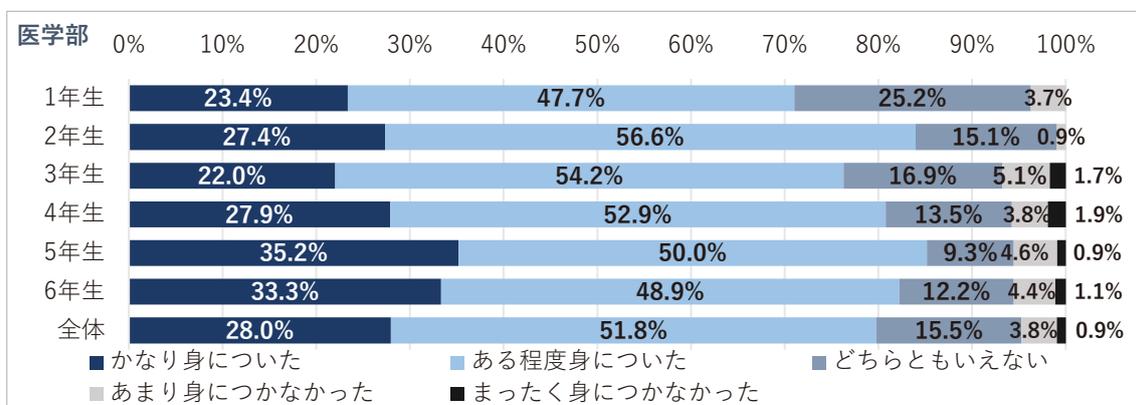


医学部のディプロマポリシーの認知について、医学部全体ではいずれの項目においても85～88%程度であり、5年生では約90%がある程度以上知っているという回答している。

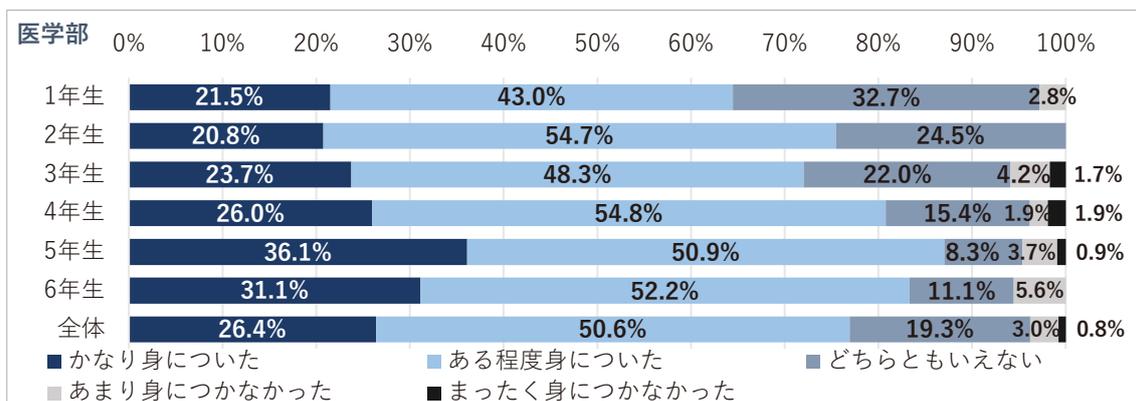
(3) 今年度、身についた能力や態度（ディプロマポリシー項目に対する自己評価）

*卒業年次の6年生は6年間を振り返って回答。

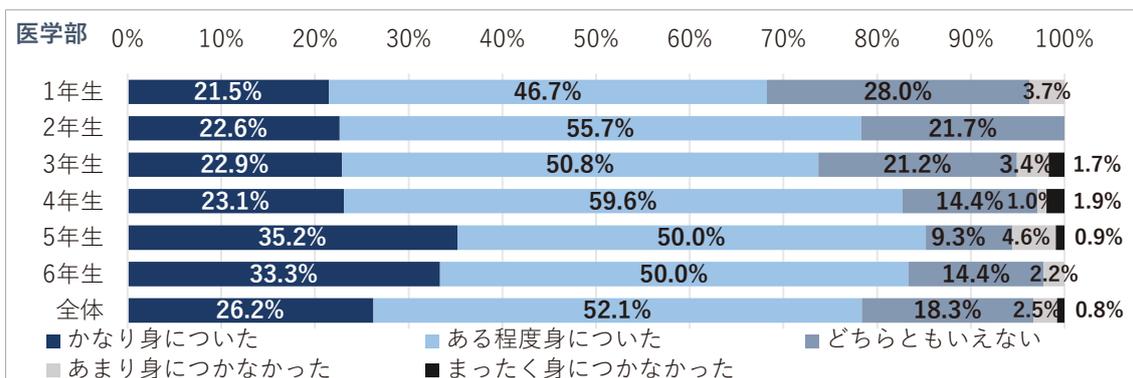
① 倫理とプロフェッショナリズム



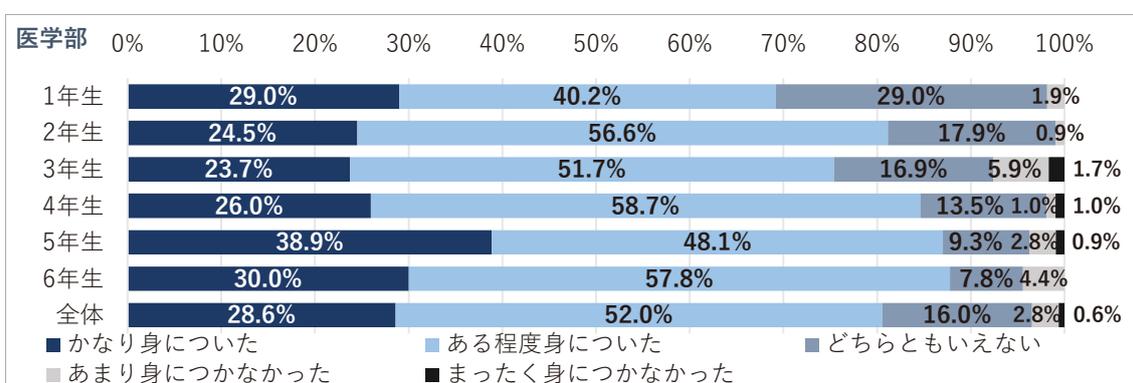
② 医学・科学的知識



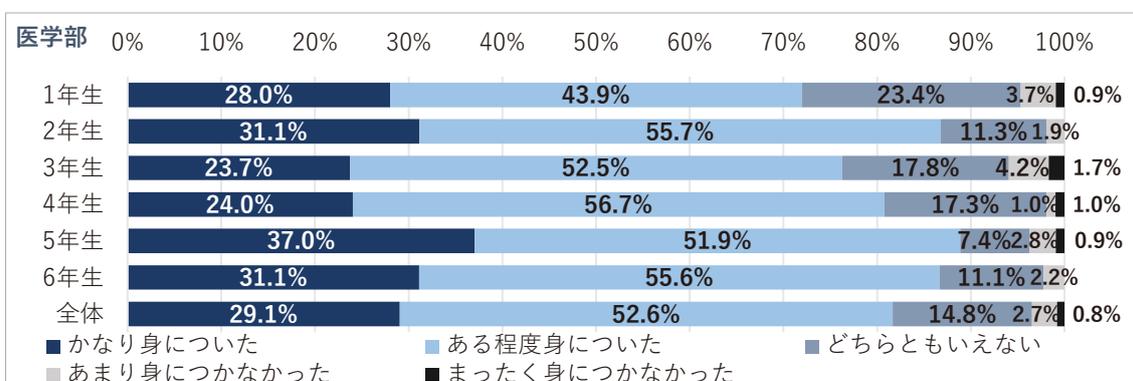
③ 実践的診療能力



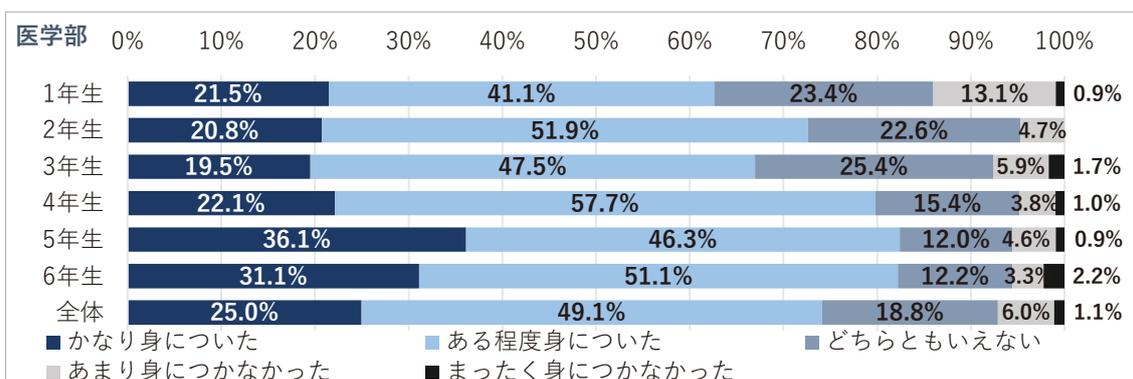
④ 自律的探求能力



⑤ 多職種連携とコミュニケーション



⑥ 医療の社会性と国際性



ディプロマポリシーとして掲げられている項目に関する達成度の自己評価について、医学部生全体では「かなり身についた」または「ある程度身についた」とする回答が、ほとんどの項目において75～80%程度となっており、5～6年生では85%前後である。

薬学部

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）※令和6（2024）年度入学者より改正

① プロフェッショナルとしての基盤

薬剤師としての責務を認識するとともに、法令を遵守し、高い倫理観と責任感をもち、幅広い教養と豊かな人間性と国際的な視野を身に付けたうえで、患者をはじめとする他者に対して敬意をもって誠実な態度で医療に関わる。

② コミュニケーションと多職種連携

多様な背景を持つ患者や地域住民、医療関係者、教育者、研究者などと良好な人間関係を築いて適切な情報の収集や提供を行い、他職種の職能や考え方を理解ならびに尊重するとともに、様々な情報を共有し、連携して医療などの職務にあたる。

③ 社会的貢献

薬学・医療に関する情報の収集・発信に必要な語学能力と国際的視点を持ち、研究活動や臨床現場で得られた知見を適切に利活用し、国際社会や地域社会において人々の疾病の予防、健康の回復・維持・増進、公衆衛生の向上に貢献する。

④ 問題解決

研究活動や臨床現場はもとより様々な局面において解決すべき課題を見出すとともに、薬学的知識・技能や経験などを統合し、先端技術や情報処理技術を適切に利活用して、根拠に基づいて解決に向けて取り組む。

⑤ 薬物治療の実践

患者の病態だけでなく、患者およびその家族の社会的背景や心理の変化にも配慮し、医薬品の特性の理解と科学的根拠に基づく総合的な評価に依拠した医薬品の供給、調剤、患者教育、処方設計の提案、患者の状態の把握を通じて、薬物治療の有効性と安全性を担保することにより患者の療養に貢献する。

⑥ 自己研鑽と共育

薬学・医療に関わる者として、自らの行動を常に省察し、能力の向上を目指して他者と共に学び高めあい、後進の育成に努める。

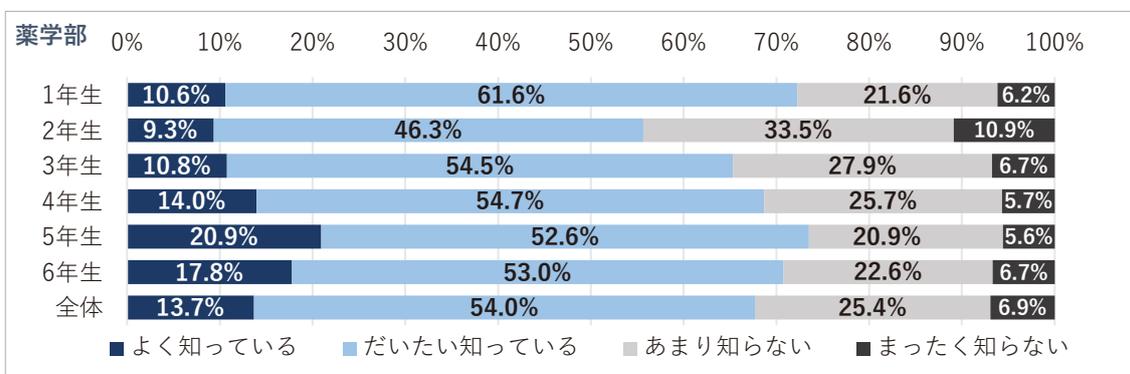
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）※令和5（2023）年度以前入学者

- ① 医療人として相応しい倫理観と社会性を有していること。
- ② 国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること。
- ③ 薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度を有していること。
- ④ 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。
- ⑤ チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。
- ⑥ 薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。
- ⑦ 地域における必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。
- ⑧ 薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。
- ⑨ 薬学・医療の進歩と改善に役立つ研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力を有していること。

（2）ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の認知

新ディプロマ・ポリシーに対応する旧ディプロマ・ポリシーを【】内に記載して示しています。

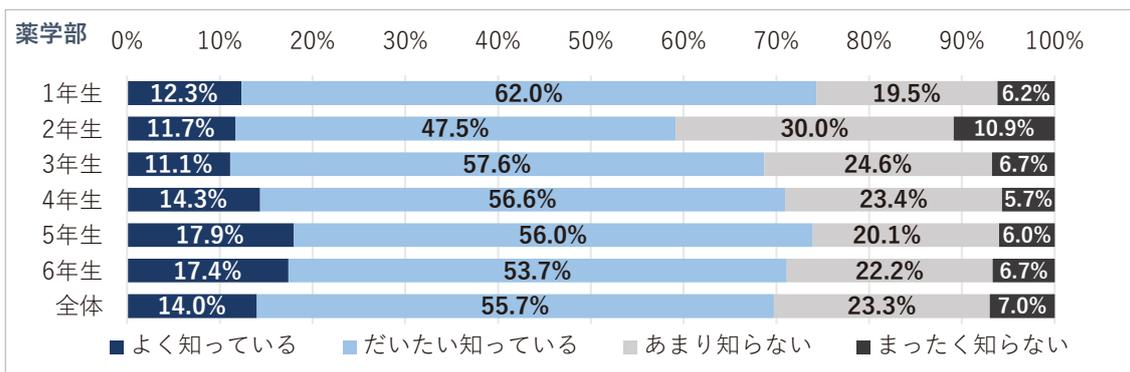
① プロフェッショナルとしての基盤 【旧 ① 倫理観と社会性】



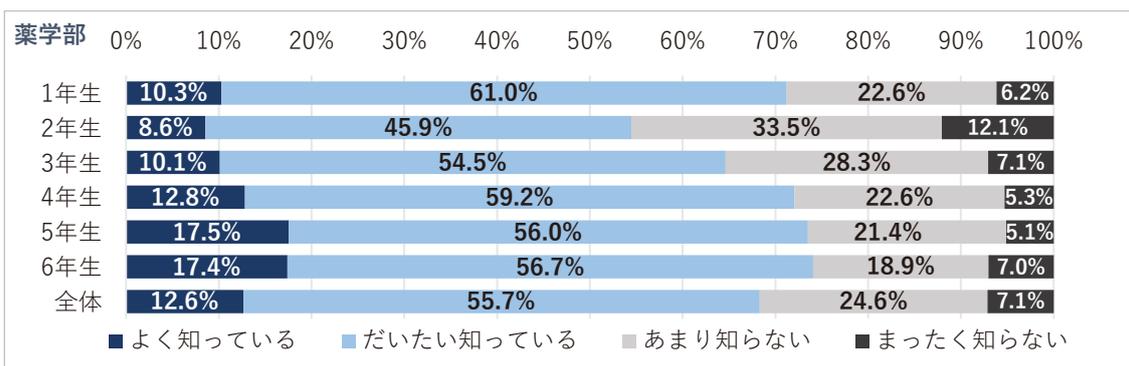
② コミュニケーションと多職種連携

【旧 ② 基礎的な語学力 ⑤ チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度

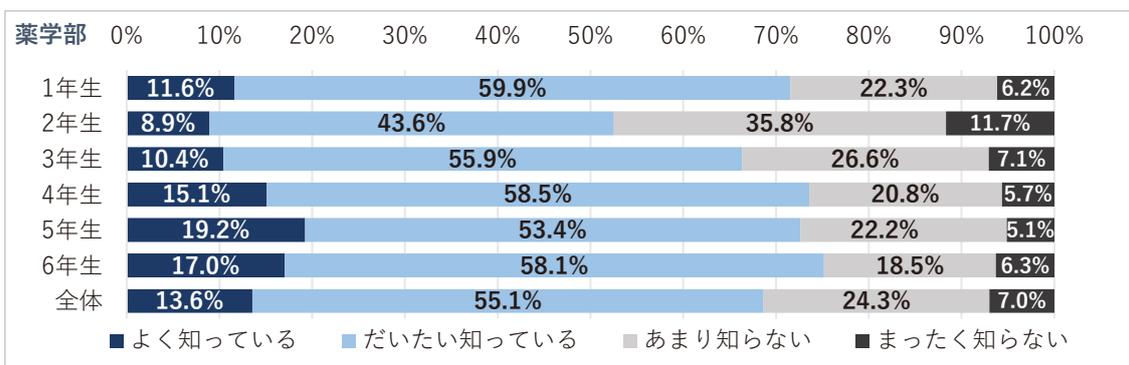
⑥ コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力】



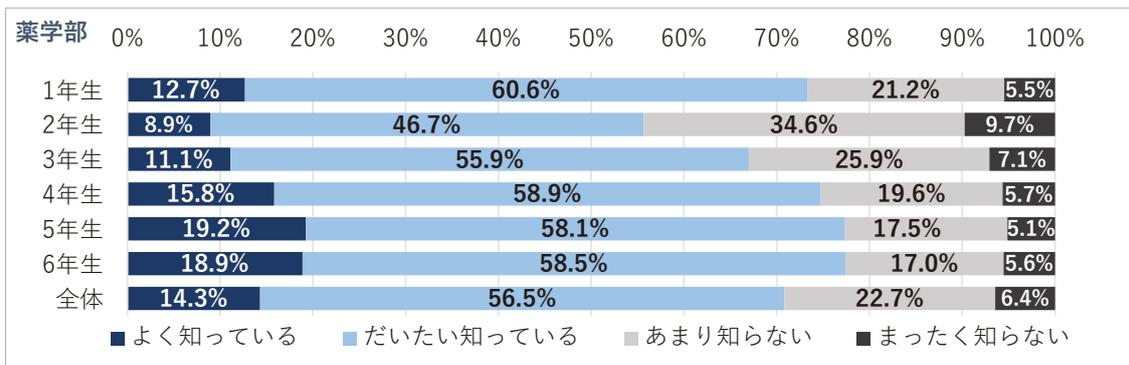
③ 社会的貢献 【旧 ⑦ 健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力】



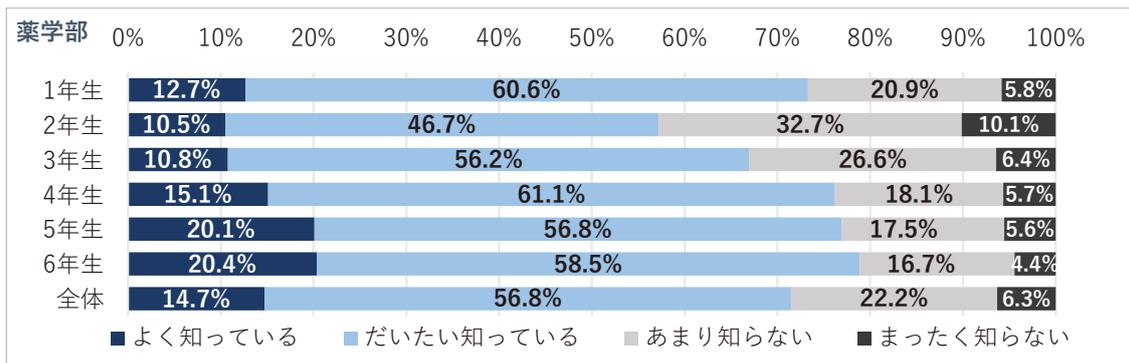
④ 問題解決 【旧 ⑨ 研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力】



⑤ 薬物治療の実践 【旧 ③ 薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度
④ 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度】



⑥ 自己研鑽と共育 【旧 ⑧ 自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度】



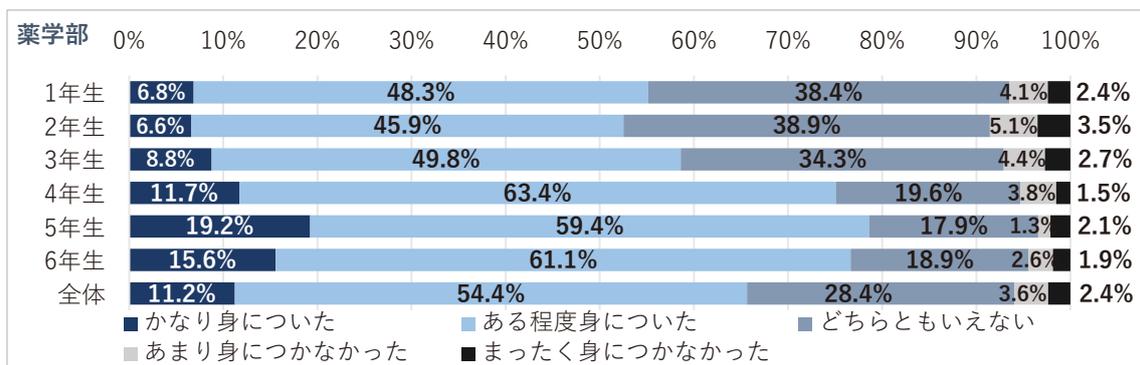
薬学部のディプロマ・ポリシーの認知について、薬学部全体では「よく知っている」または「だいたい知っている」とする回答が70%程度であり、5～6年生に関しては、70～75%程度である。

(3) 今年度、身についた能力や態度（ディプロマ・ポリシー項目に対する自己評価）

* 卒業年次の6年生は6年間を振り返って回答。

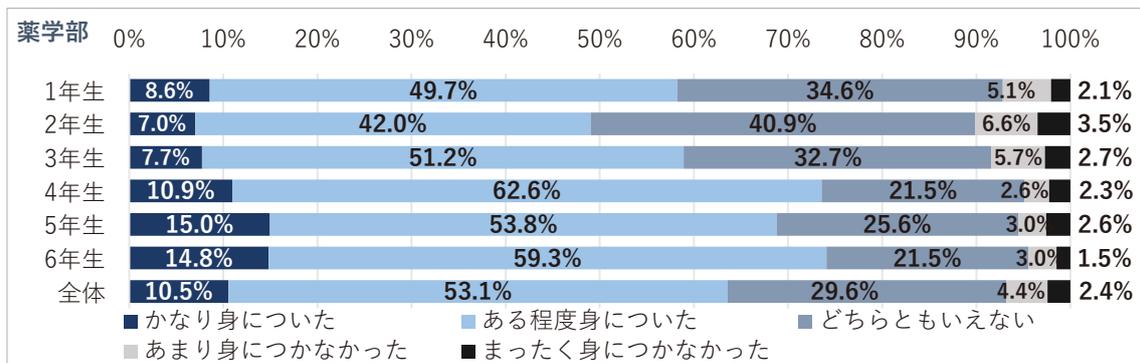
新ディプロマ・ポリシーに対応する旧ディプロマ・ポリシーを【】内に記載して示しています。

① プロフェッショナルとしての基盤 【旧 ① 倫理観と社会性】

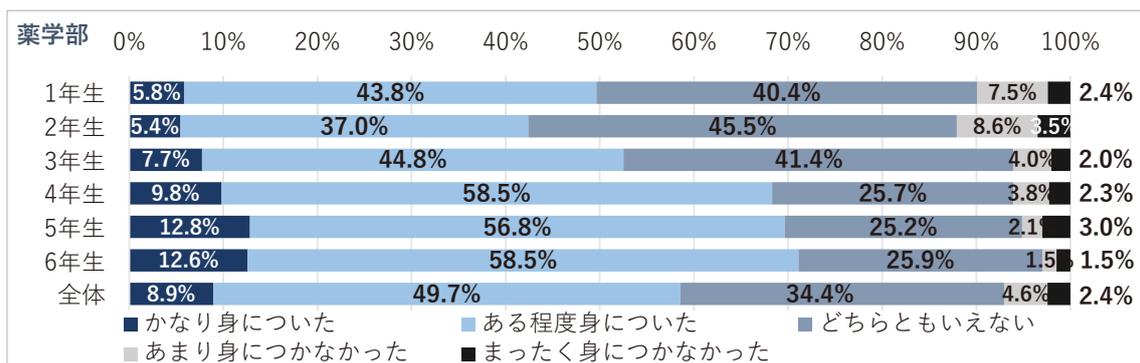


② コミュニケーションと多職種連携

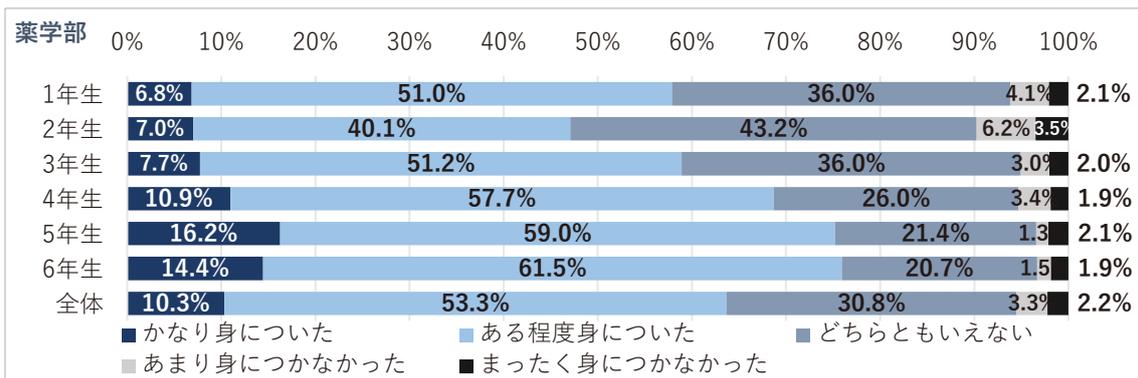
【旧 ② 基礎的な語学力 ⑤ チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度
⑥ コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力】



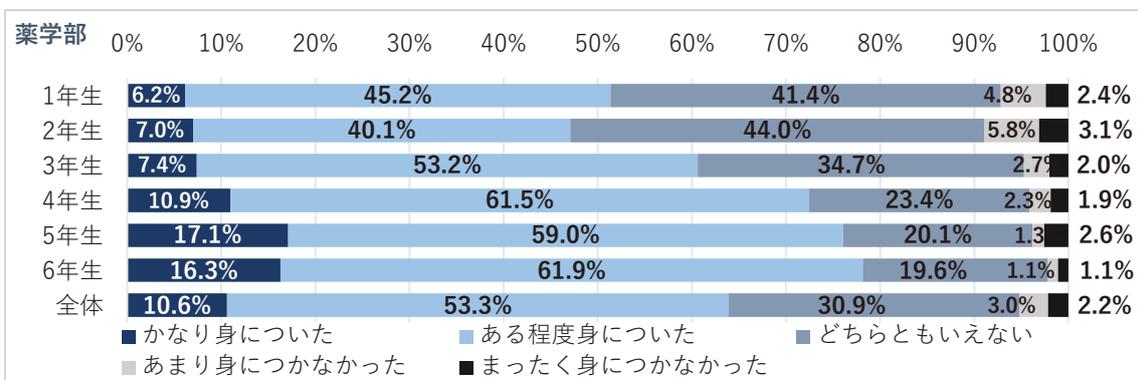
③ 社会的貢献 【旧 ⑦ 健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力】



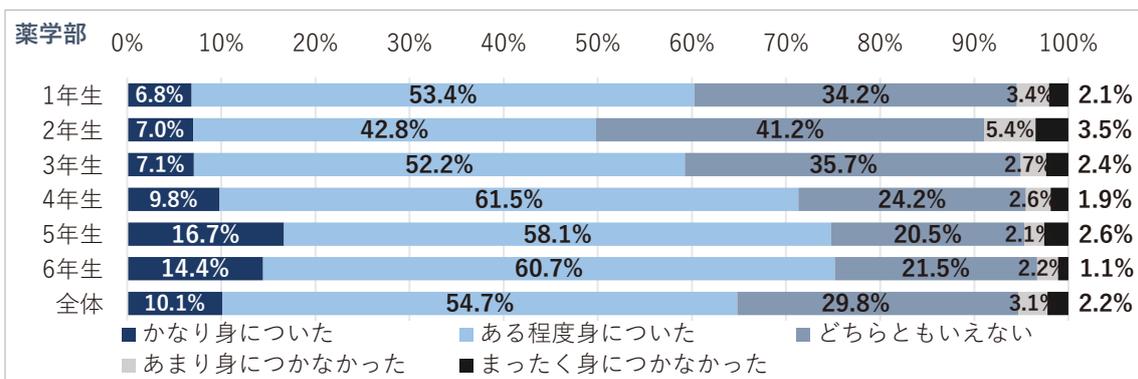
④ 問題解決 【旧 ⑨ 研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力】



⑤ 薬物治療の実践 【旧 ③ 薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度
④ 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度】



⑥ 自己研鑽と共育 【旧 ⑧ 自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度】



ディプロマ・ポリシーとして掲げられている項目に関する達成度の自己評価では、薬学部全体で「かなり身についた」または「ある程度身についた」とする回答がほとんどの項目において63~65%程度となっており、5~6年生では70~75%程度である。

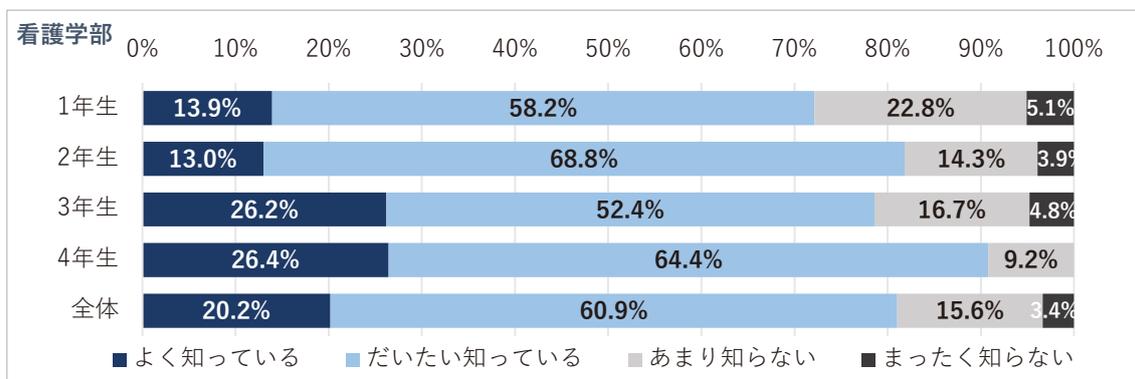
看護学部

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

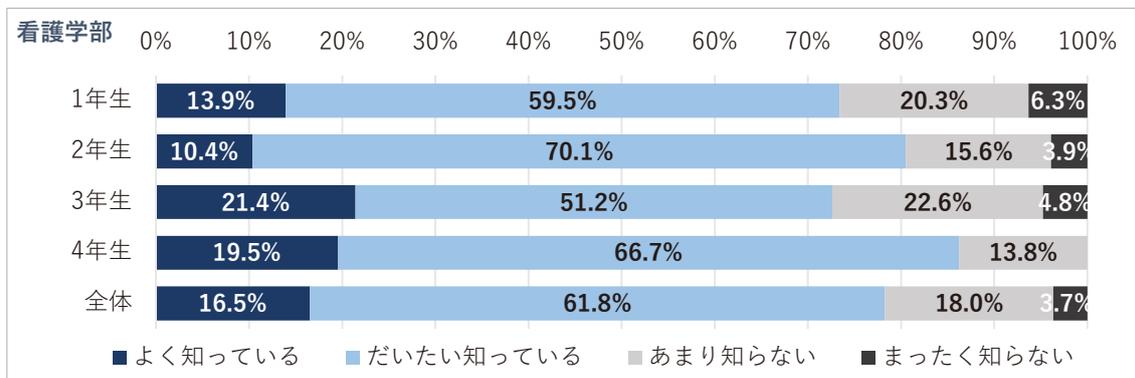
- ① 生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる。
- ② グローバルな視点から看護に関する課題を探究し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる。
- ③ 看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる。
- ④ 地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる。
- ⑤ 自らのキャリア形成をみすえて、向上心をもって自己研鑽し続けることができる。

（2）ディプロマポリシー（学位授与の方針）の認知

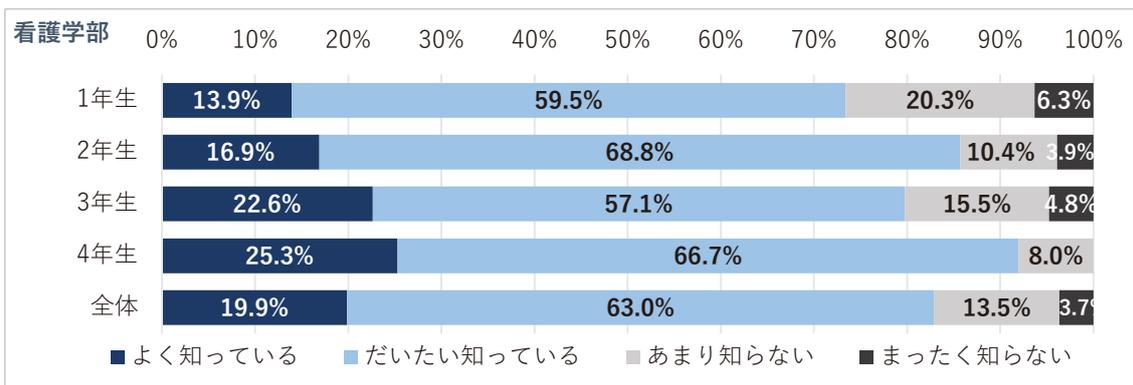
- ① 生命の尊厳、人権を尊重、生き方や価値観を尊重した行動



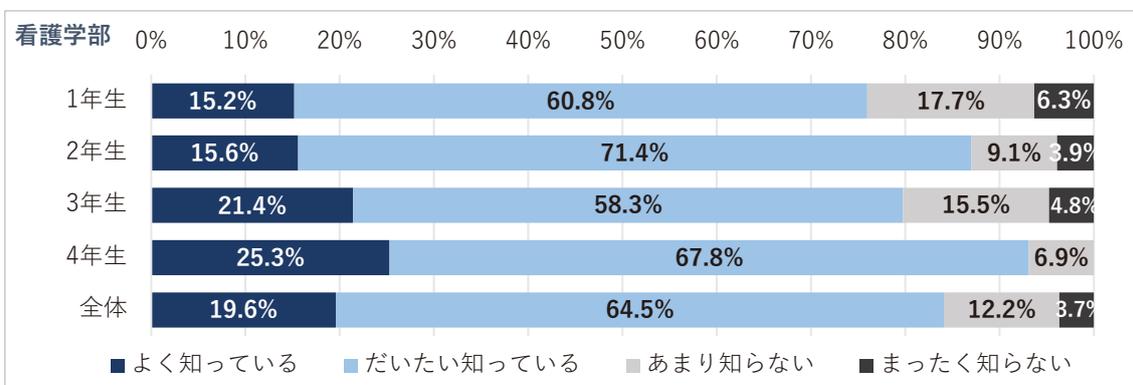
- ② グローバルな視点での課題の探求と新しい知識や技術の創造



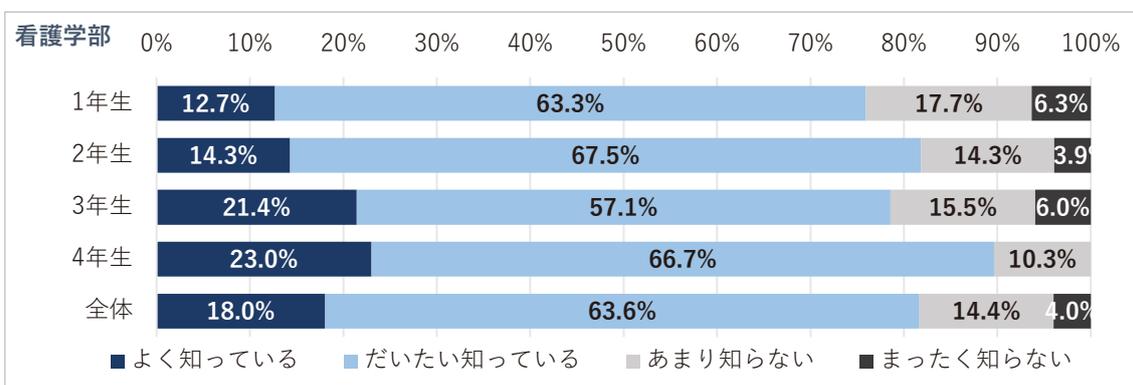
③ 専門的知識と技術の習得、個別の健康課題を考慮した実践



④ 地域社会における健康課題を把握、多職種連携の理解、多様な課題の解決



⑤ キャリア形成をみすえた自己研鑽

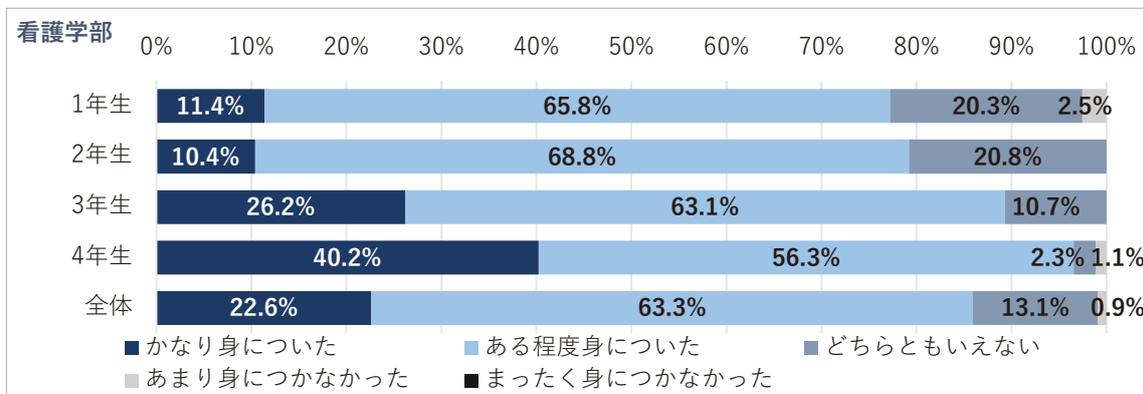


看護学部のディプロマポリシーの認知については、看護学部全体で80%程度が各項目をある程度以上知っていると回答しており、4年生では、全ての項目において90%程度である。

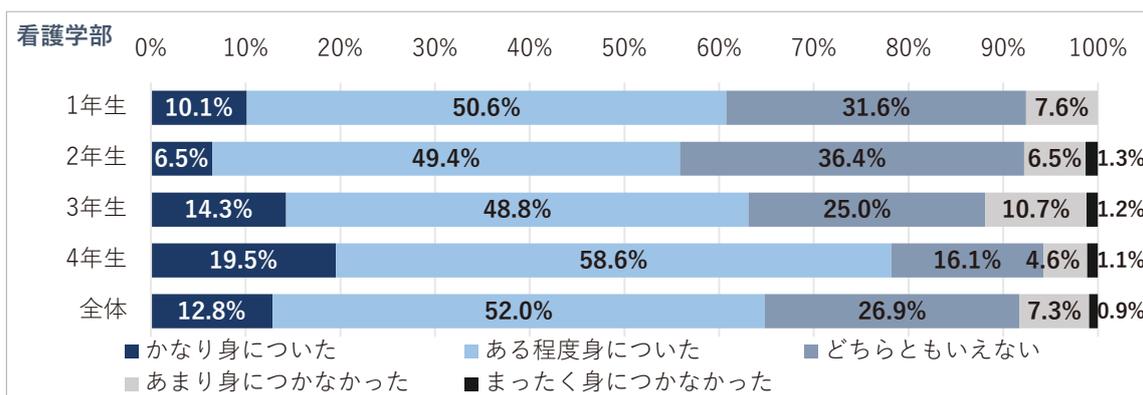
(3) 今年度、身についた能力や態度（ディプロマポリシー項目に対する自己評価）

*卒業年次の4年生は4年間を振り返って回答。

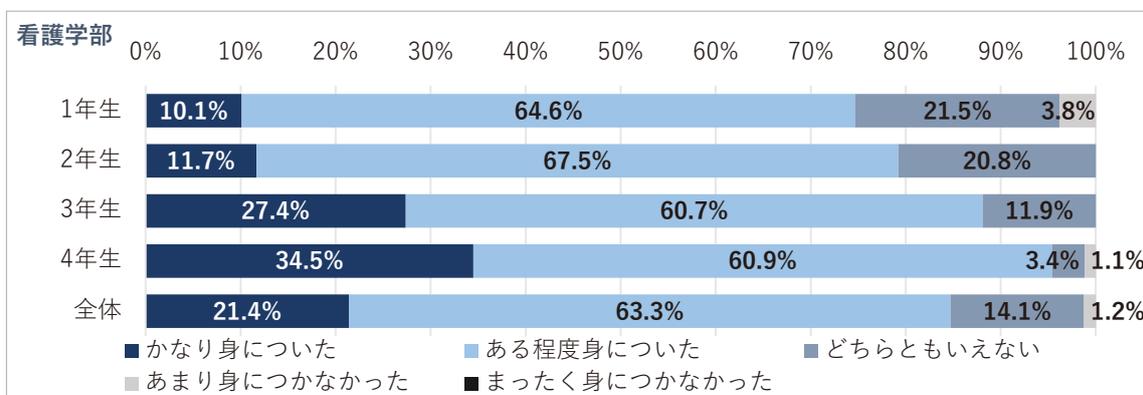
① 生命の尊厳、人権を尊重、生き方や価値観を尊重した行動



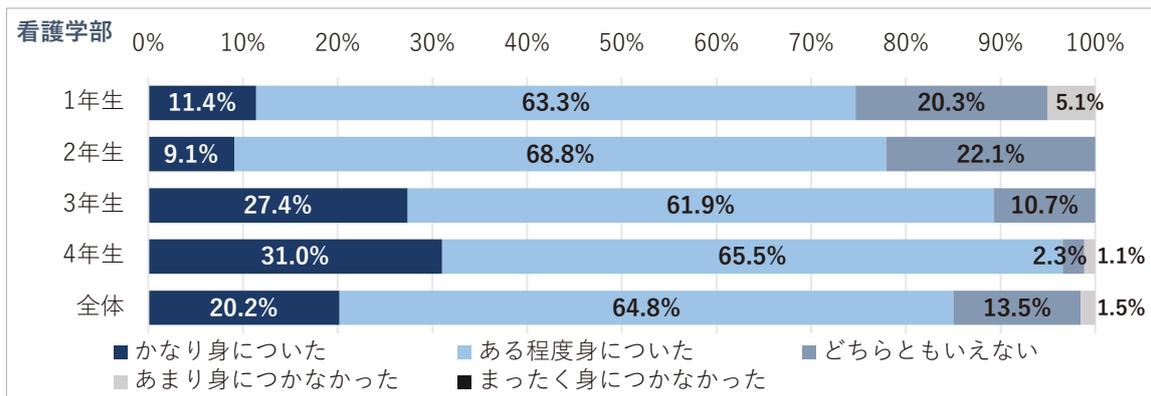
② グローバルな視点での課題の探求と新しい知識や技術の創造



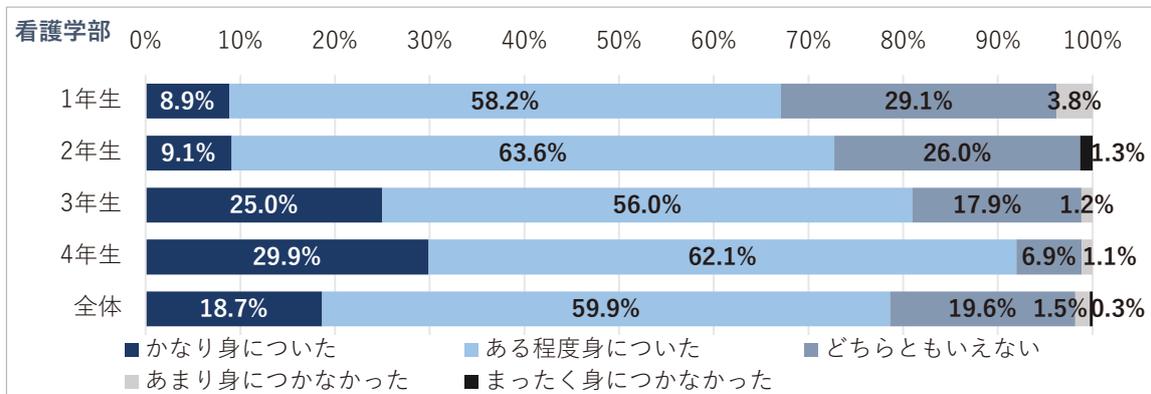
③ 専門的知識と技術の習得、個別の健康課題を考慮した実践



④ 地域社会における健康課題を把握、多職種連携の理解、多様な課題の解決



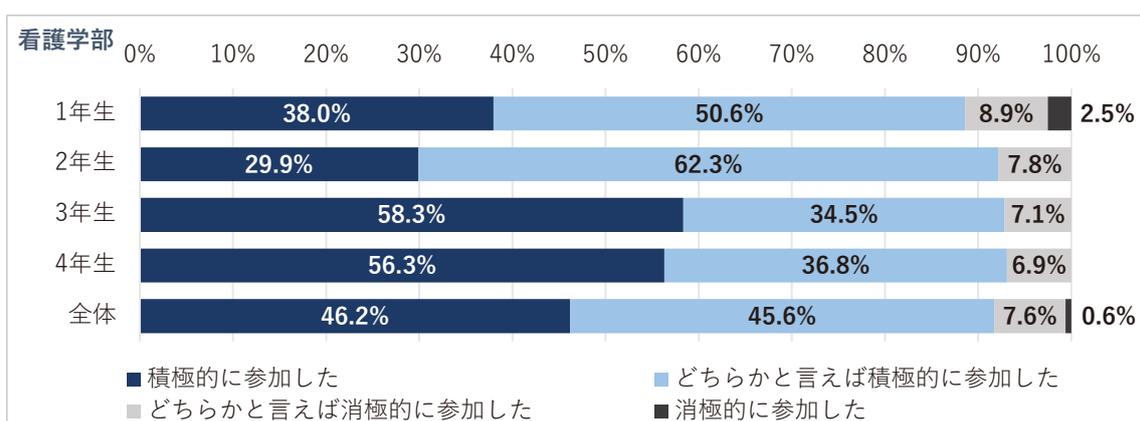
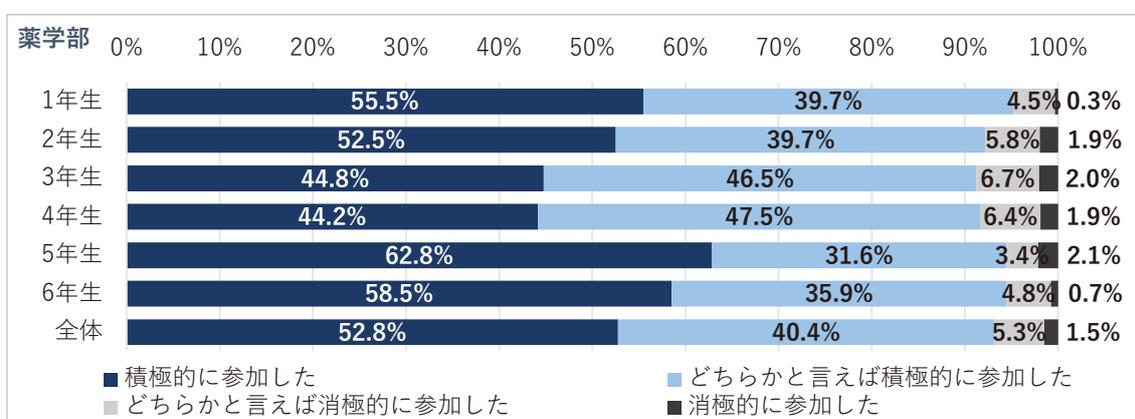
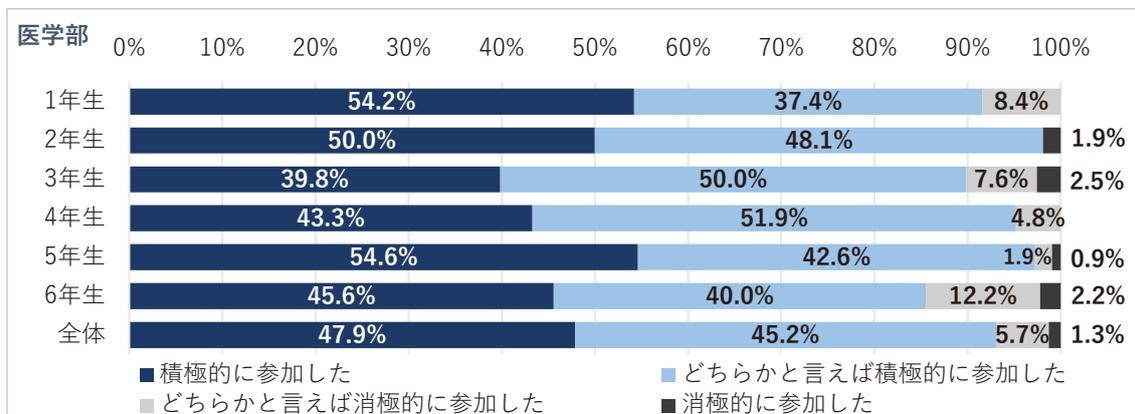
⑤ キャリア形成をみすえた自己研鑽



ディプロマポリシーとして掲げられている項目に関する達成度の自己評価では、看護学部全体で「かなり身についた」または「ある程度身についた」とする回答が各項目においても78～85%であるが、「グローバルな視点での課題の探求と新しい知識や技術の創造」については64.8%である。学年別にみると、学年が上がるごとに自己評価は高くなっている。

2. 今年度の授業を振り返って

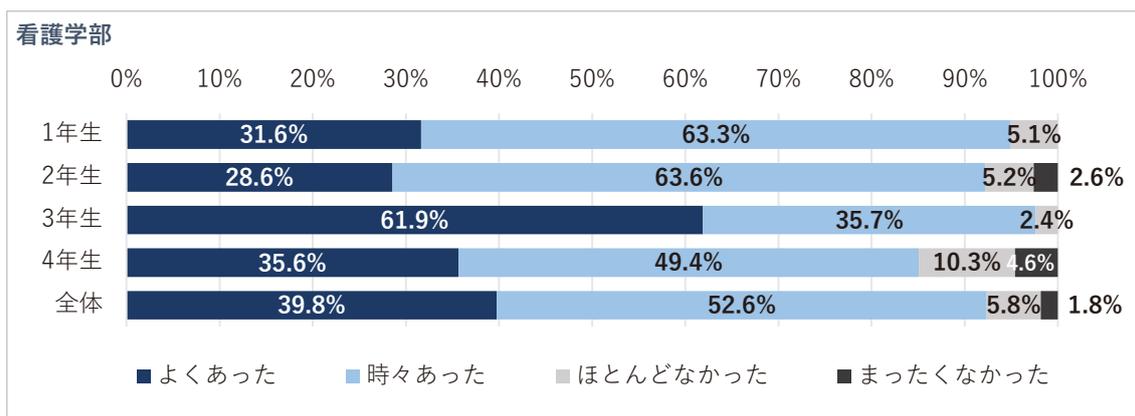
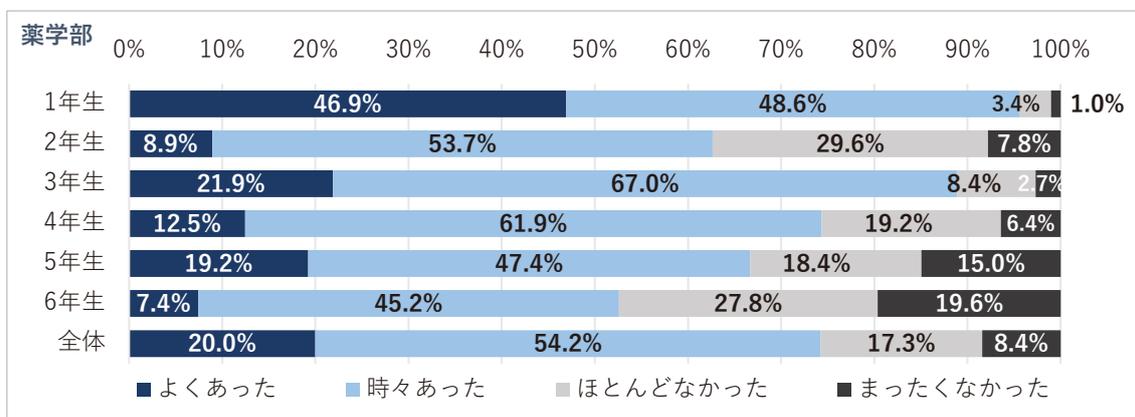
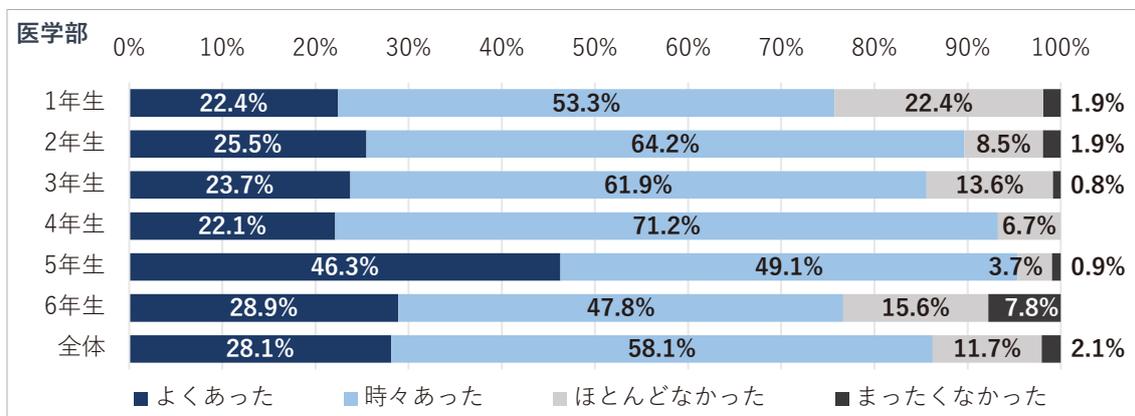
(1) 授業への積極的な参加



授業に積極的に参加したとする回答は、医学部と薬学部全体は約93%、看護学部全体では約92%である。学年別にみると、「積極的に参加した」と回答した学生は医学部の1・5年生で55%程度、薬学部の5～6年生で6割前後、看護学部の3～4年生では56～58%程度である。

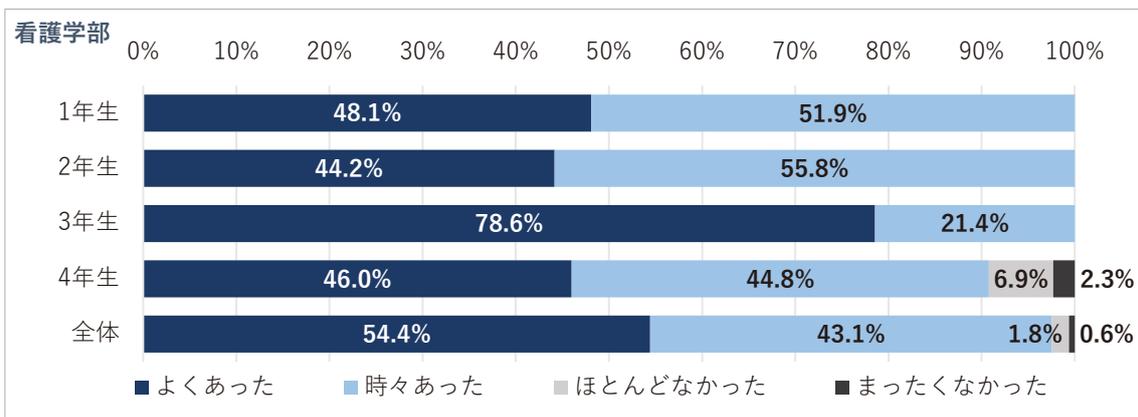
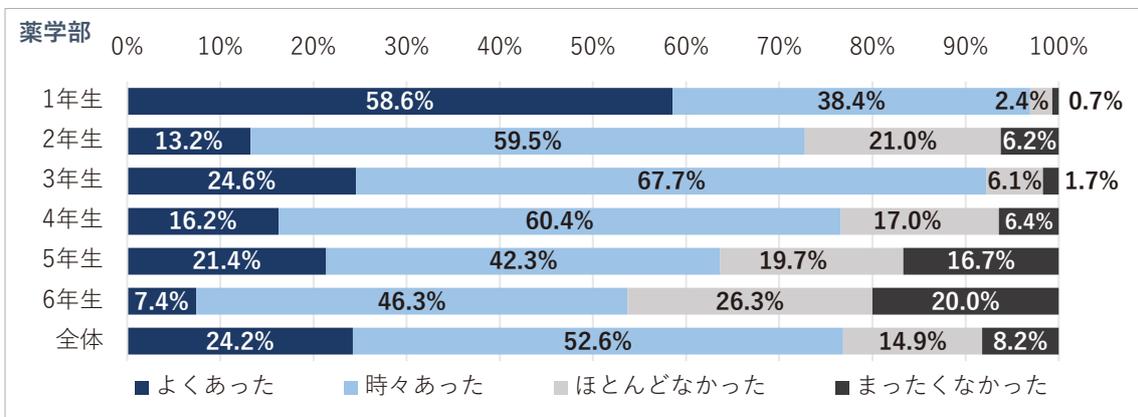
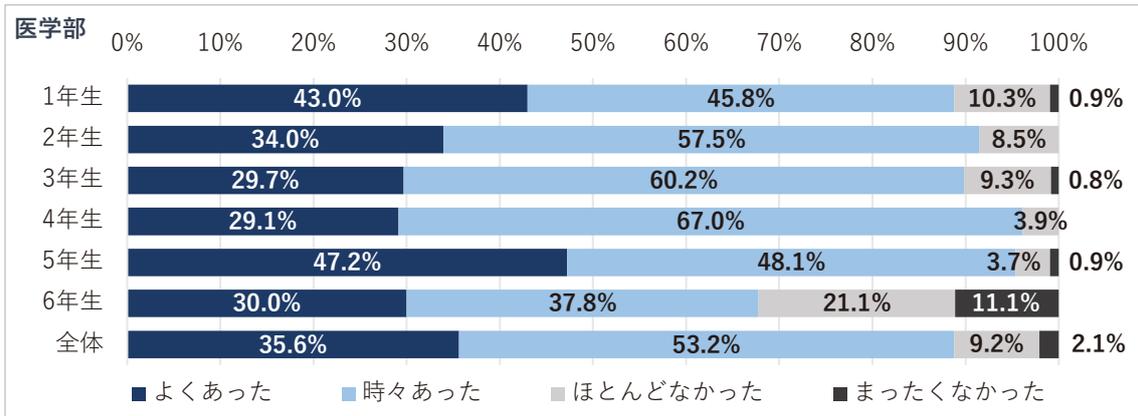
(2) アクティブラーニングの状況

①「ディスカッション、ディベート（議論・討論）」



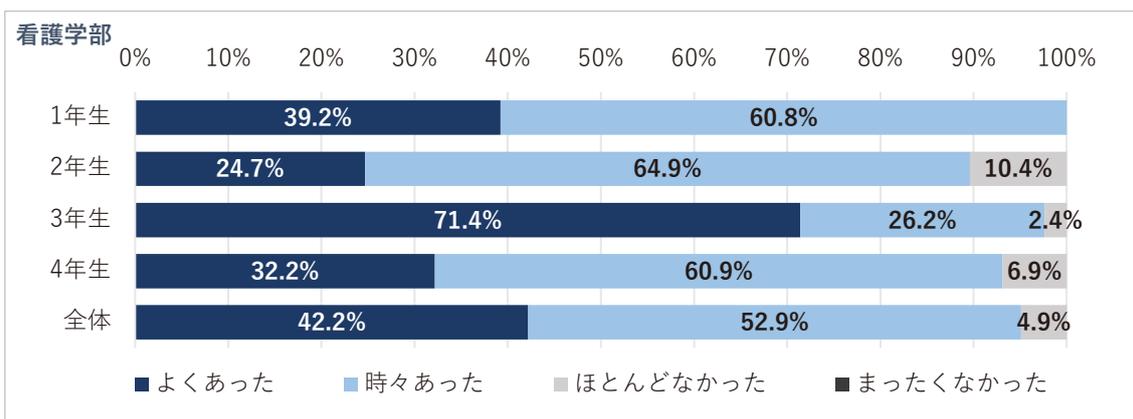
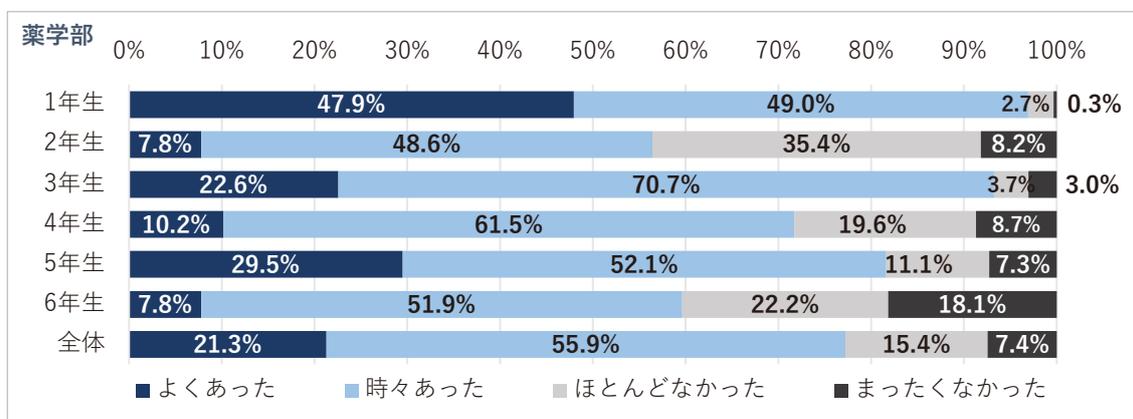
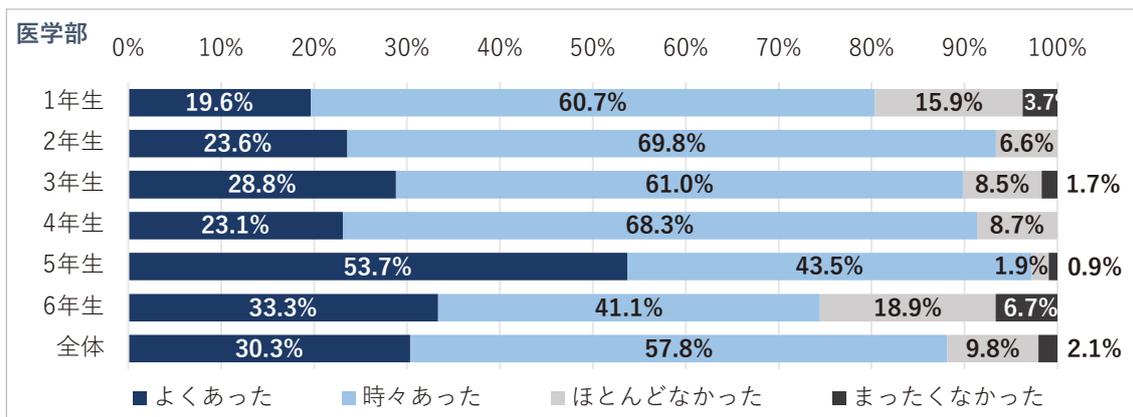
ディスカッション、ディベートについては、割合が高い順に看護学部全体で 92.4%、医学部全体で 86.2%、薬学部全体で 74.2%が経験したと回答している。「よくあった」の回答の割合は、医学部の 5 年生と薬学部の 1 年生、看護学部 3 年生で高い

②「グループワーク（小グループや班別授業）」



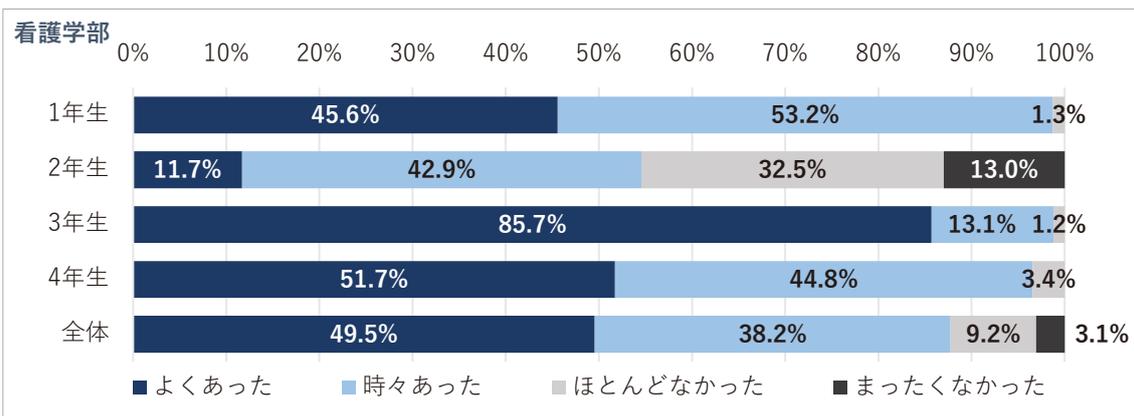
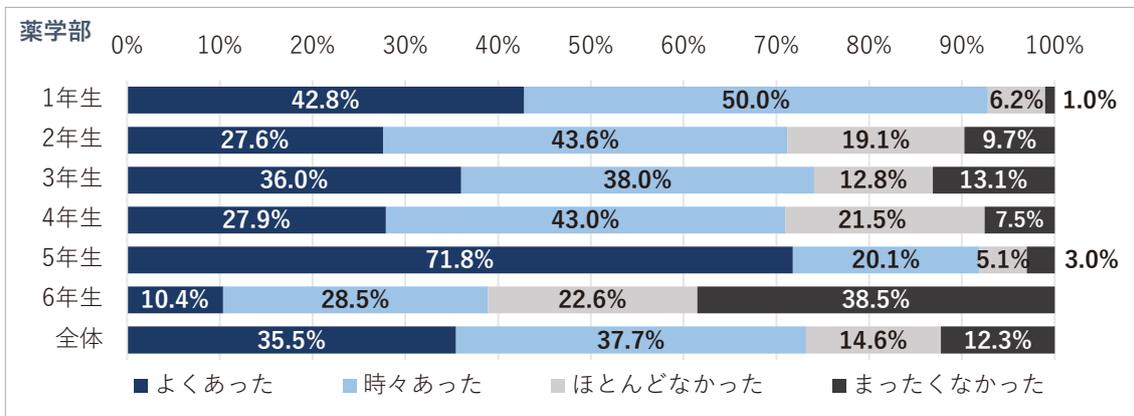
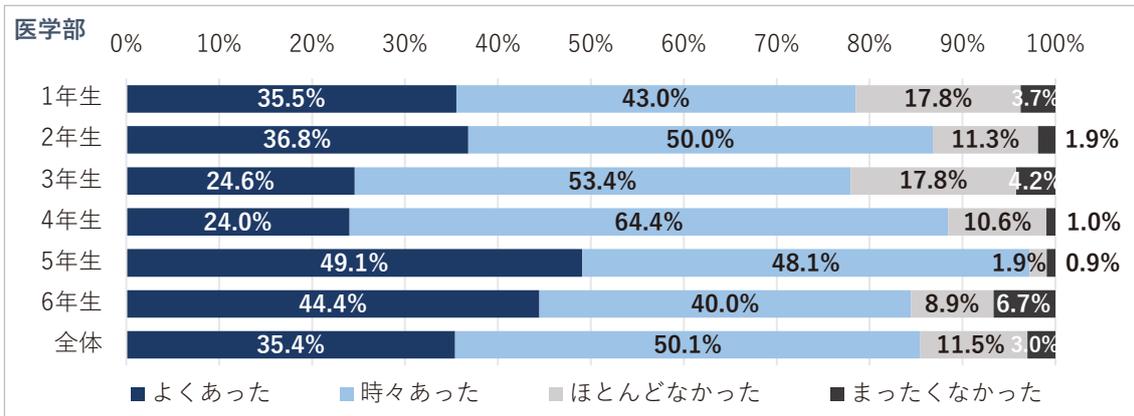
グループワークについては、割合が高い順に看護学部全体で 97.5%、医学部全体で 88.8%、薬学部全体で 76.8%が経験したと回答している。「よくあった」の回答の割合は、薬学部の1年生と看護学部の1・3年生で高い。

③「プレゼンテーション（個人またはグループでの発表）」



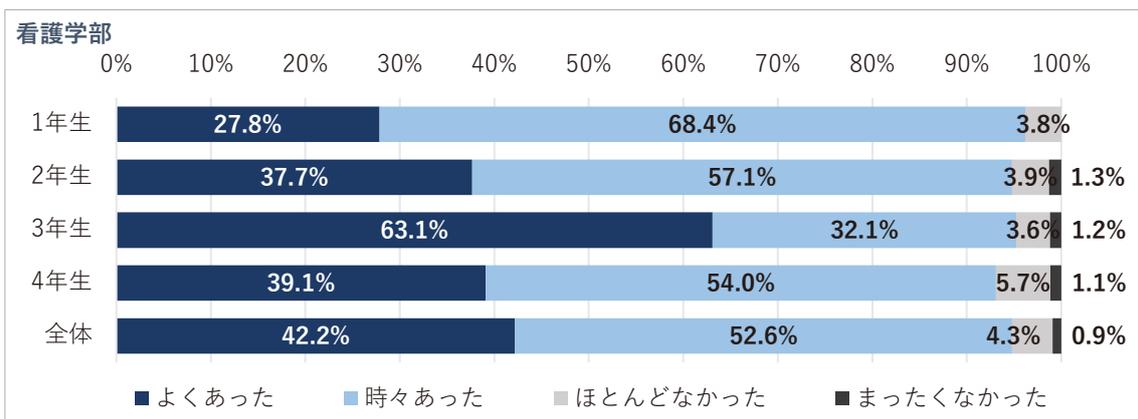
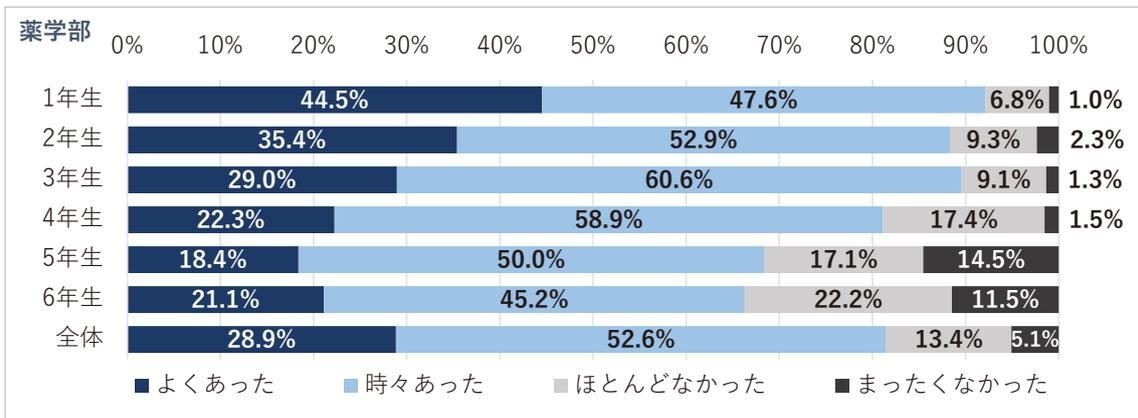
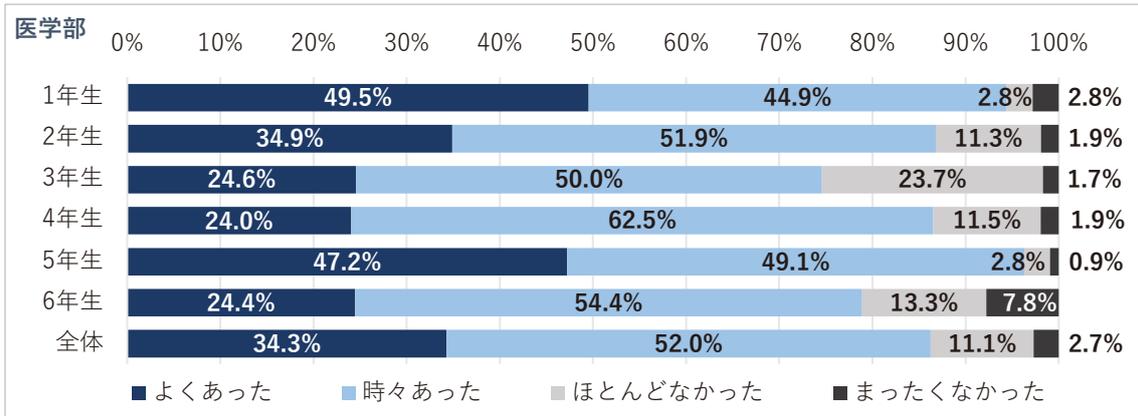
プレゼンテーションについては、割合が高い順に看護学部全体で95.1%、医学部全体で88.1%、薬学部全体で77.2%が経験したと回答している。「よくあった」の回答の割合は、医学部の5年生と薬学部の1年生、看護学部の3年生で高い。

④「実習、フィールドワーク（実習・臨床実習などの授業や学外に出向く授業など）」



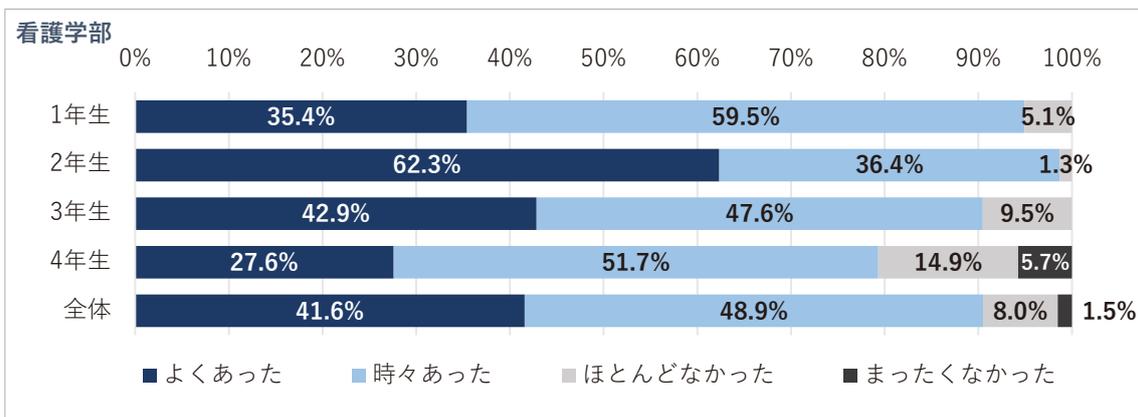
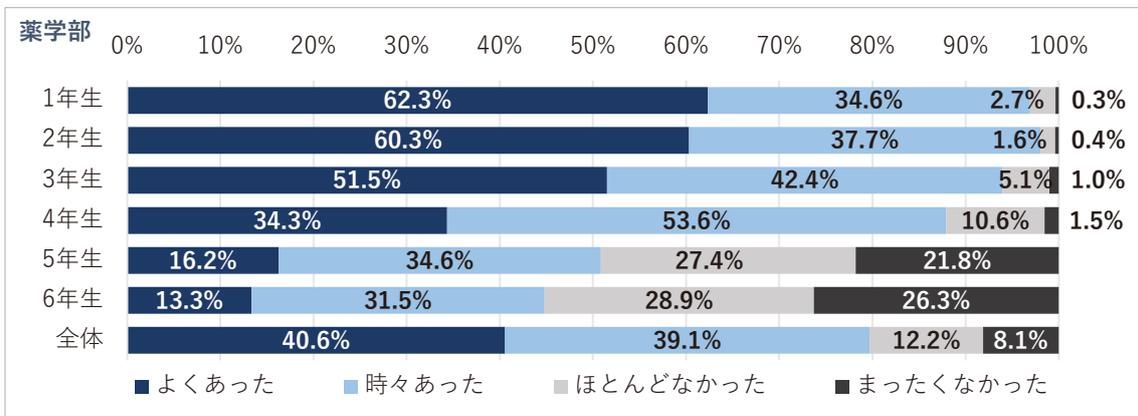
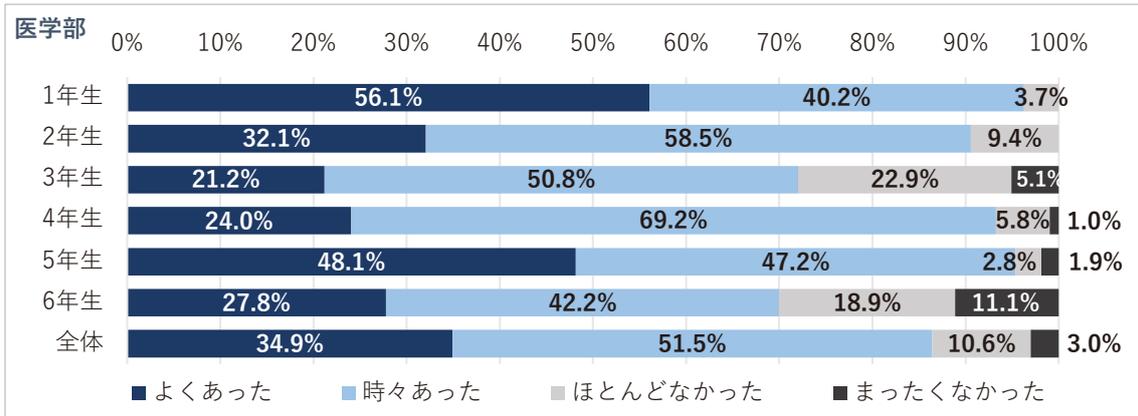
実習、フィールドワークについては、割合が高い順に看護学部全体で87.7%、医学部全体では85.5%、薬学部では全体の73.2%が経験したと回答している。「よくあった」の回答の割合は、医学部では5～6年生、薬学部は5年生、看護学部は3年生が高い。

⑤ 「予習・復習を行うことを前提とする授業が行われる」



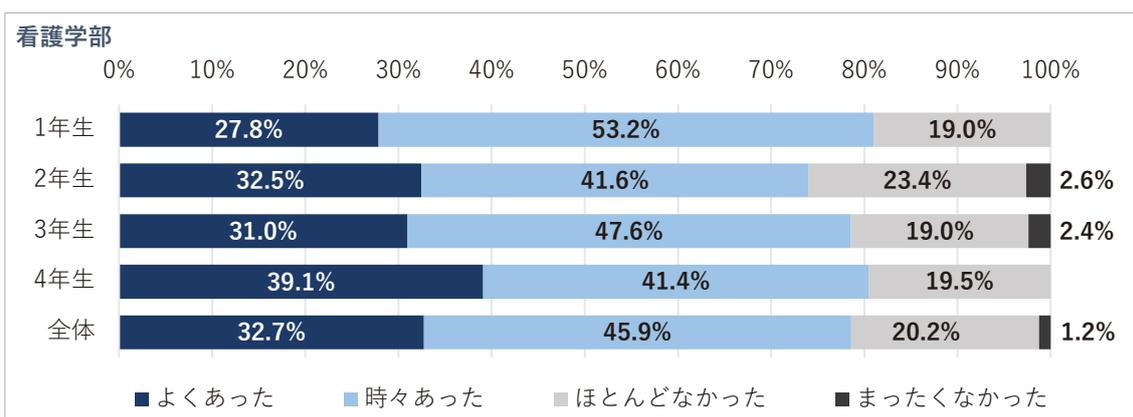
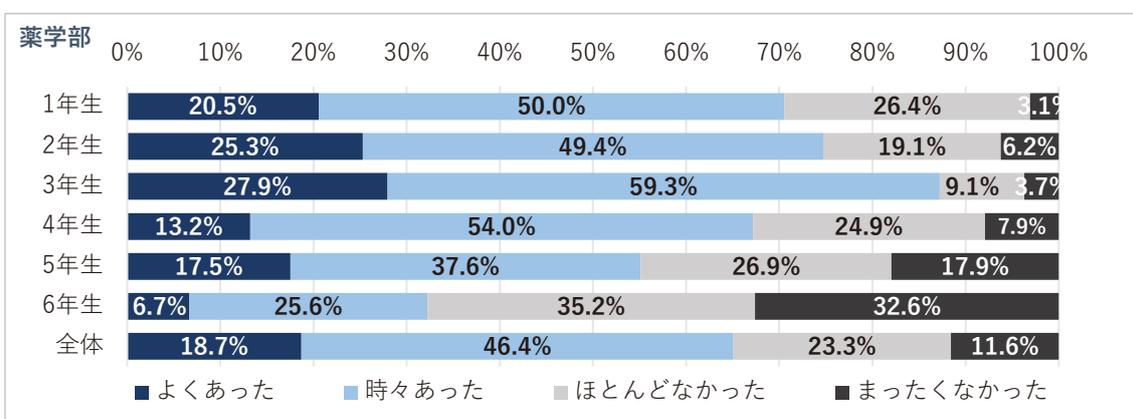
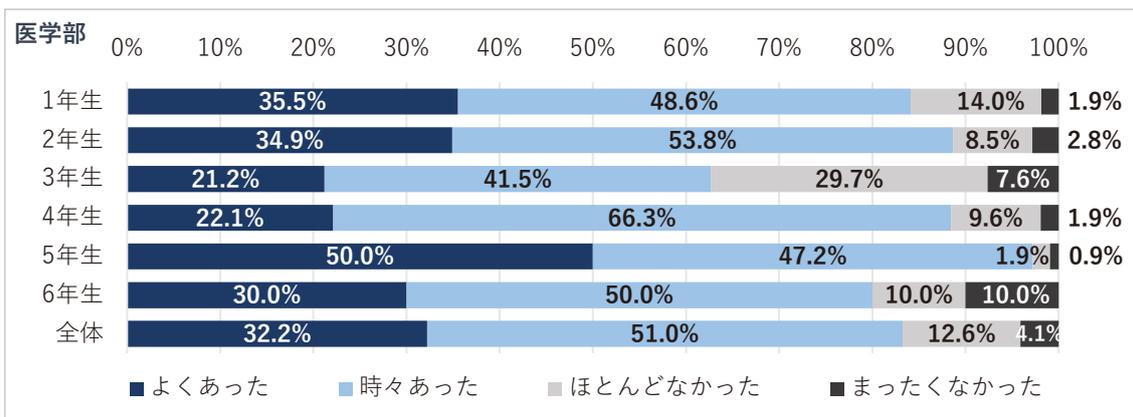
予習・復習を前提する授業については、割合が高い順に看護学部全体で 94.8%、医学部全体で 86.3%、薬学部全体で 81.5%が経験したと回答している。

⑥ 「定期的に小テストやレポートが課される」



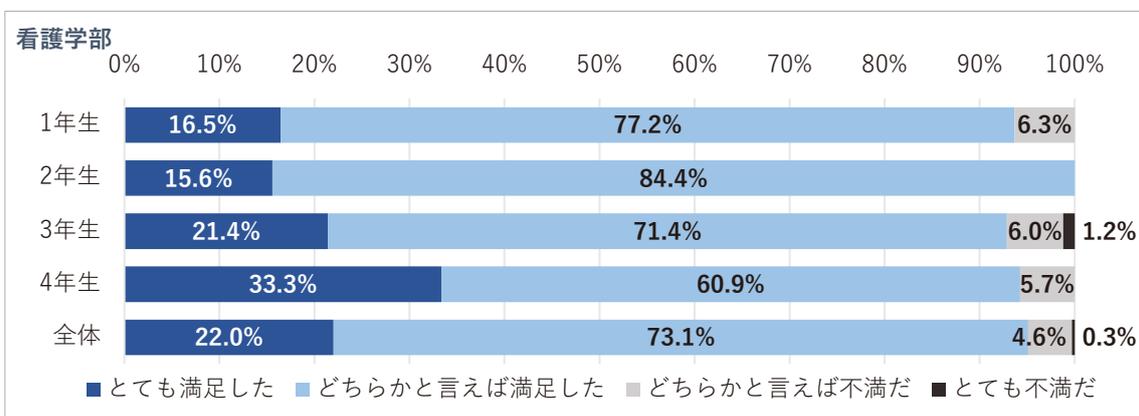
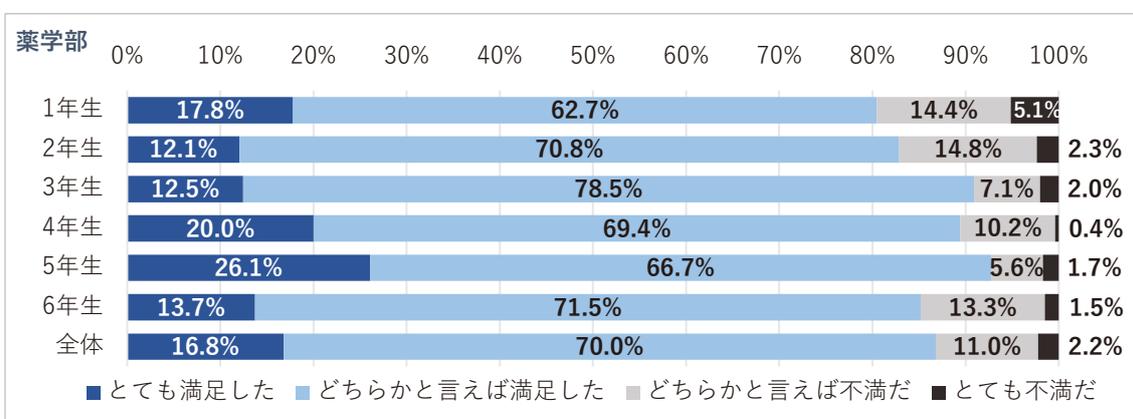
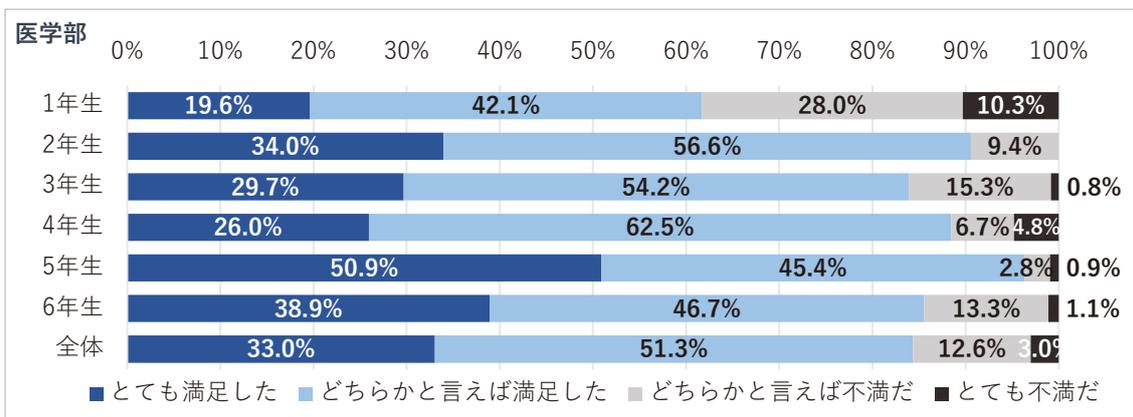
定期的に小テストやレポートが課される授業については、割合が高い順に看護学部全体で90.5%、医学部全体で86.4%、薬学部全体で79.7%が経験したと回答している。医学部の1・5年生、薬学部1～3年生と看護学部の2年生で「よくあった」の割合が高い。

⑦「レポート等提出物の添削と返却が行われる（教員からのフィードバックがある授業）」



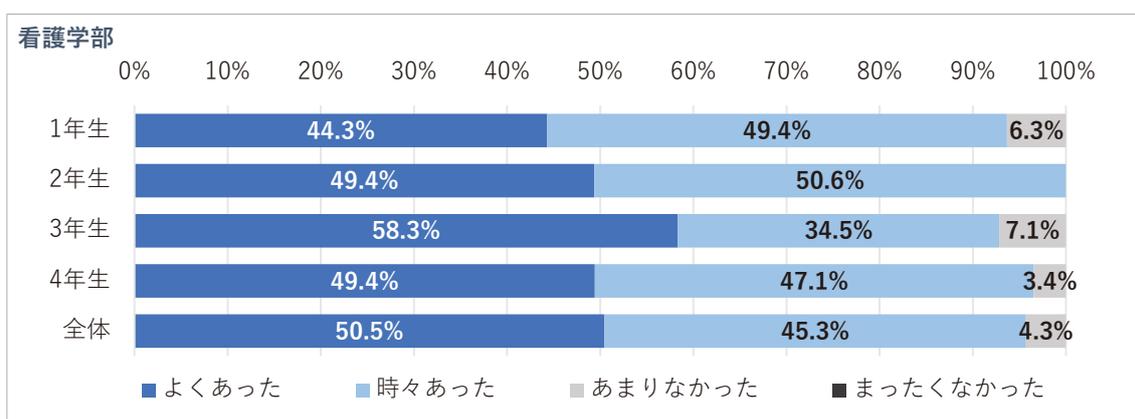
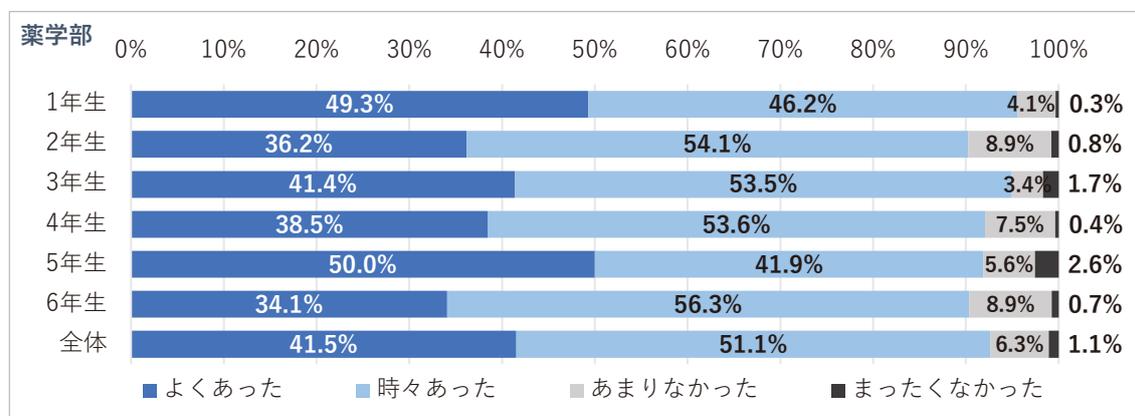
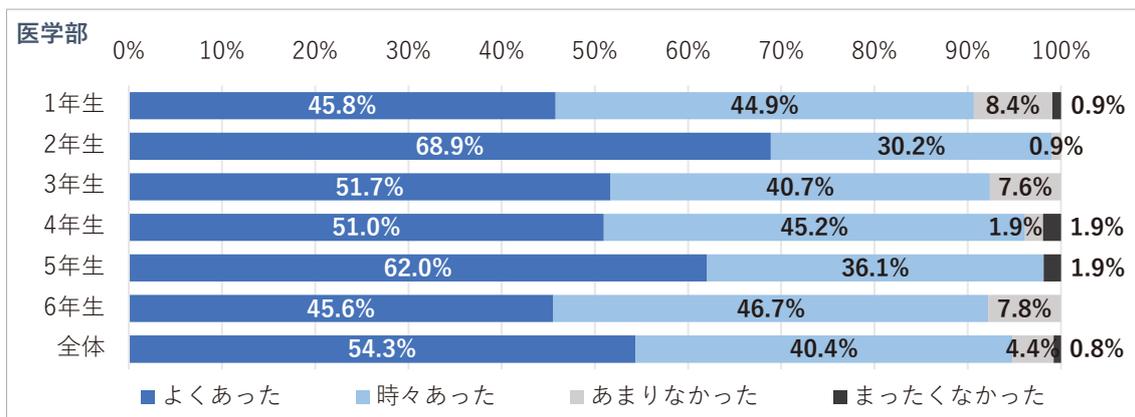
レポート等提出物の添削と返却が行われる授業については、割合が高い順に医学部全体の83.2%、看護学部全体の78.6%、薬学部全体の65.1%が経験したと回答している。

(3) 授業カリキュラムの満足度



授業カリキュラムの満足度を学部全体で見ると、「とても満足した」割合がもっとも高いのは医学部で 33.0%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると 84.3%が満足したと回答している。薬学部では「とても満足した」が 16.8%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると 86.8%が満足したと回答しており、看護学部では「とても満足した」が 22.0%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると 95.1%が満足したと回答している。

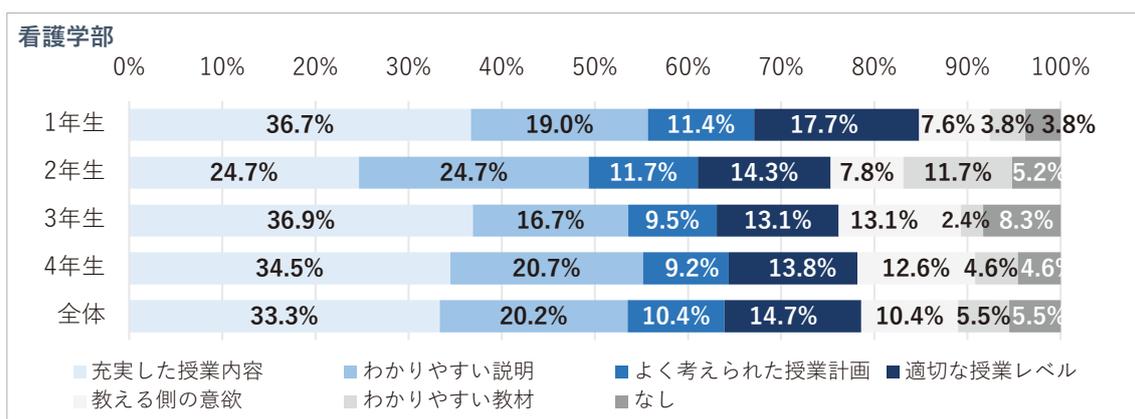
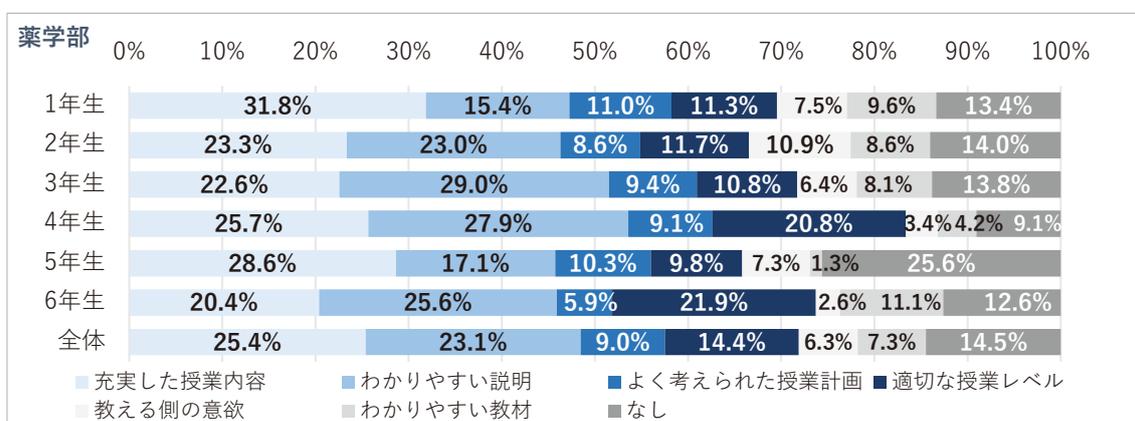
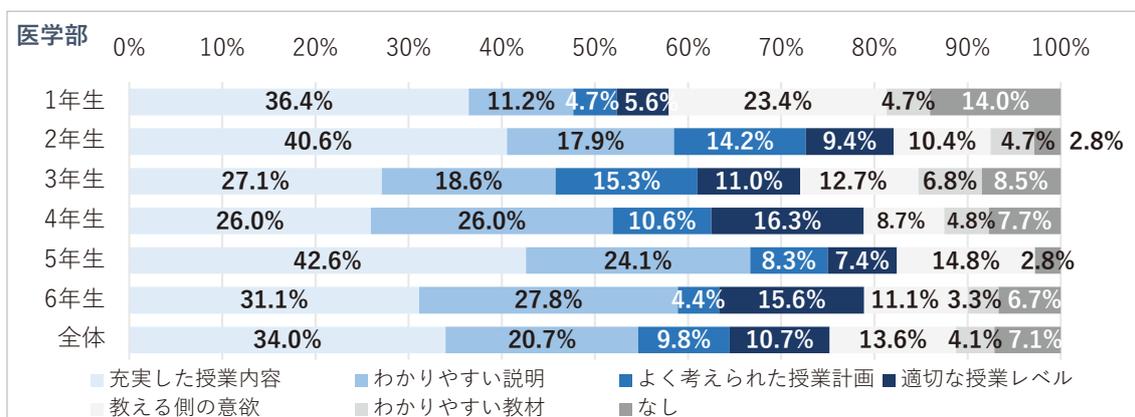
(4) 現在あるいは将来役立つような授業



現在あるいは将来役立つような授業について「よくあった」とする回答は、割合が高い順に医学部全体で 54.3%、看護学部全体で 50.5%、薬学部全体で 41.5%である。医学部、薬学部、看護学部とも 95%前後が役立つ授業があったと回答している。

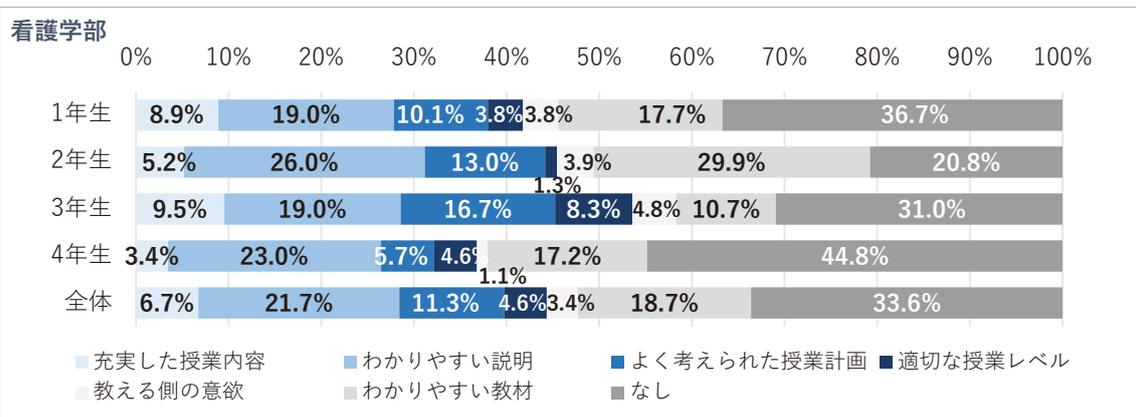
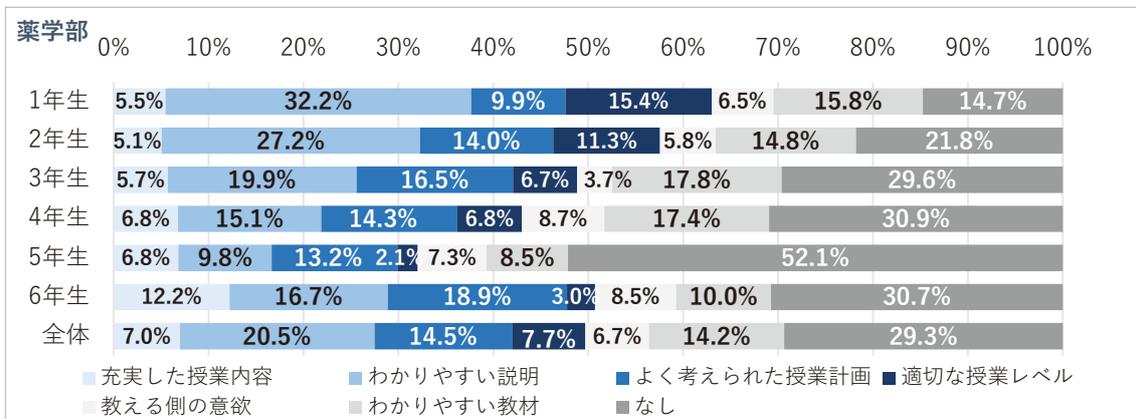
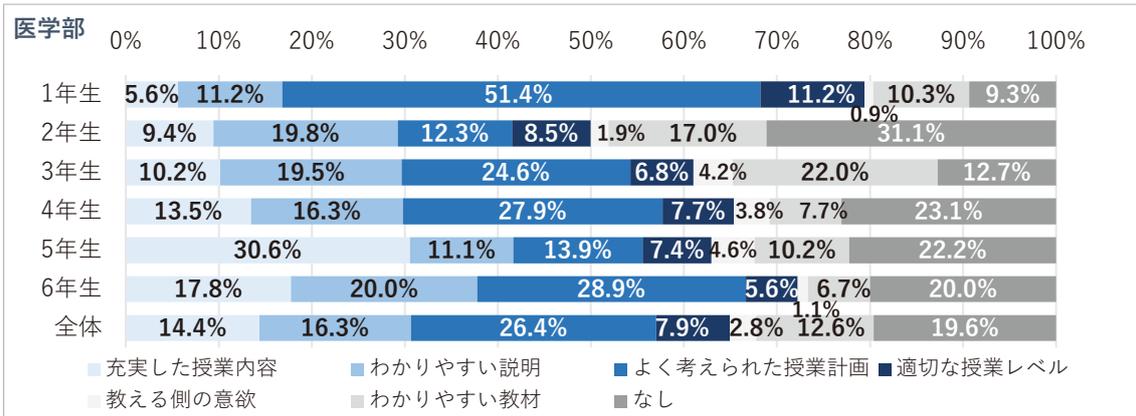
(5) 授業全般への評価

①「よかった」ところ



授業全般についてもっともよかったところについては、学部全体でみると医学部、薬学部、看護学部いずれも「充実した授業内容」と「わかりやすい説明」が上位であり、次いで薬学部、看護学部では「適切な授業レベル」、医学部では「教える側の意欲」が挙げられている。

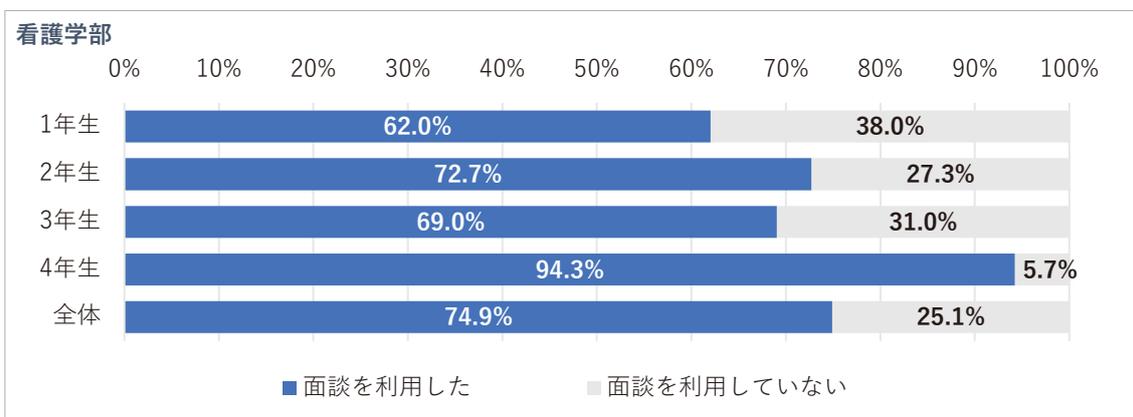
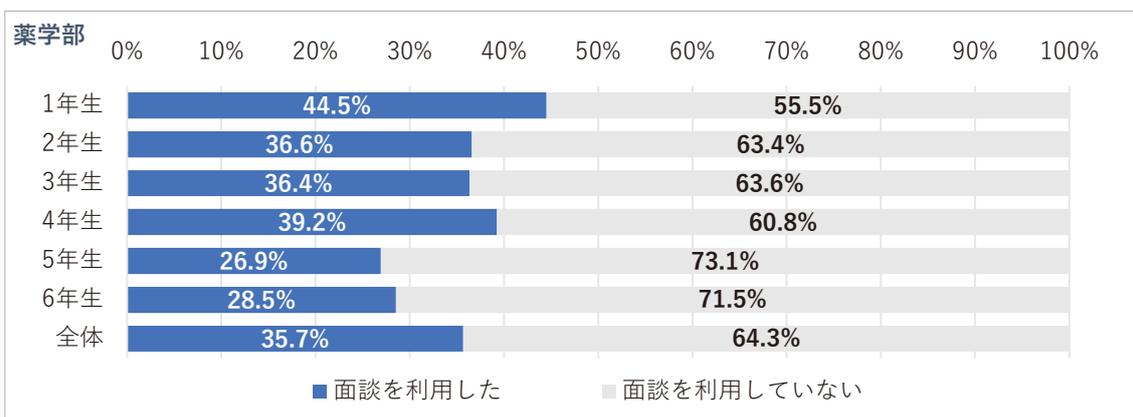
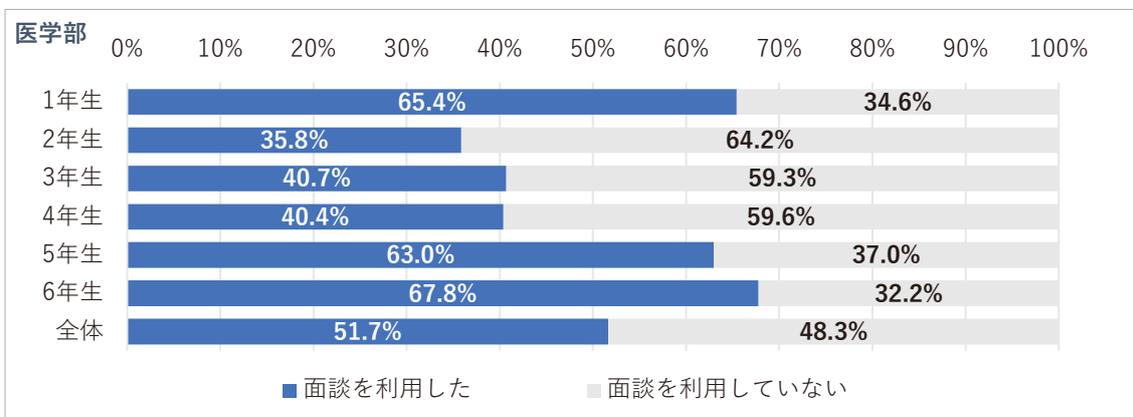
② 「欠けていた」 ところ



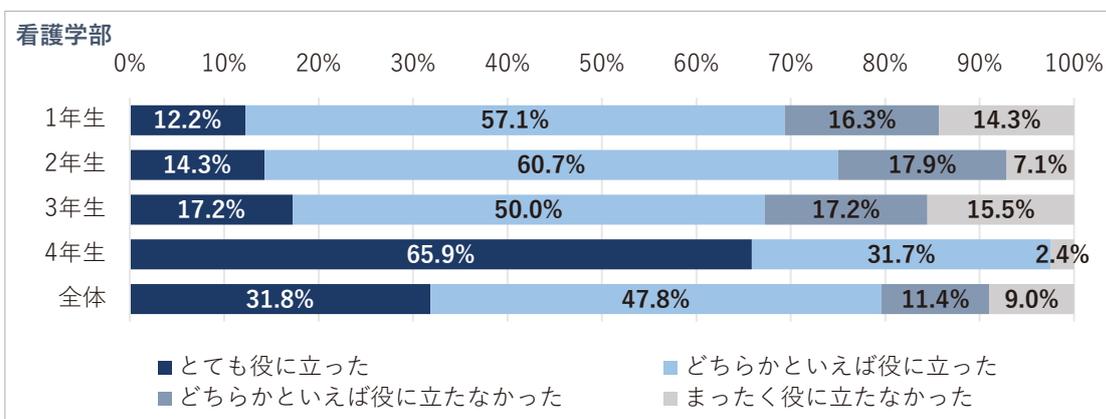
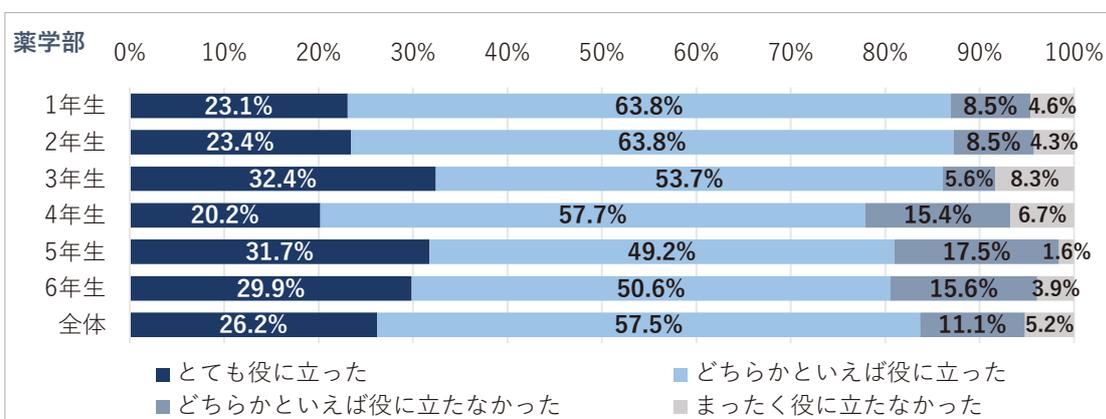
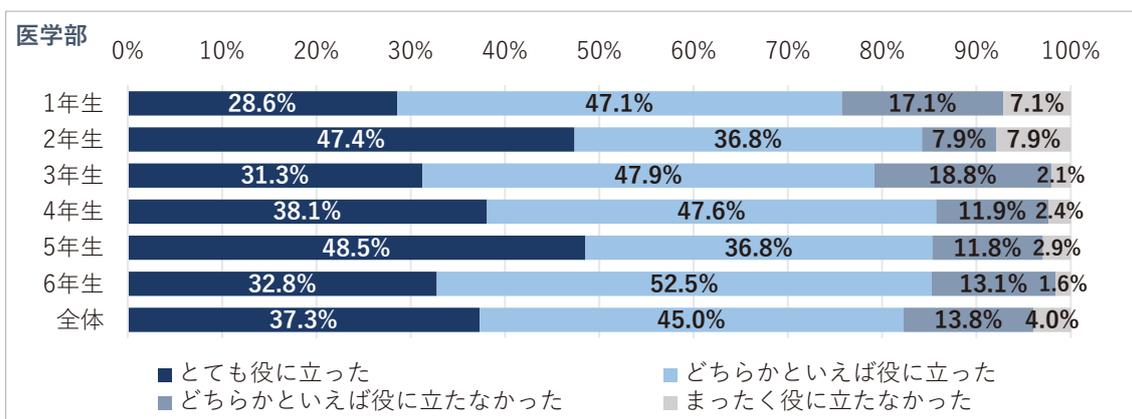
授業全般についてもっとも欠けていたところについては、学部全体でみると医学部では「よく考えられた授業計画」が、薬学部、看護学部では「わかりやすい説明」と回答した割合がもっとも高い。一方、欠けていたところがないとする回答は、割合が高い順に看護学部全体で 33.6%、薬学部全体で 29.3%、医学部全体で 19.6%である。

3. 教員※との面談 ※ 医学部：担任・メンター教員，薬学部：アドバイザー教員，看護学部：チューター教員

(1) 面談の利用



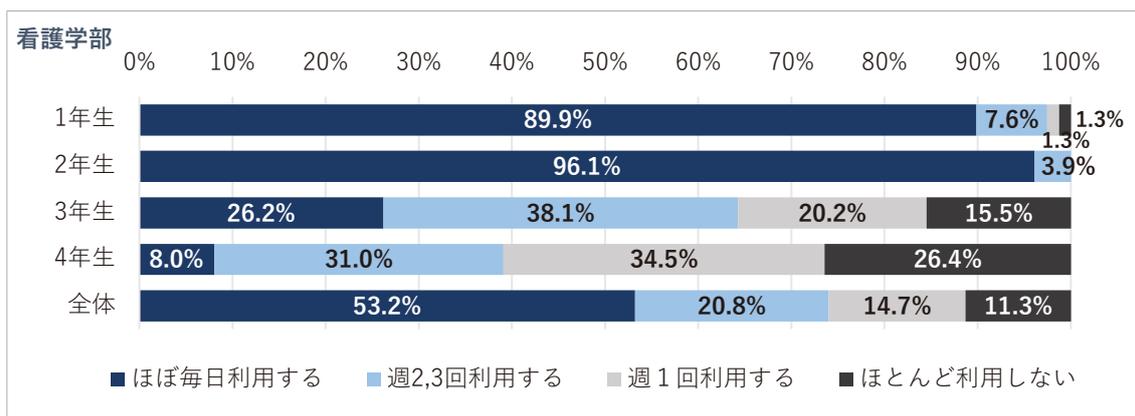
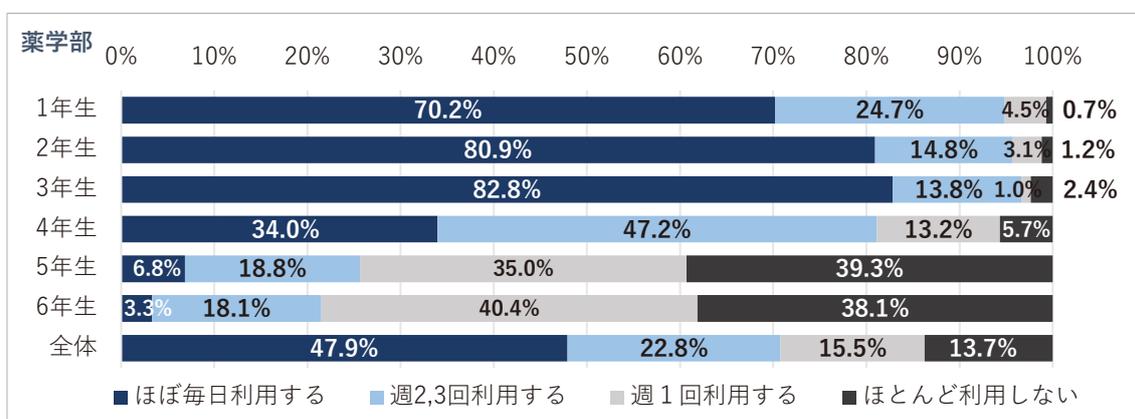
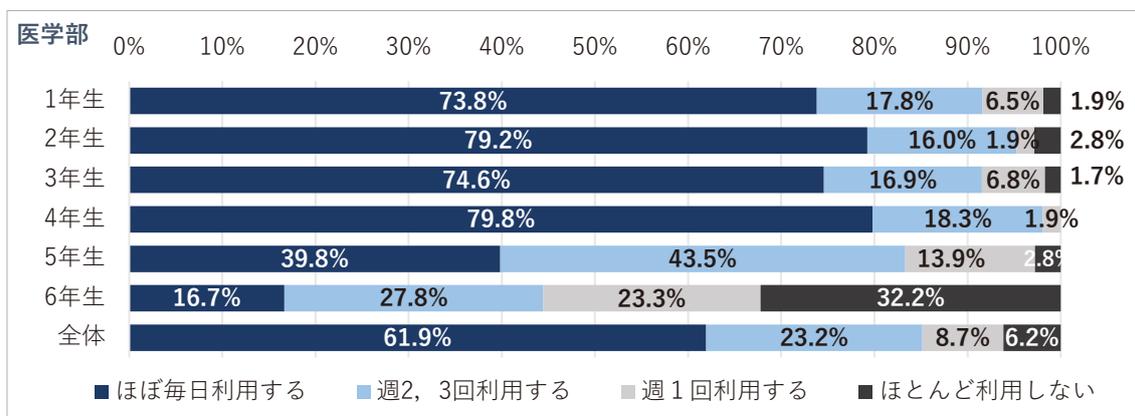
(2) 面談に対する評価



教員との面談を利用した学生は、割合が高い順に看護学部全体で74.9%、医学部全体で51.7%、薬学部全体で35.7%である。面談を利用した学生の評価をみると、医学部、薬学部、看護学部とも役に立ったとする回答が80%程度である。「とても役に立った」とする回答は、割合が高い順に医学部全体で37.3%、看護学部全体で31.8%、薬学部全体で26.2%である。学年別では看護学部の4年生と医学部の2・5年生で「とても役に立った」の割合が高い。

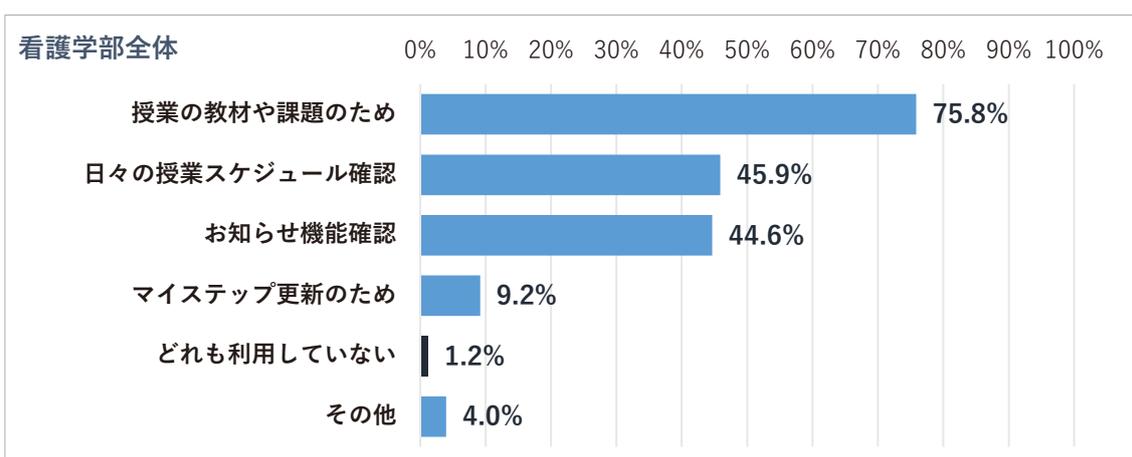
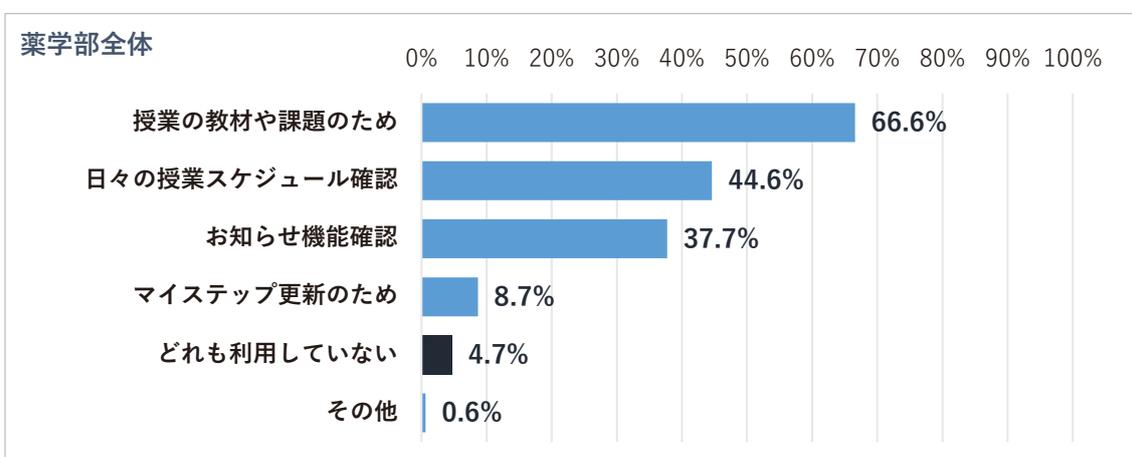
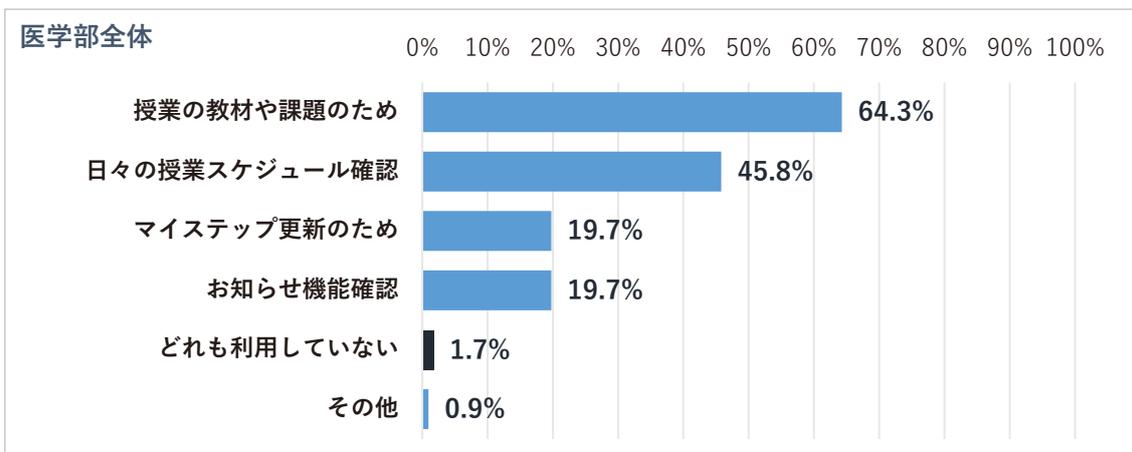
4. UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA) の利用

(1) 今年度の利用状況



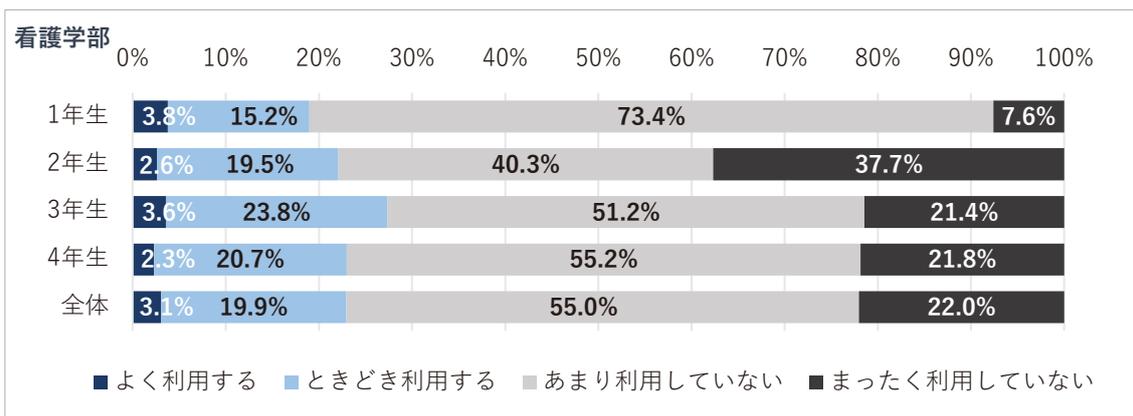
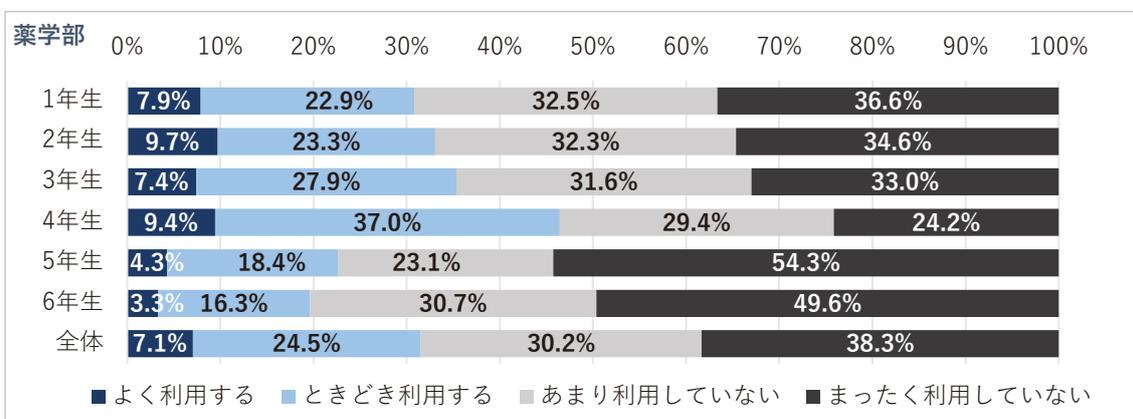
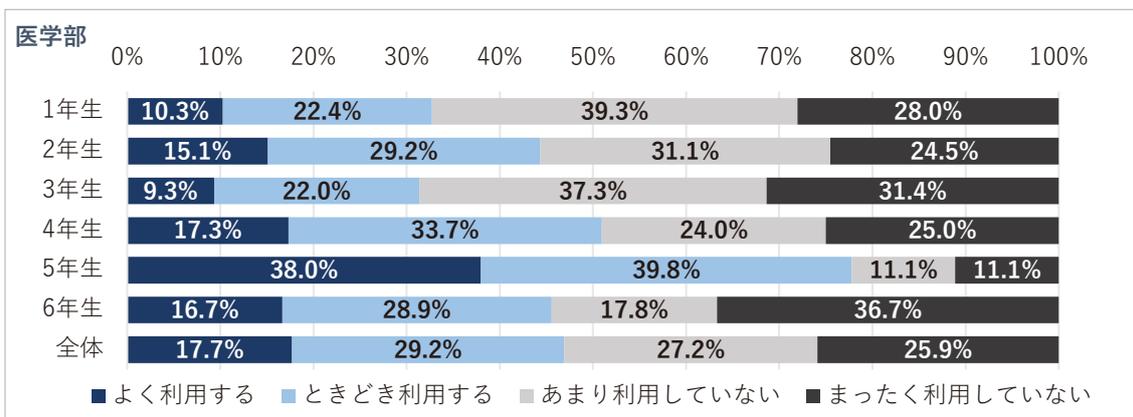
UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA) の利用について「ほぼ毎日利用する」学生は、割合が高い順に医学部全体で 61.9%、看護学部全体で 53.2%、薬学部全体で 47.9% である。ただし、医学部、薬学部、看護学部とも学年によって利用頻度に差があり、医学部では 1～4 年生、薬学部では 1～3 年生、看護学部では 1～2 年生で比較的使用する頻度が高い。

(2) UNIPA の利用目的



UNIPA の利用目的をみると、医学部、薬学部、看護学部とも「授業の教材や課題のため」、「日々の授業スケジュール確認」の順で高く、薬学部、看護学部は「お知らせ機能の確認」、医学部は「マイステップ更新のため」が次に高い。

(3) UNIPA「マイステップ」の利用状況

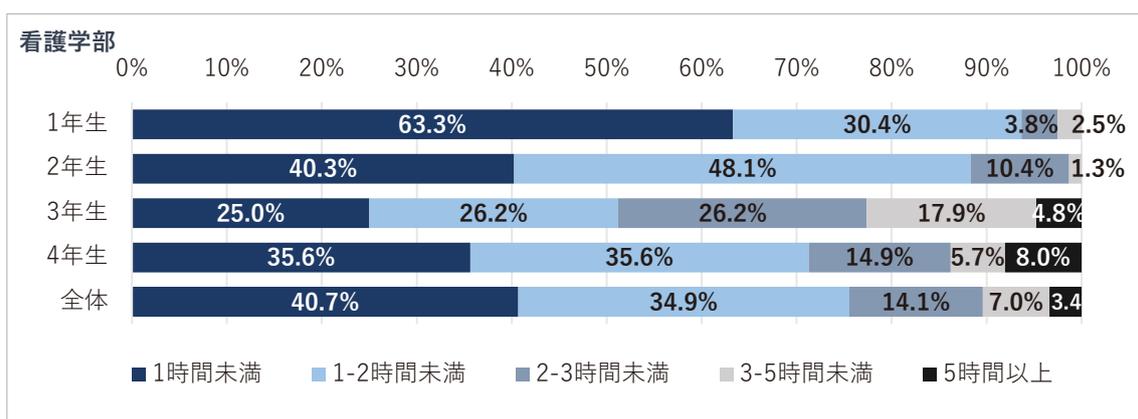
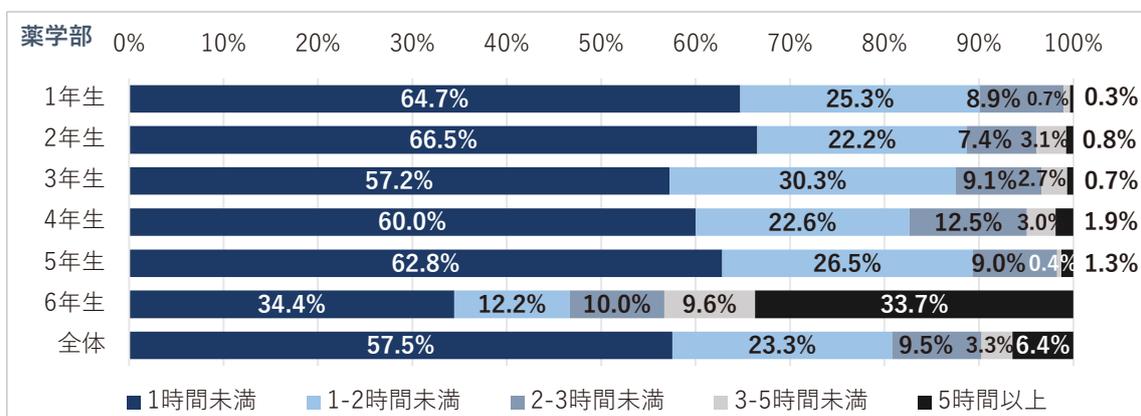
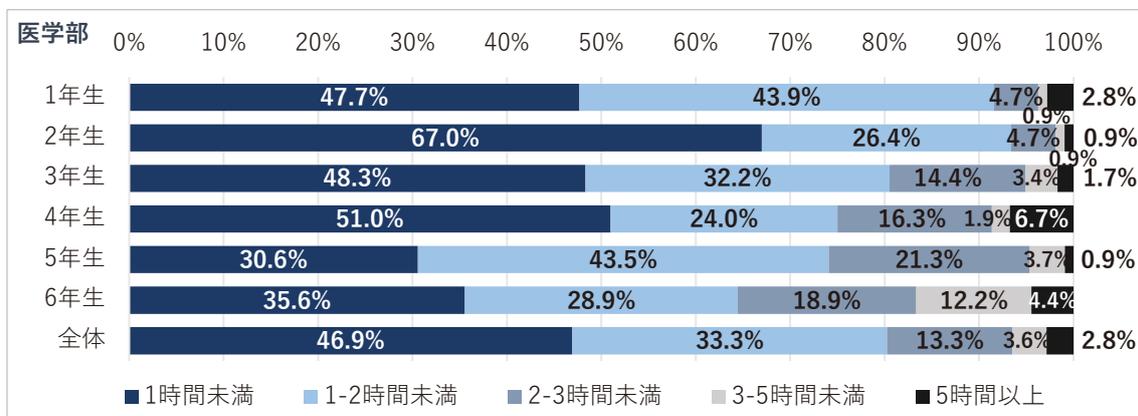


UNIPA「マイステップ」を比較的に利用している学生は、割合が高い順に医学部全体で46.9%、薬学部全体で31.6%、看護学部全体では23.0%である。

5. 授業外学習

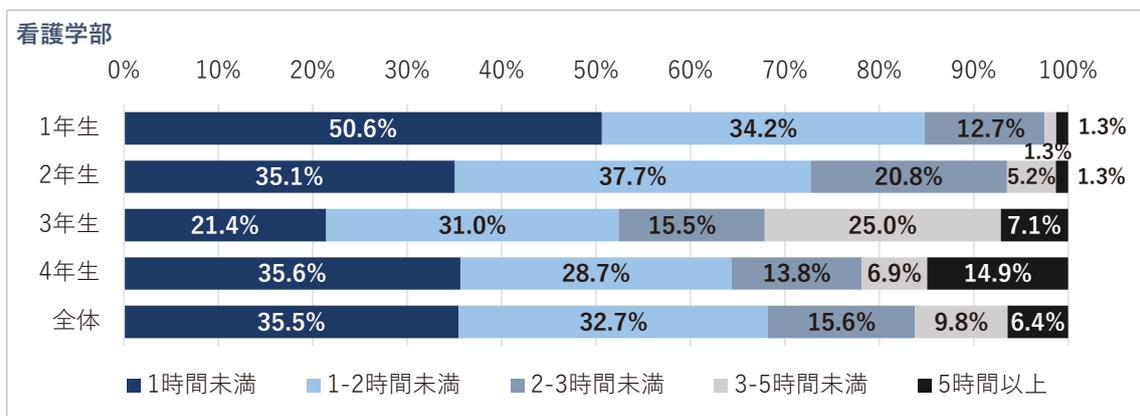
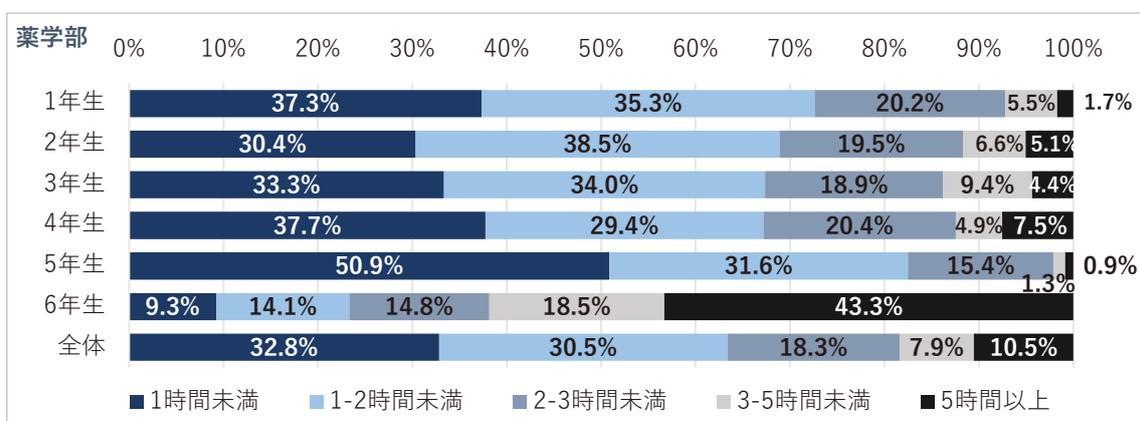
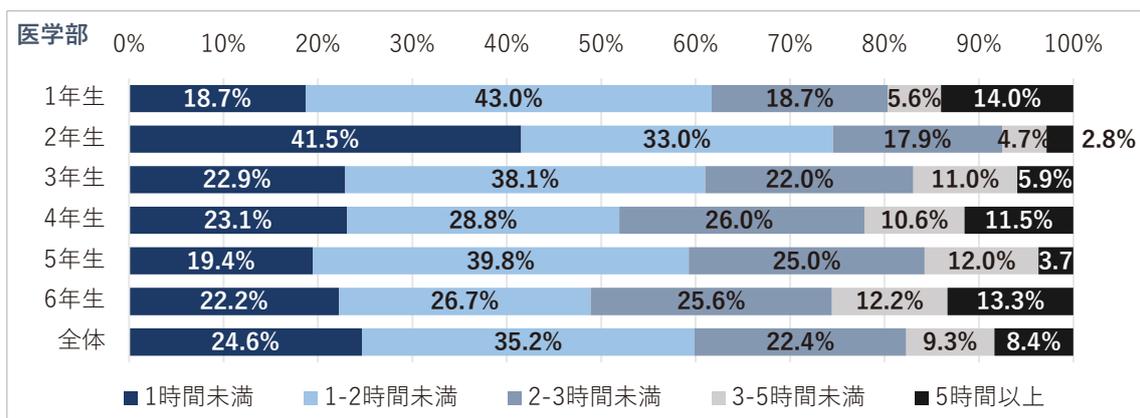
(1) 予習・復習時間

① 平均的な1日あたりの予習時間



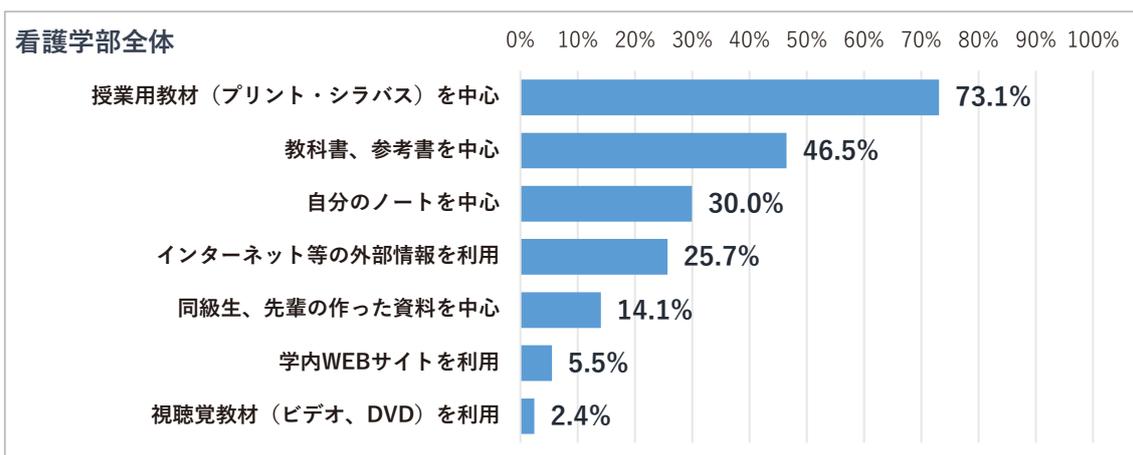
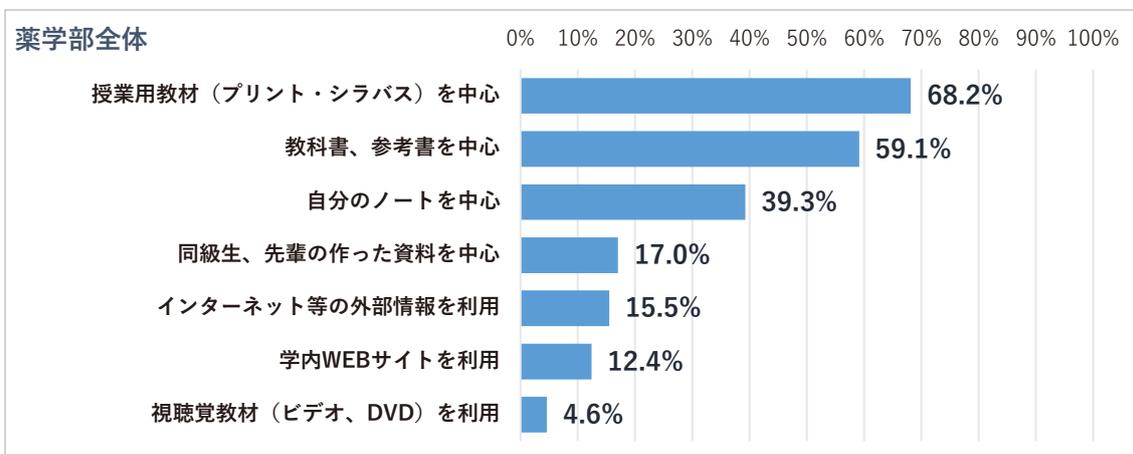
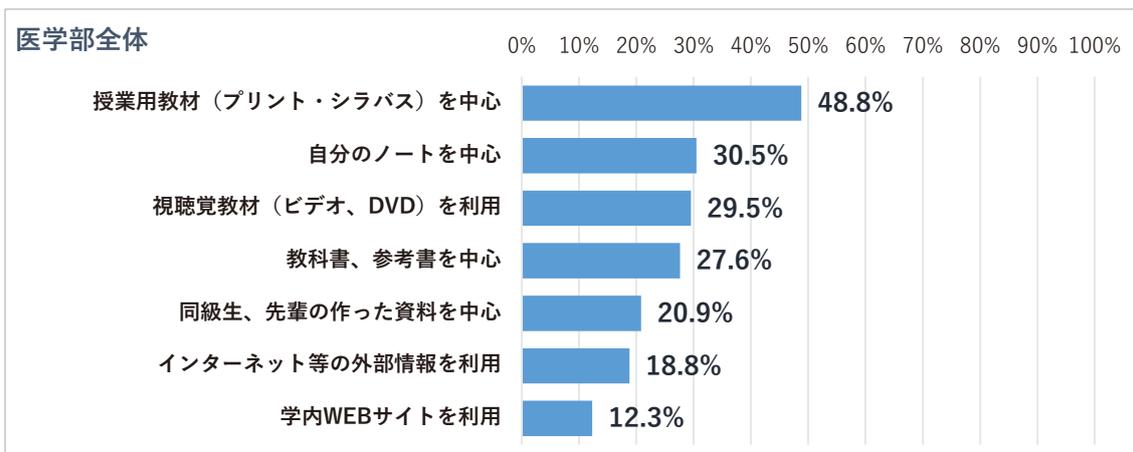
1日あたりの予習時間について、3学部共通でもっとも割合が高いのは「1時間未満」であり、医学部で46.9%、薬学部で57.5%、看護学部で40.7%である。学部別に予習時間「5時間以上」についてみると、割合が高い順に薬学部6年生33.7%、看護学部4年生8.0%、医学部4年生6.7%である。

② 平均的な1日あたりの復習時間



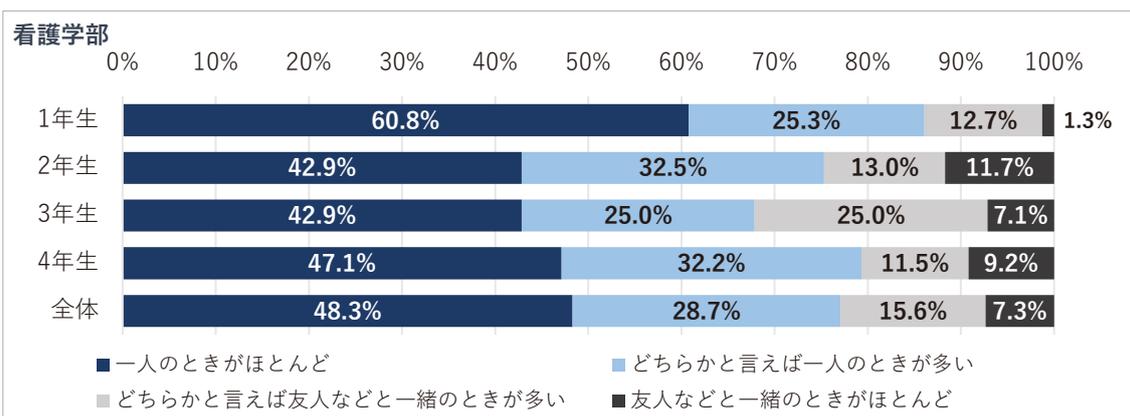
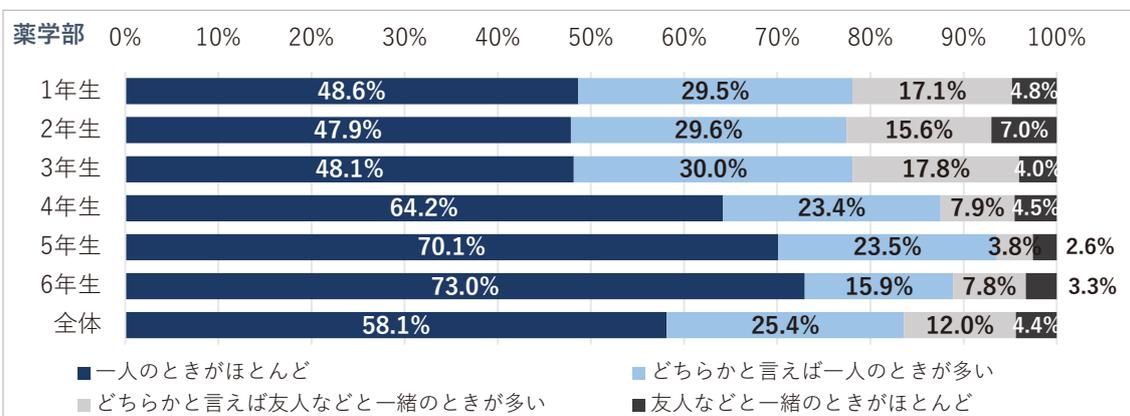
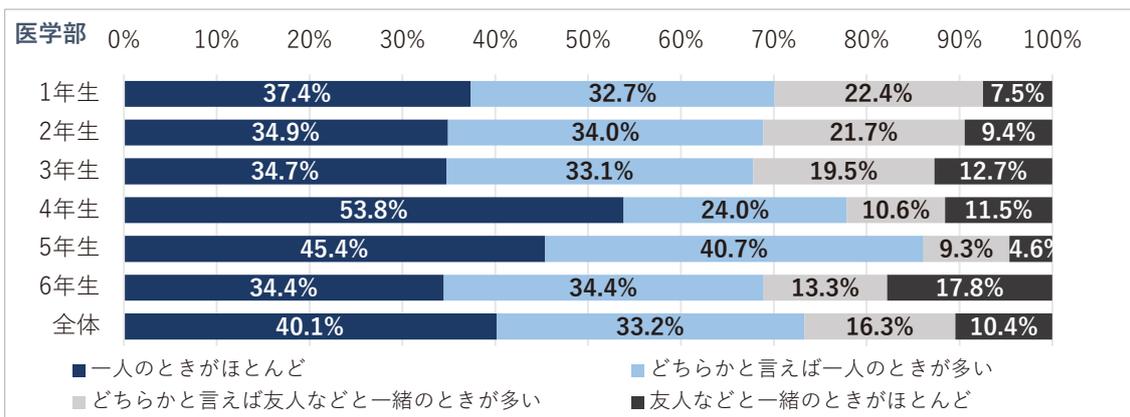
復習時間についてもっとも割合が高いのは、薬学部全体と看護学全体では「1時間未満」で32%から35%程度、医学部全体では「1-2時間未満」の35.2%である。学部別に復習時間「5時間以上」についてみると、割合が高い順に薬学部6年生で43.3%、看護学部4年生で14.9%、医学部1年生で14.0%である。医学部、薬学部、看護学部とも学部全体としては、予習時間より復習時間の方が長い。

(2) 授業以外の学習方法



授業以外の学習方法については、医学部、薬学部、看護学部とも「授業用教材（プリント・シラバス）」がもっともよく利用されており、つづいて「教科書、参考書」と「自分のノート」がよく利用されている。ただし、医学部では「視聴覚教材（ビデオ、DVD）」が利用の上位である。

(3) 授業以外で学習する相手の有無

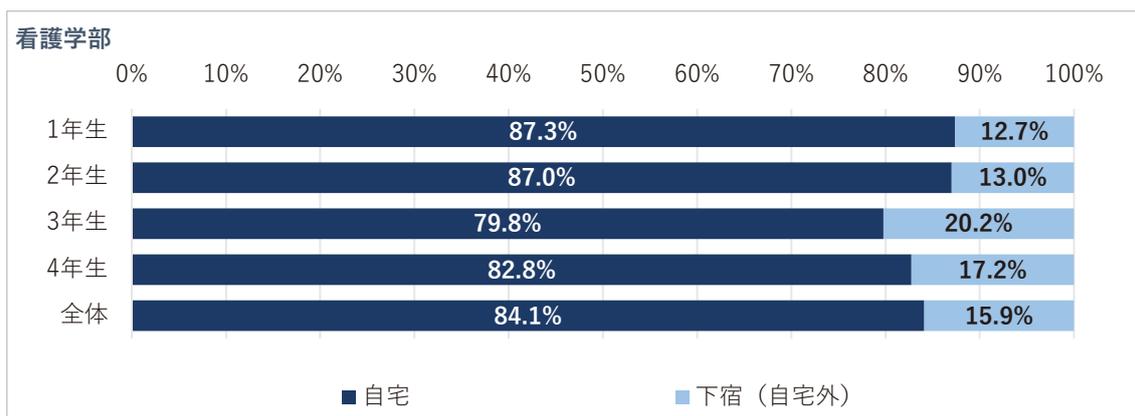
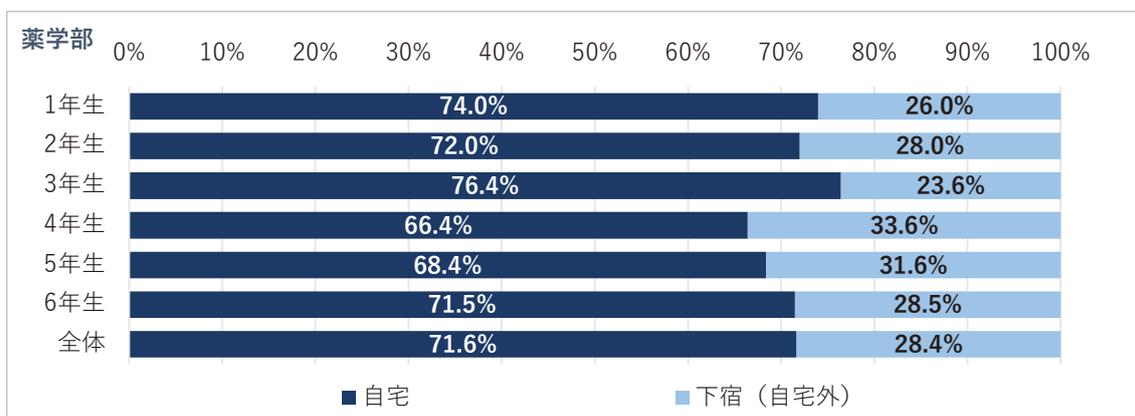
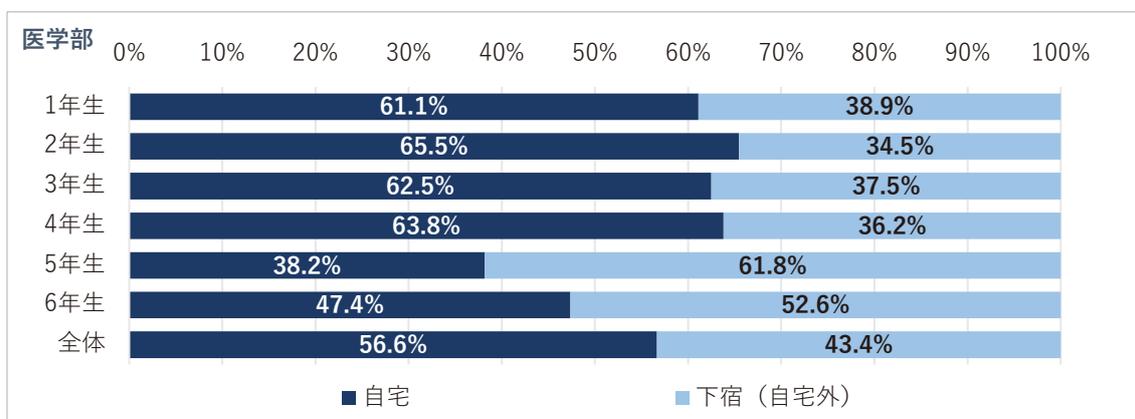


授業以外で学習する相手について、もっとも割合が高いのは「一人のときがほとんど」であり、割合が高い順に薬学部全体で 58.1%、看護学部全体で 48.3%、医学部全体で 40.1%である。薬学部全体では「どちらかと言えば一人のときが多い」とあわせると 83.5%である。友人と一緒に学習する割合は医学部がもっとも高い。

II. 学生生活

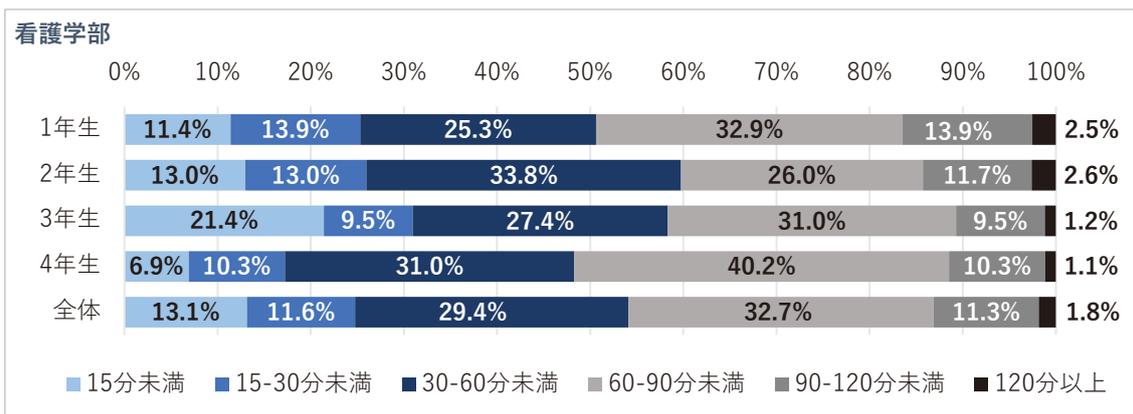
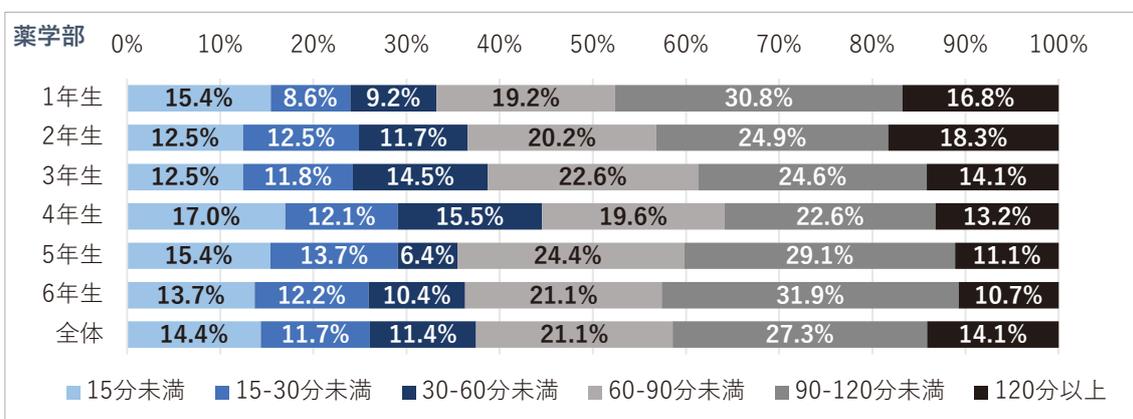
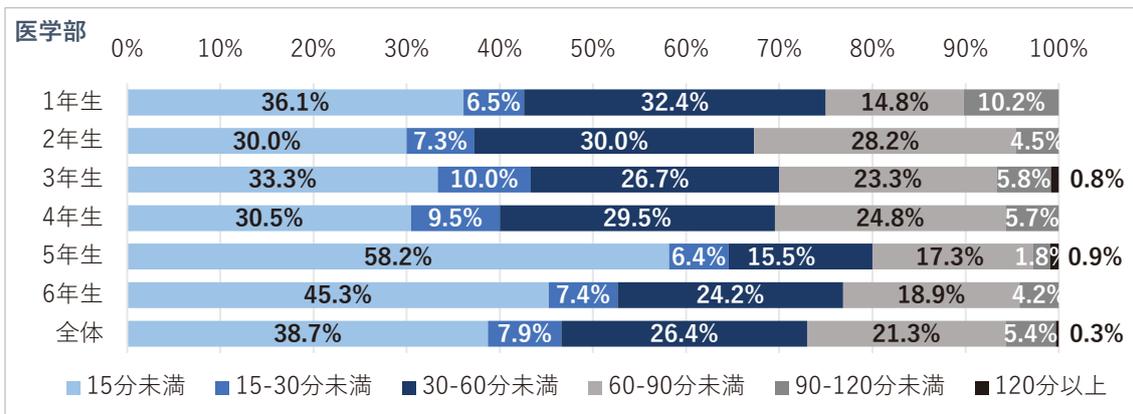
1. 居住と通学

(1) 現在の住居



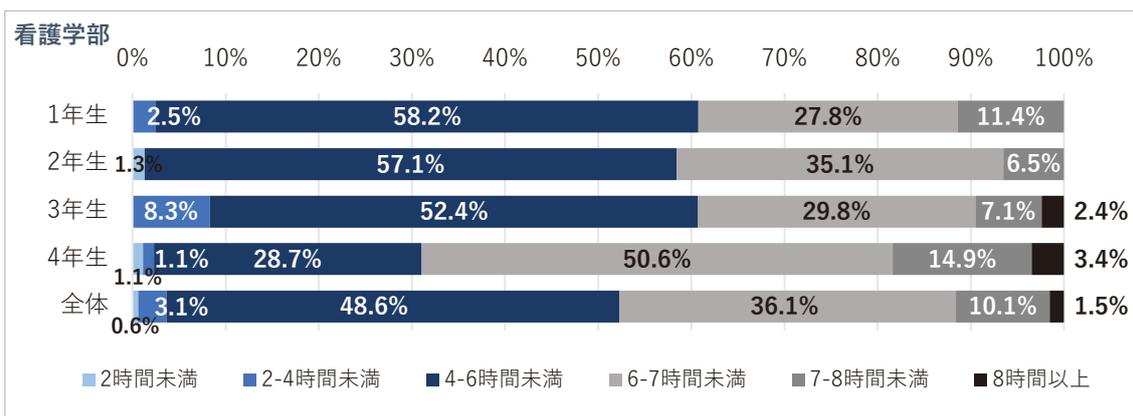
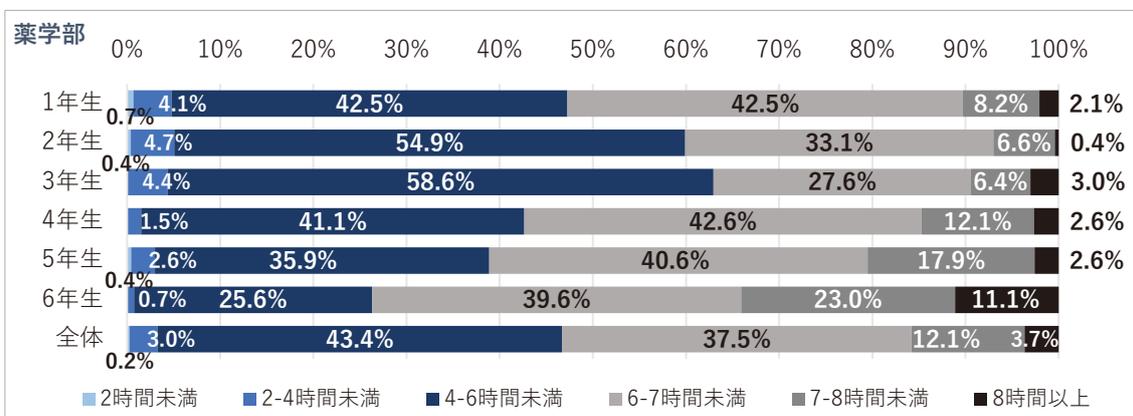
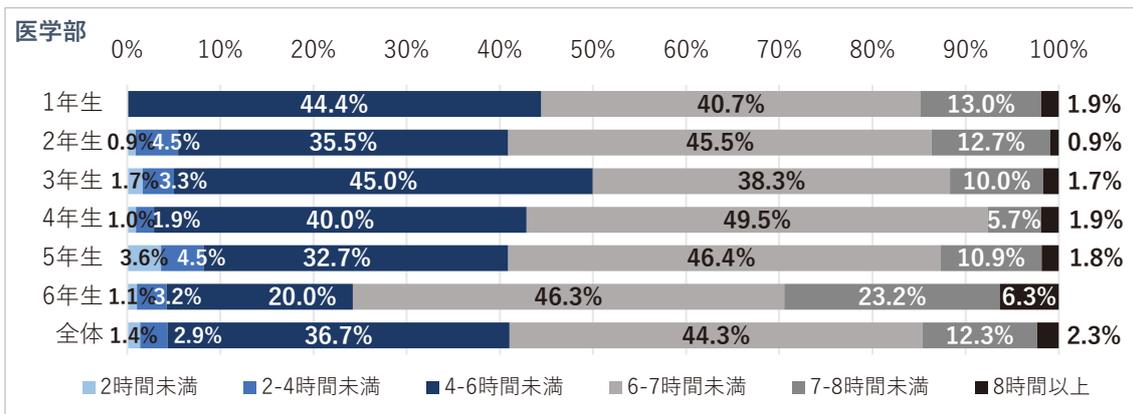
現在の住居について「自宅」を回答した学生は、割合が高い順に看護学部全体で84.1%、薬学部全体で71.6%、医学部全体で56.6%である。下宿率は医学部が高い。

(2) 通学時間（片道）



通学時間についての割合が高い回答は、医学部全体では「15分未満」が38.7%、薬学部全体では「90-120分未満」が27.3%、看護学部全体では「60-90分未満」32.7%である。

2. 睡眠時間

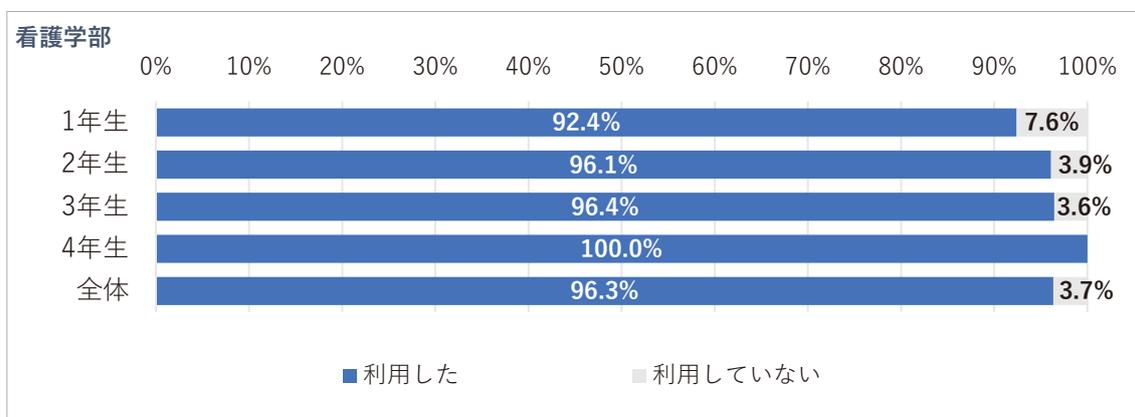
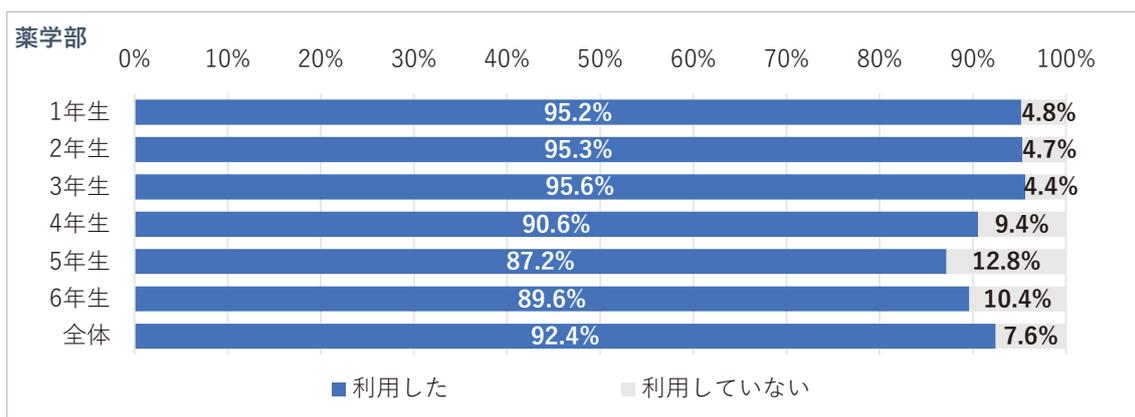
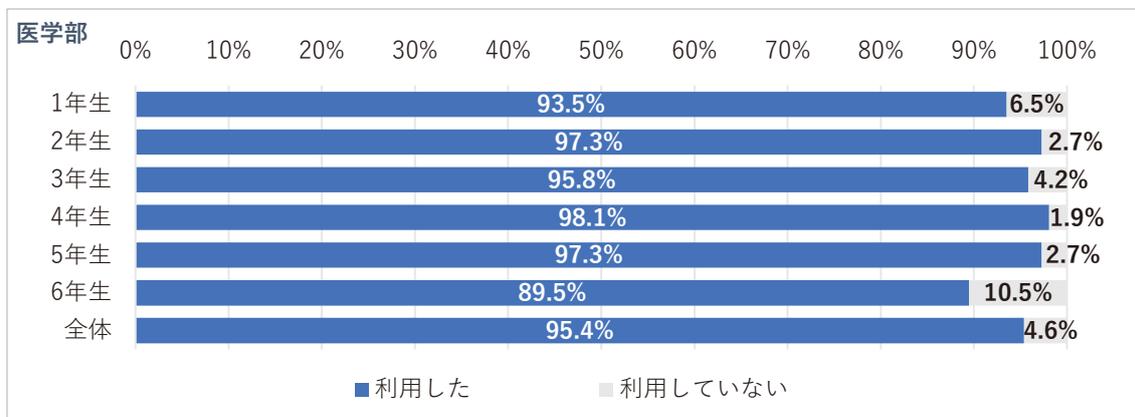


睡眠 6 時間以上の学生は、医学部全体では 58.9%、薬学部全体では 53.3%、看護学部全体では 47.7%である。学年別にみると、医学部、薬学部、看護学部とも最終学年で睡眠時間 6 時間以上の割合が高い。

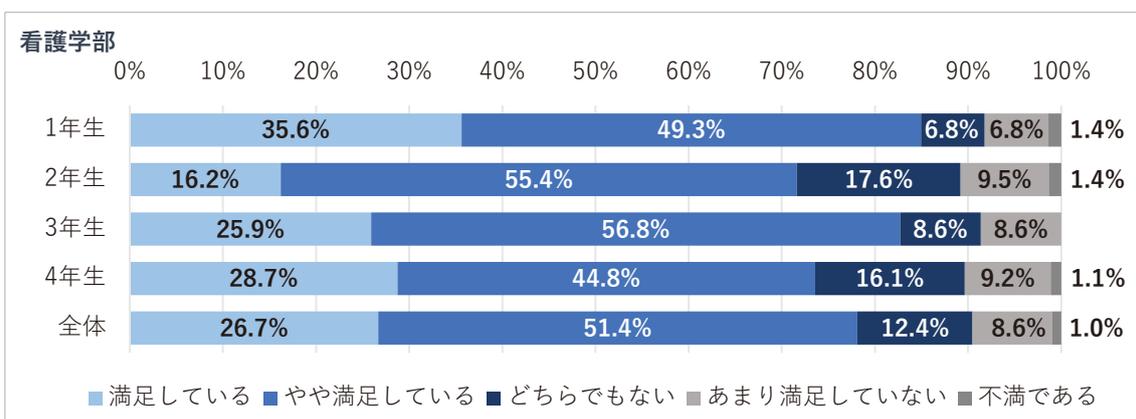
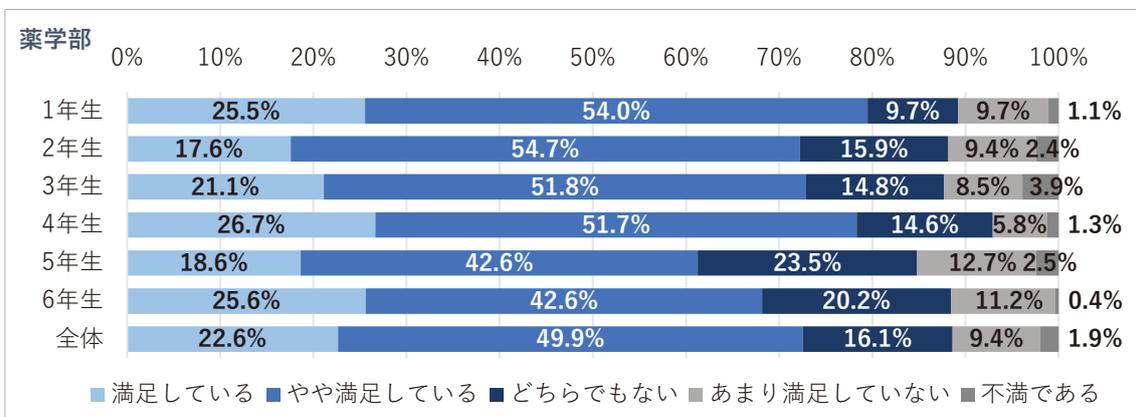
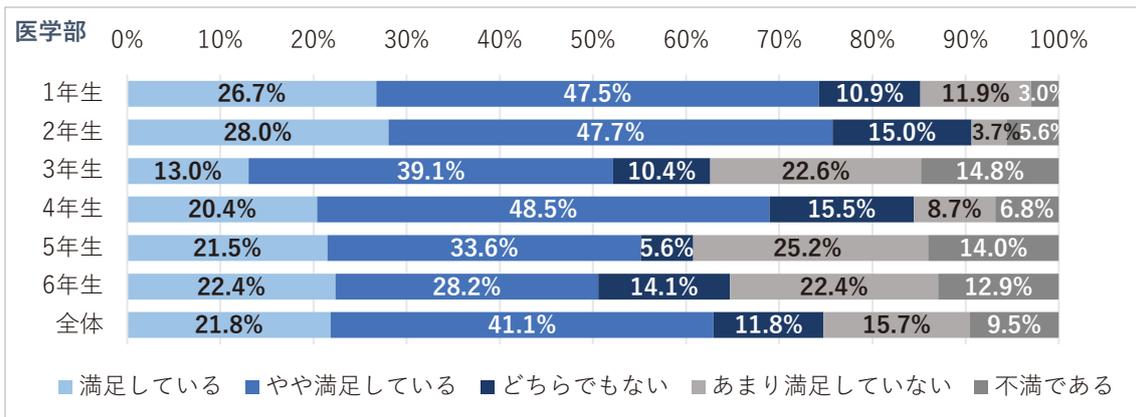
3. 学内施設・支援の利用状況と満足度

(1) 図書館、自学自習室、共用スペースなどの学習支援施設

施設の利用



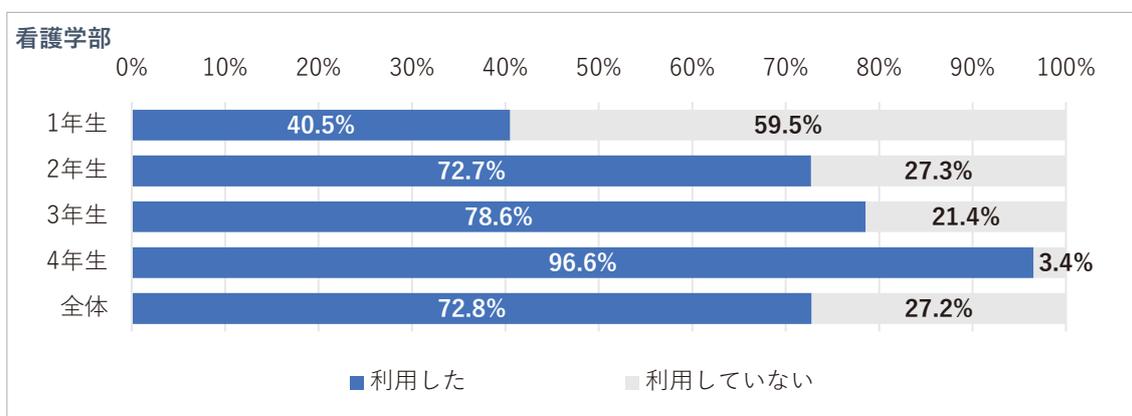
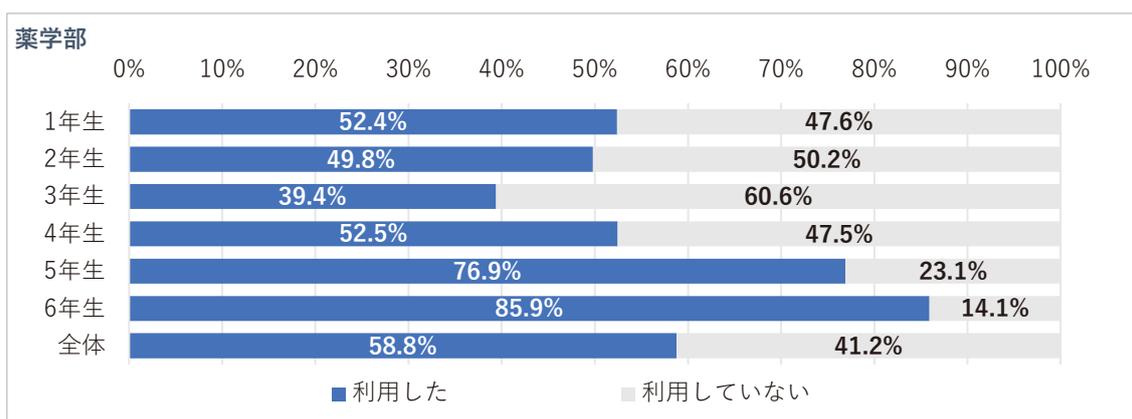
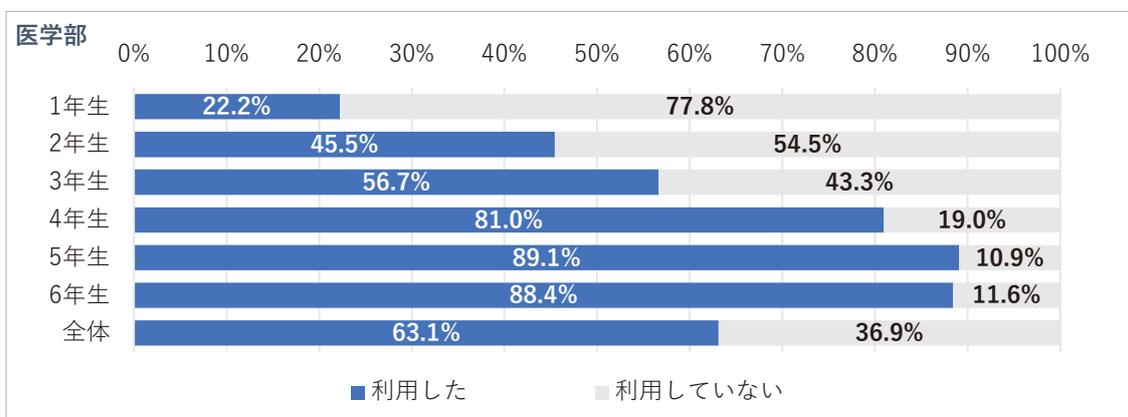
学習支援施設を利用した学生の満足度



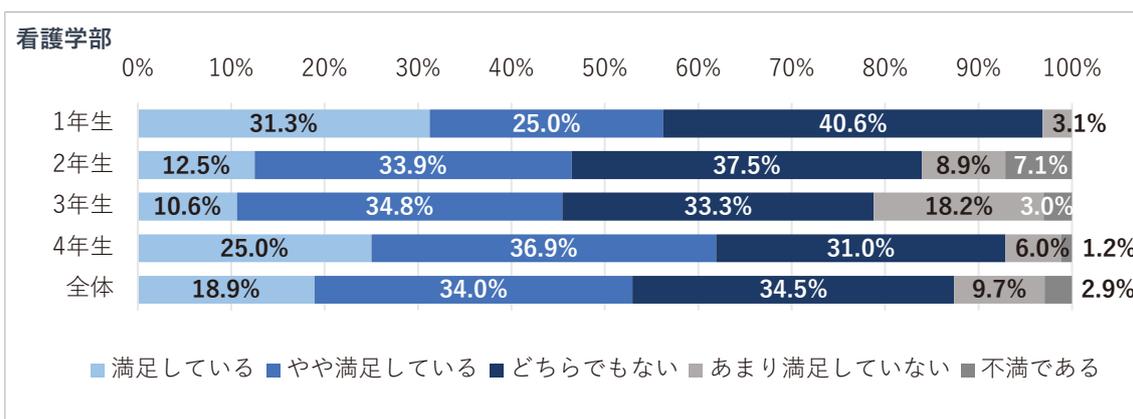
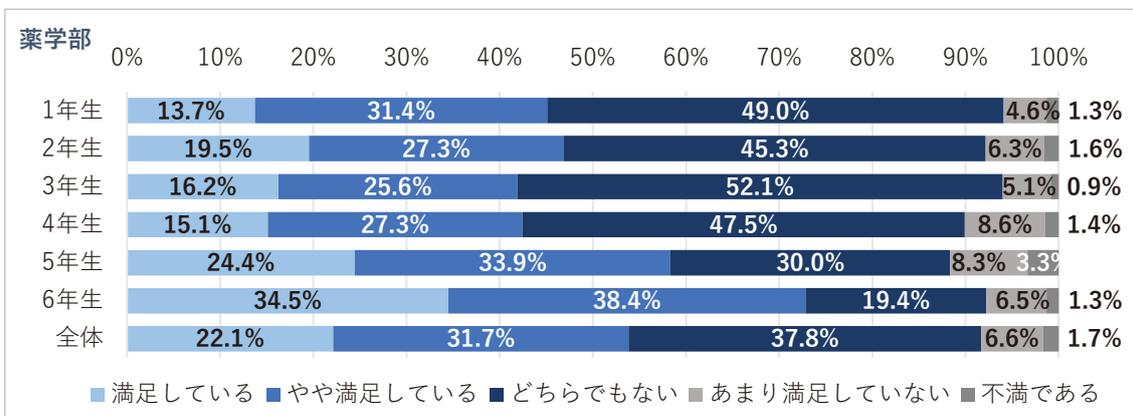
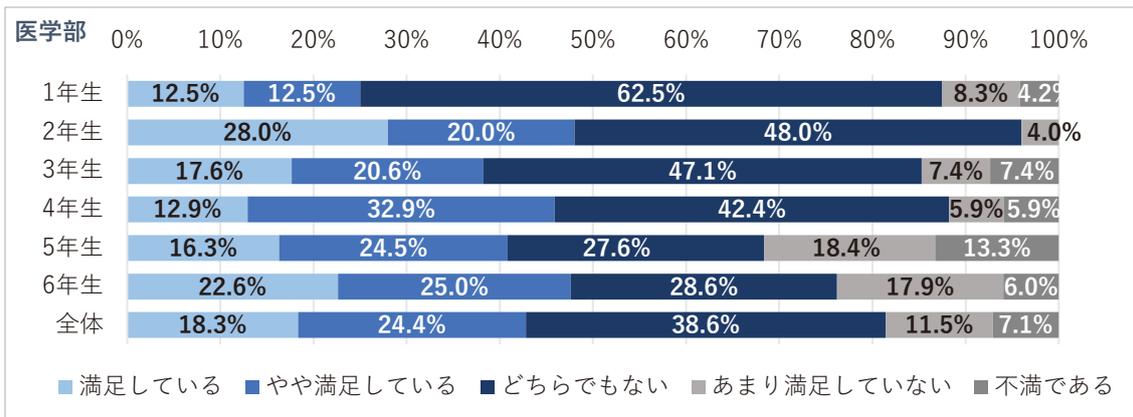
図書館、自学自習室、共用スペースなどの学習支援施設を利用した学生の割合は、医学部全体で95.4%、薬学部全体で92.4%、看護学部全体で96.3%である。利用した学生の満足度をみると、比較的満足しているという回答は、医学部全体で62.9%、薬学部全体で72.5%、看護学部全体で78.1%である。

(2) 就職・進路への支援

就職・進路支援の利用



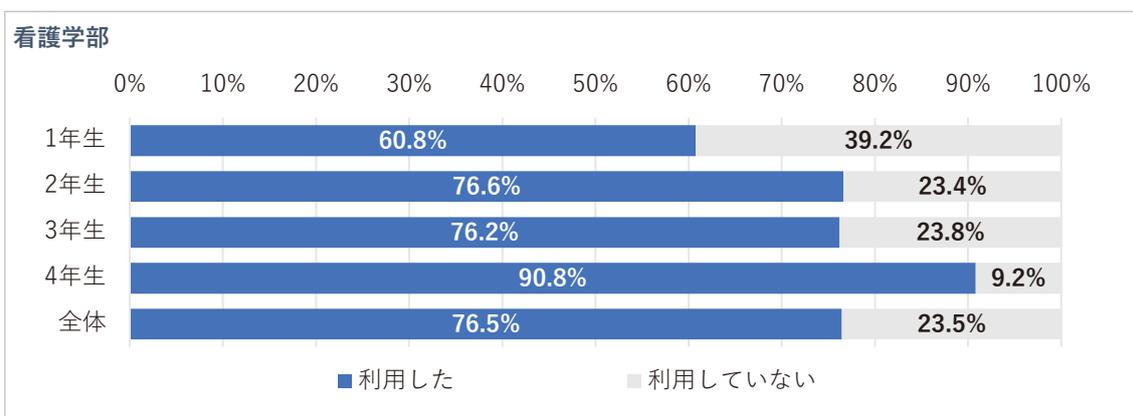
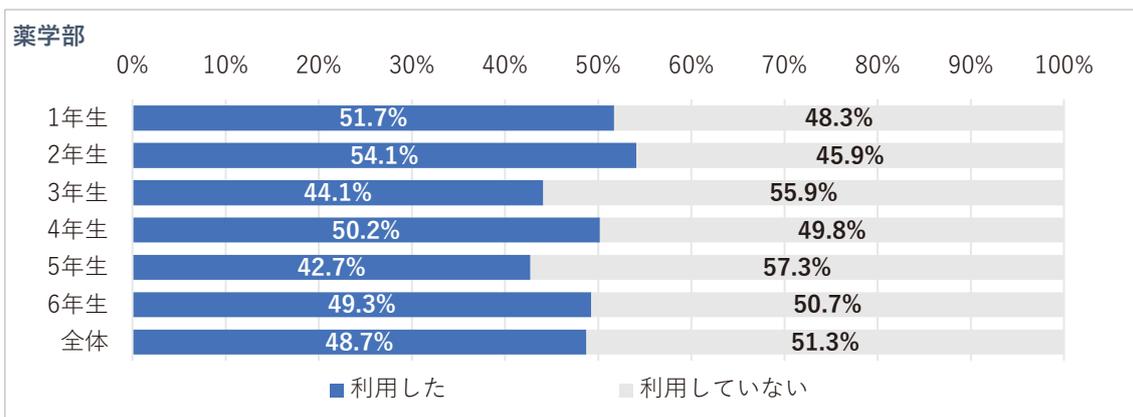
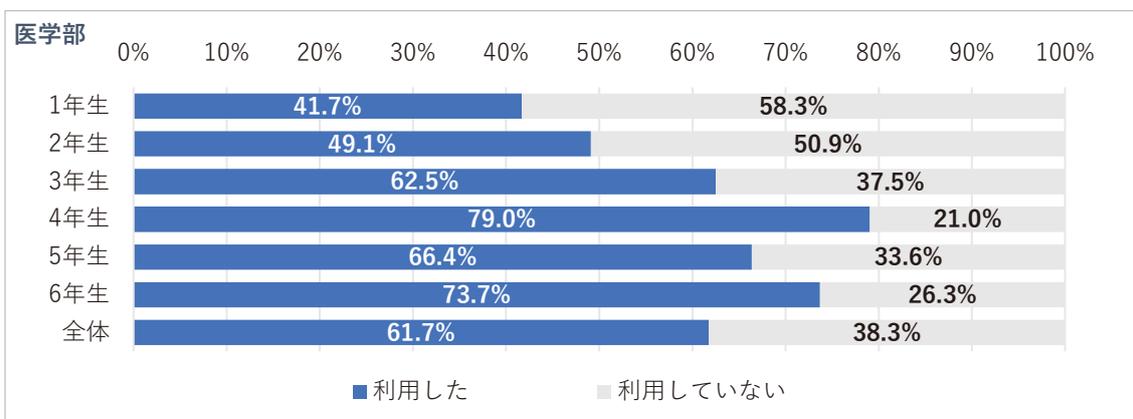
就職・進学支援を受けた学生の満足度



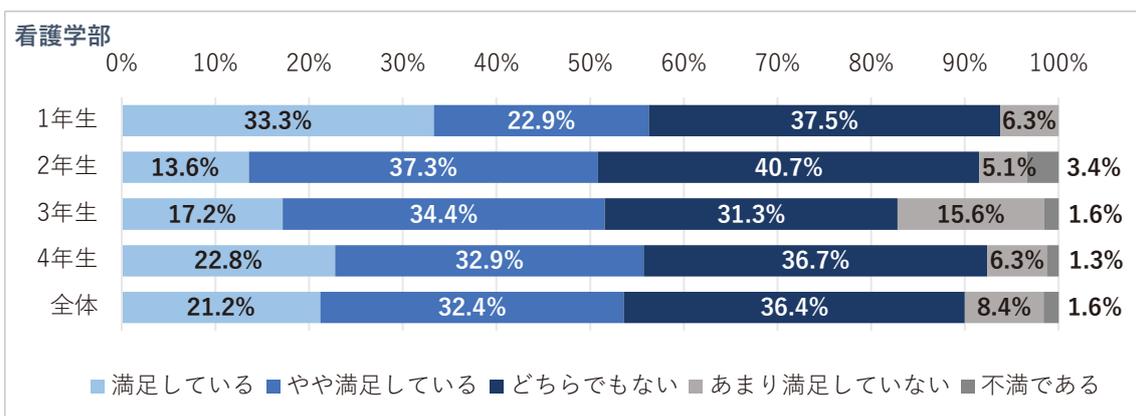
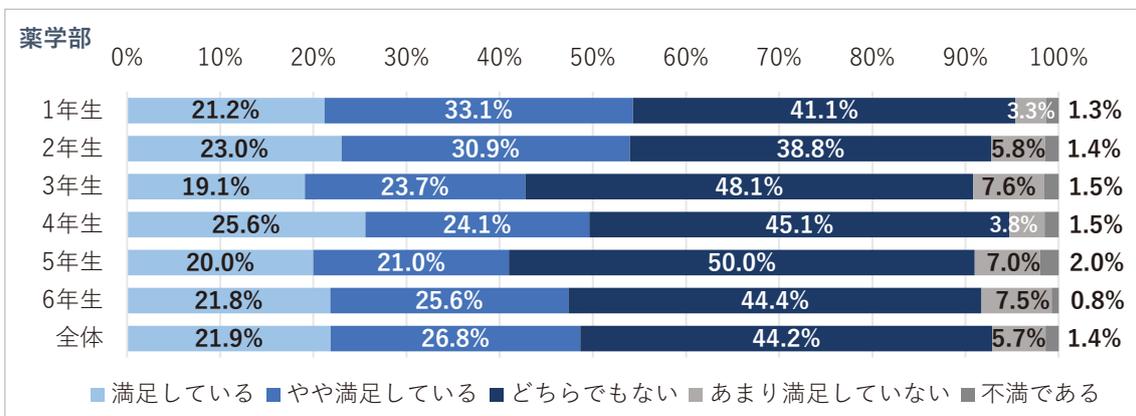
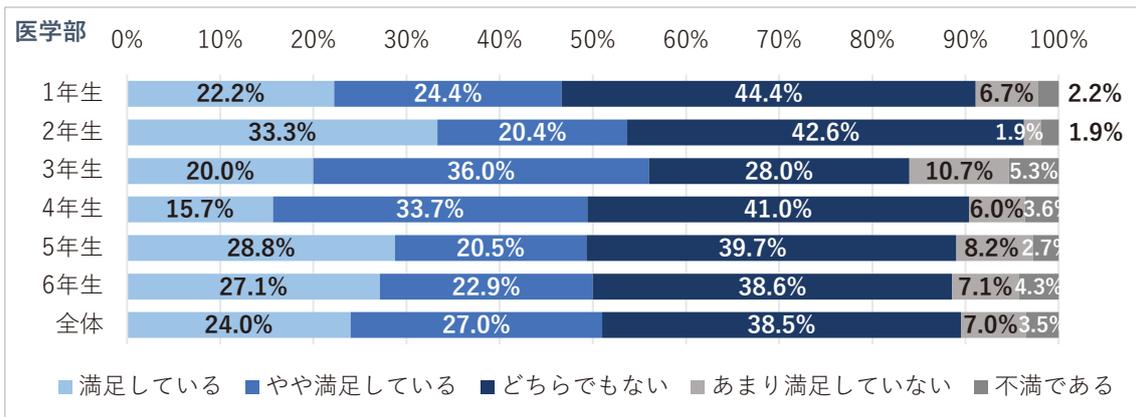
就職支援を利用した学生は、割合が高い順に看護学部全体で 72.8%、医学部全体で 63.1%、薬学部全体で 58.8%である。利用した学生の満足度をみると、比較的満足しているという回答は、割合が高い順に薬学部全体で 53.8%、看護学部全体で 52.9%、医学部全体で 42.7%である。

(3) 学習・心身の健康面の相談体制（面談・カウンセリングを含む）

相談の利用



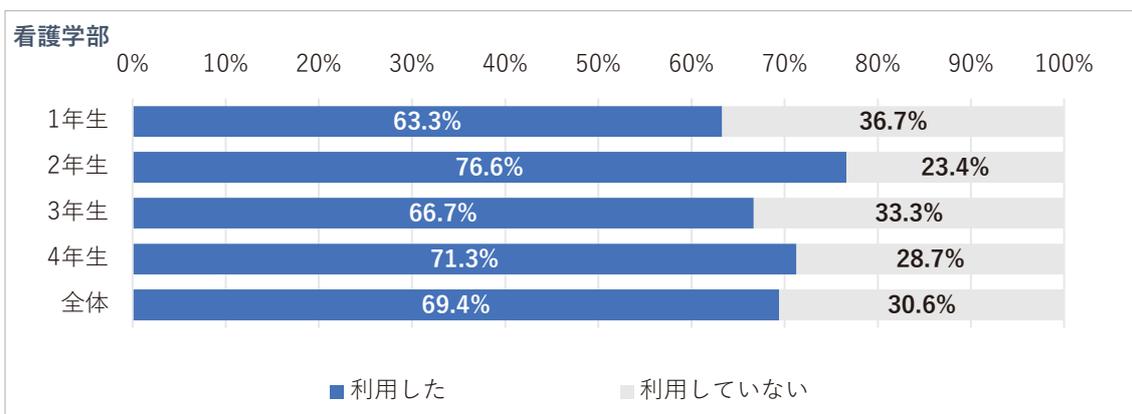
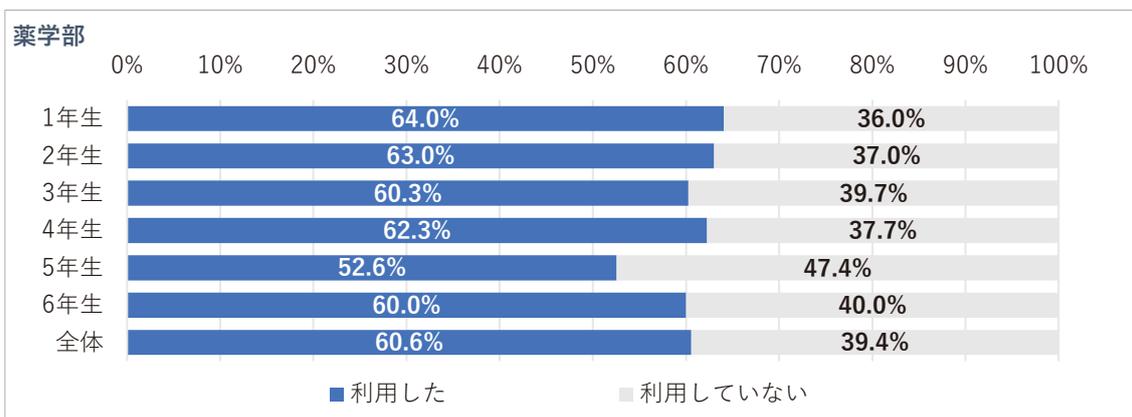
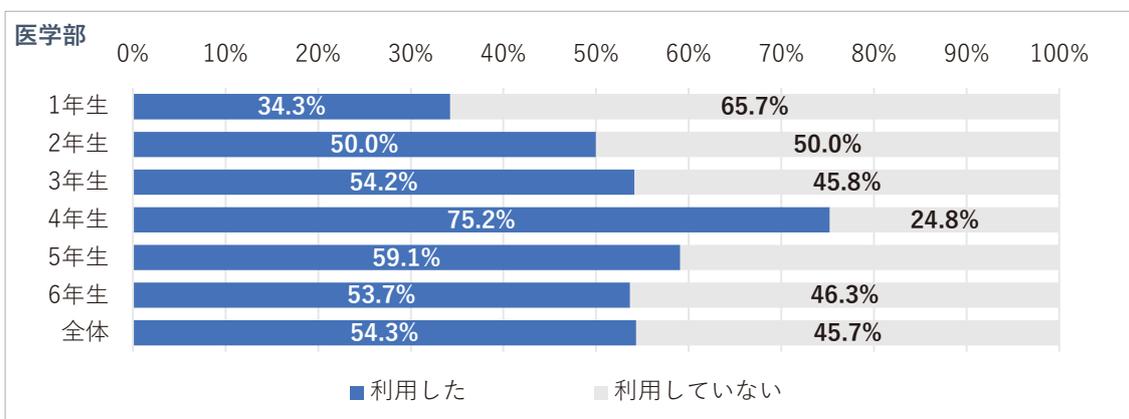
学習・心身の健康面の相談をした学生の満足度



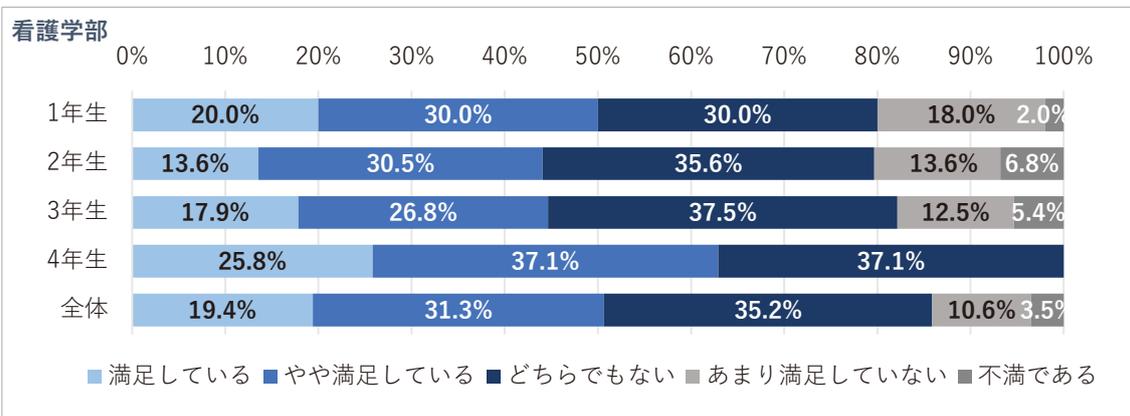
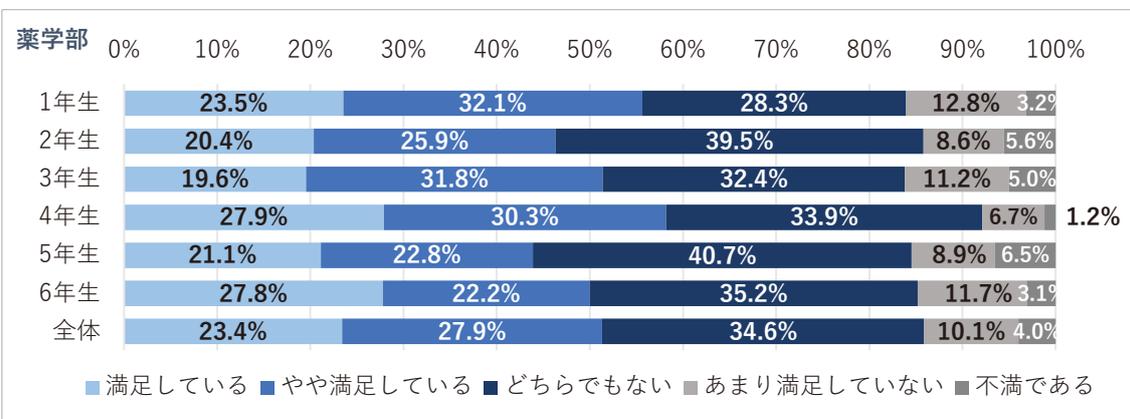
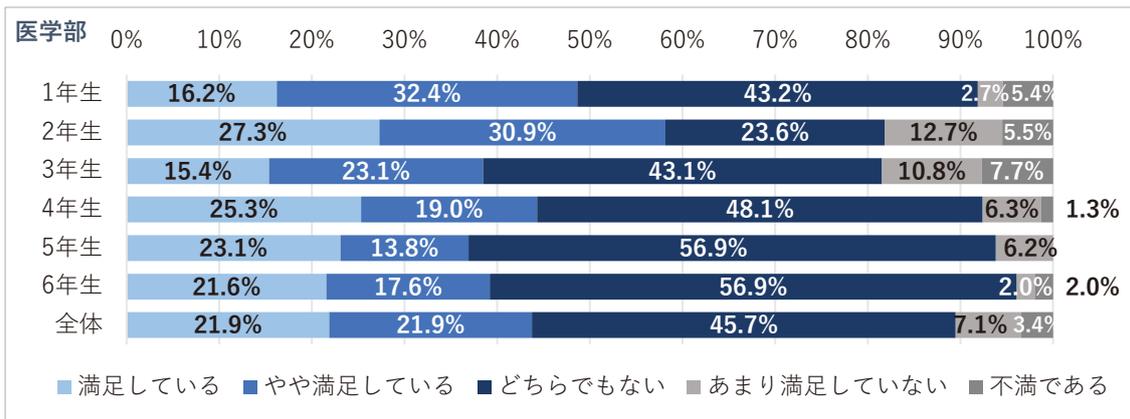
学習・心身の健康面の相談を利用した学生は、割合が高い順に看護学部全体で76.5%、医学部全体で61.7%、薬学部全体で48.7%である。利用した学生の満足度をみると、比較的満足しているという回答は、割合が高い順に看護学部全体で53.6%、医学部全体で51.0%、薬学部全体で48.7%である。

(4) 奨学金等の経済的支援に関する情報提供

各学部生全体の利用



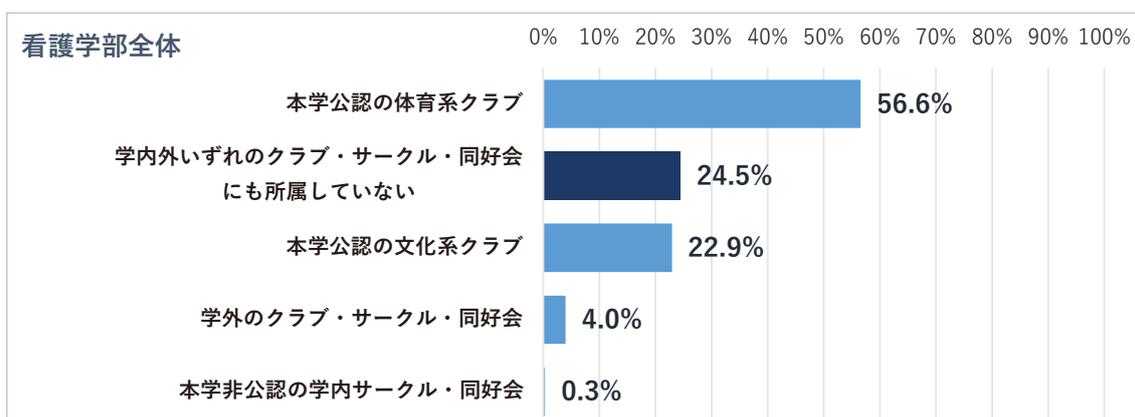
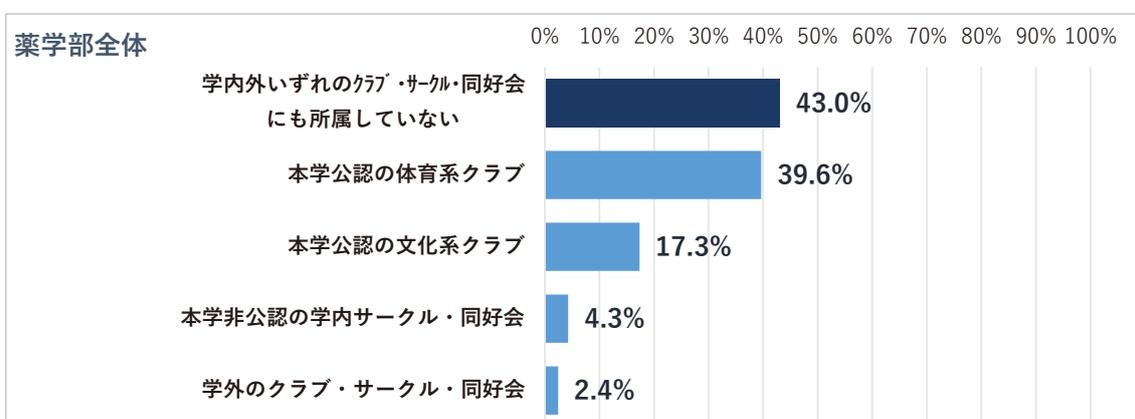
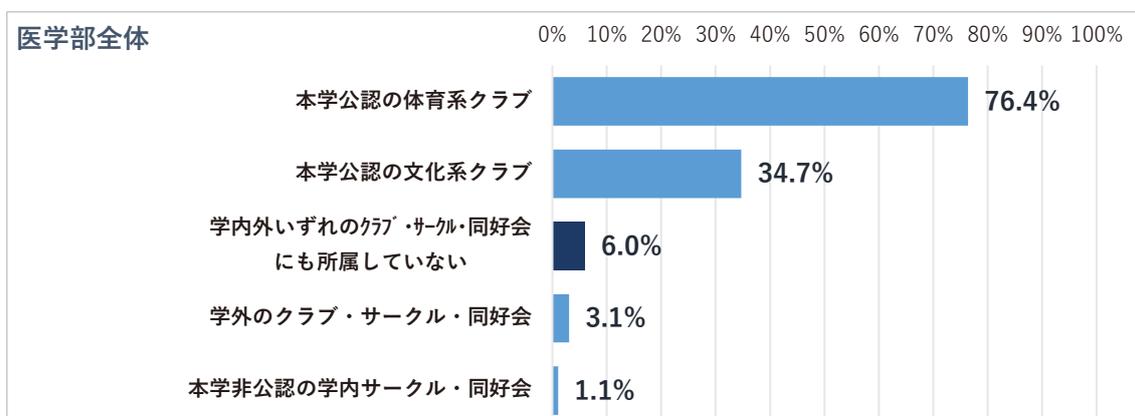
経済的支援に関する情報提供を利用した学生の満足度



奨学金等の経済的支援に関する情報提供を利用した学生は、割合が高い順に看護学部全体で69.4%、薬学部全体で60.6%、医学部全体で54.3%である。利用した学生の満足度をみると、比較的満足しているという回答は、割合が高い順に薬学部全体で51.3%、看護学部全体で50.7%、医学部全体で43.8%である。

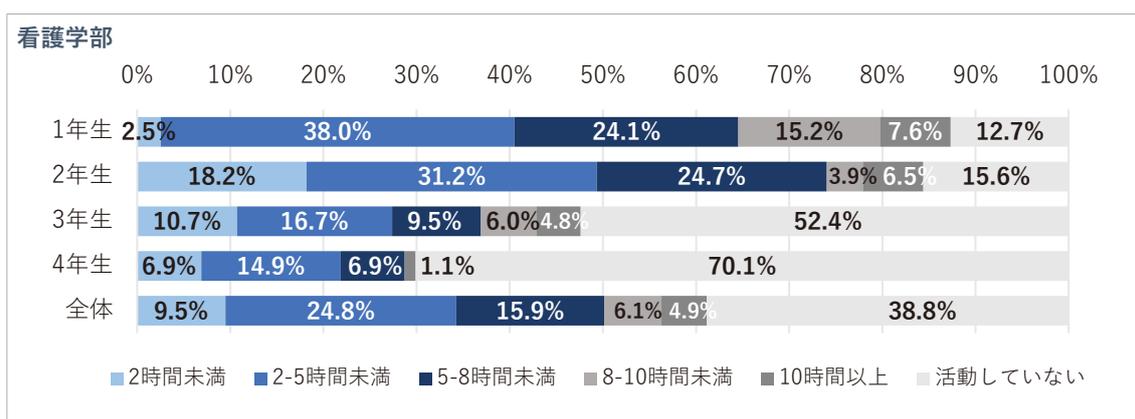
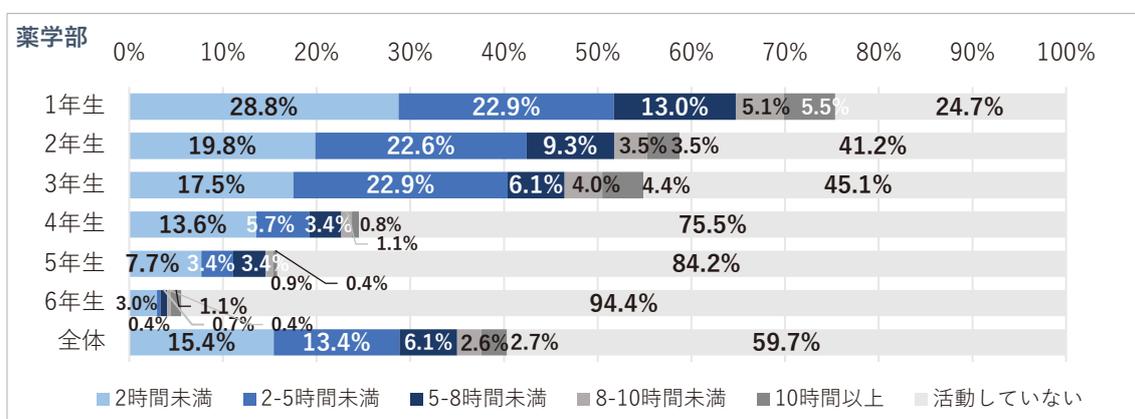
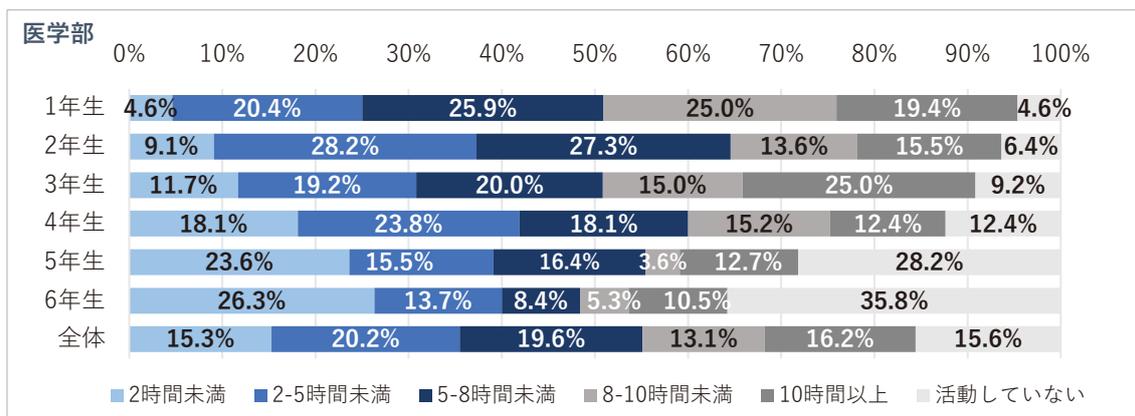
4. クラブ・サークル・同好会活動

(1) 今年度加入しているクラブ・サークル・同好会



クラブ・サークル・同好会への加入については、医学部、薬学部、看護学部とも「本学公認の体育系クラブ」加入の割合が高く、割合が高い順に医学部全体で76.4%、看護学部全体で56.6%、薬学部全体で39.6%である。一方、クラブ・サークル・同好会活動のいずれにも加入していない学生は、割合が高い順に薬学部全体で43.0%、看護学部全体で24.5%、医学部全体で6.0%である。

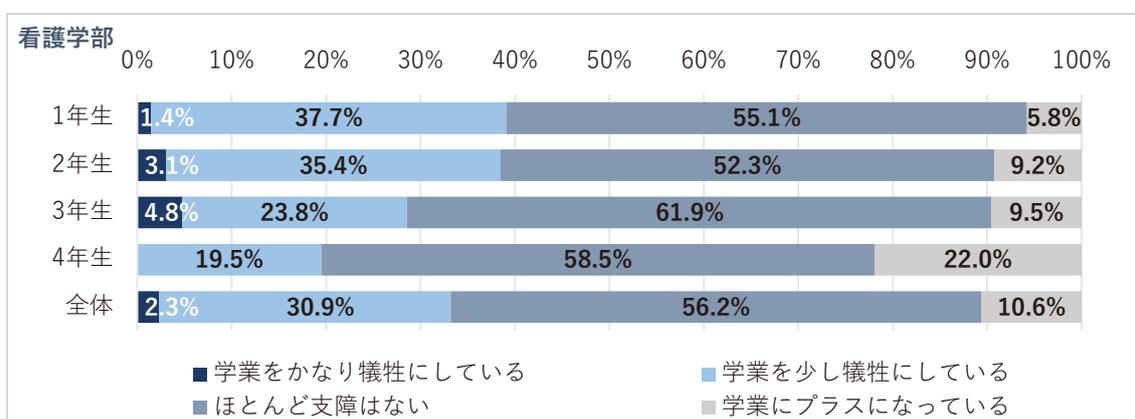
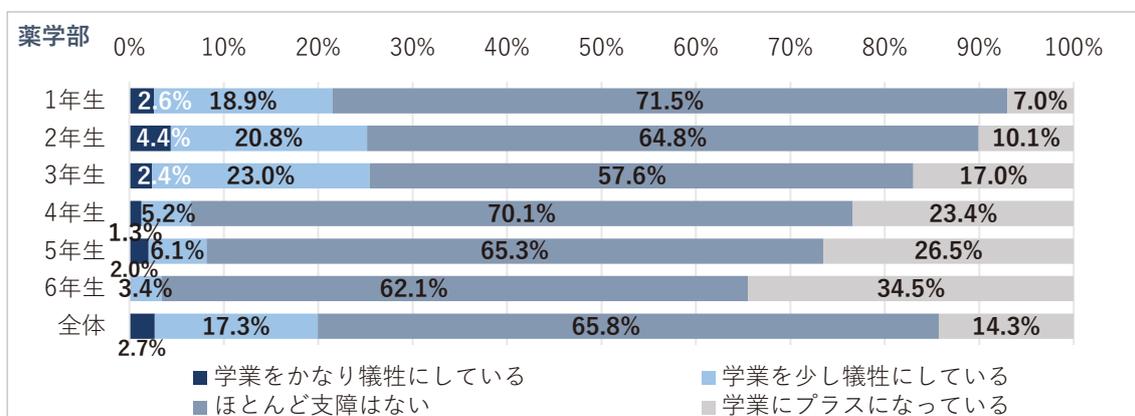
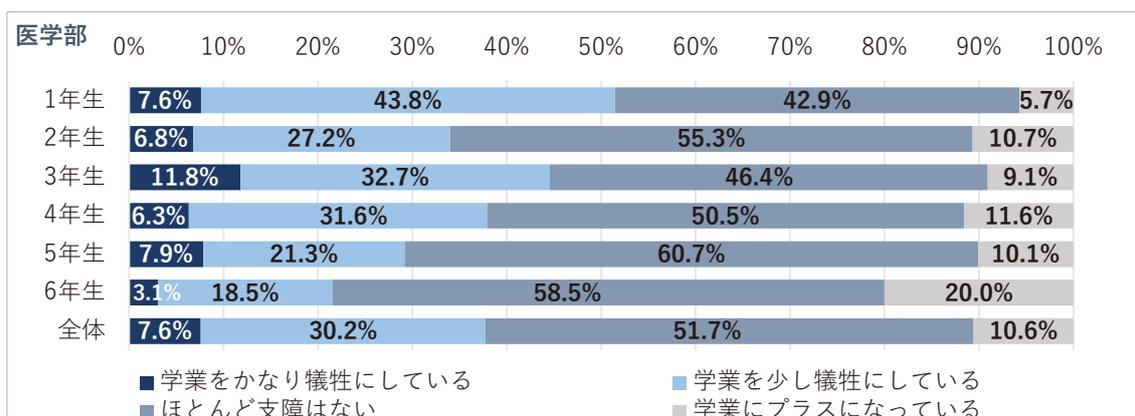
(2) 1週間あたりの活動時間



クラブ・サークル・同好会の活動時間は、学年によって差があるものの、もっとも高い割合を学部全体で見ると医学部では「2-5 時間未満」で 20.2%、薬学部では「2 時間未満」で 15.4%、看護学部では「2-5 時間未満」で 24.8%である。

(3) 部活動の学業への影響

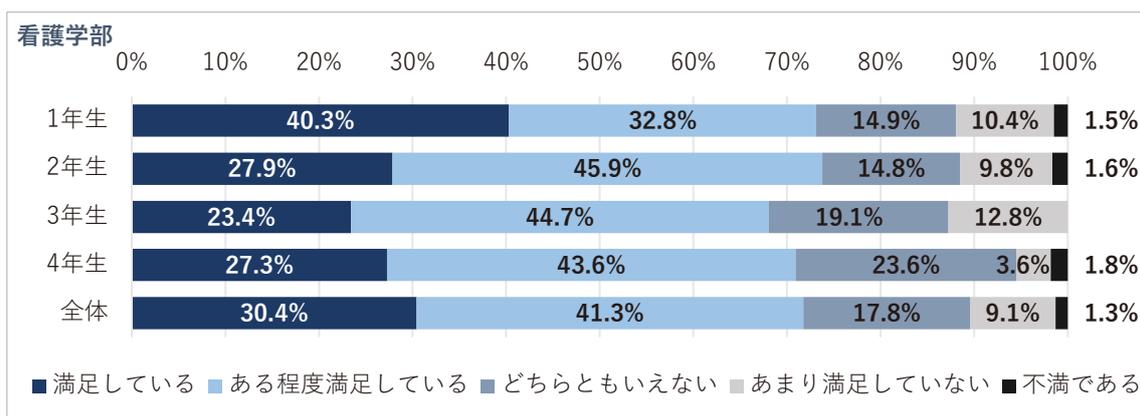
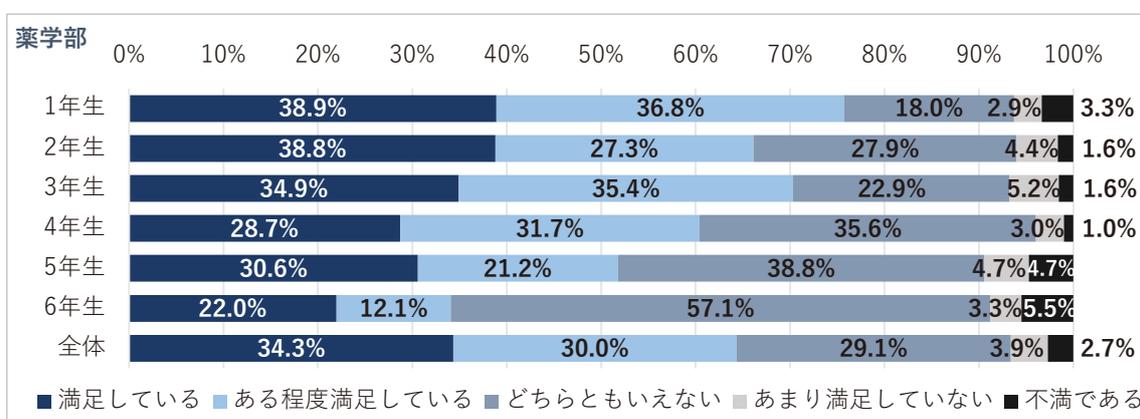
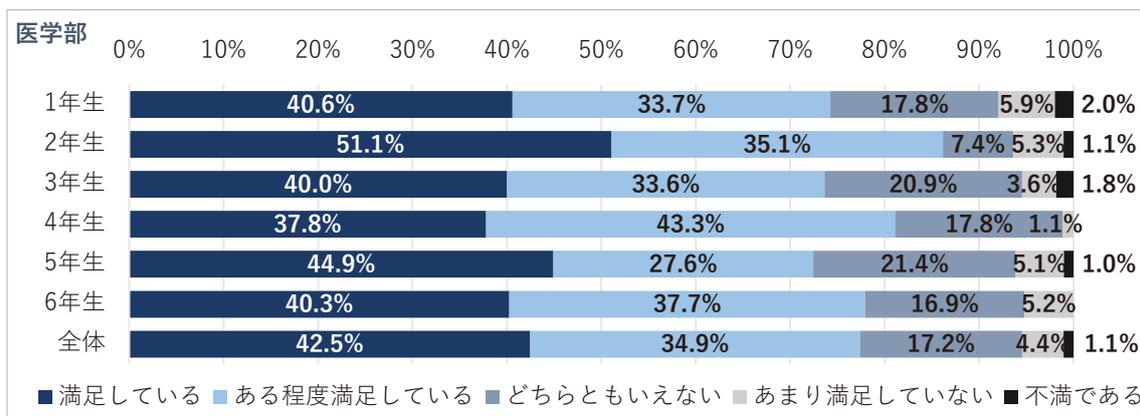
※活動している学生のみ



部活動の学業への影響については、学部全体でみると医学部、薬学部、看護学部とも「ほとんど支障がない」の割合がもっとも高く、高い順に薬学部で65.8%、看護学部で56.2%、医学部で51.7%である。「学業にプラスになっている」という回答は、薬学部全体の14.3%、医学部、看護学部全体の10.6%の順で高い。

(4) 活動の満足度

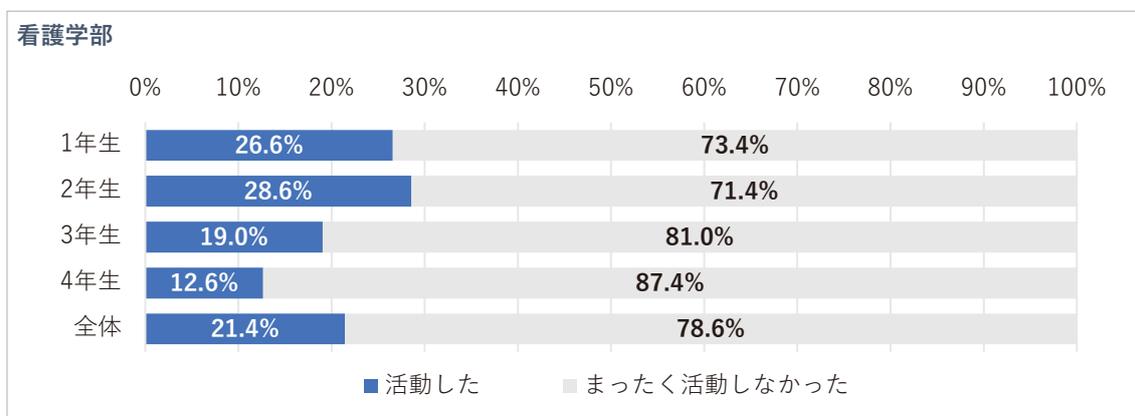
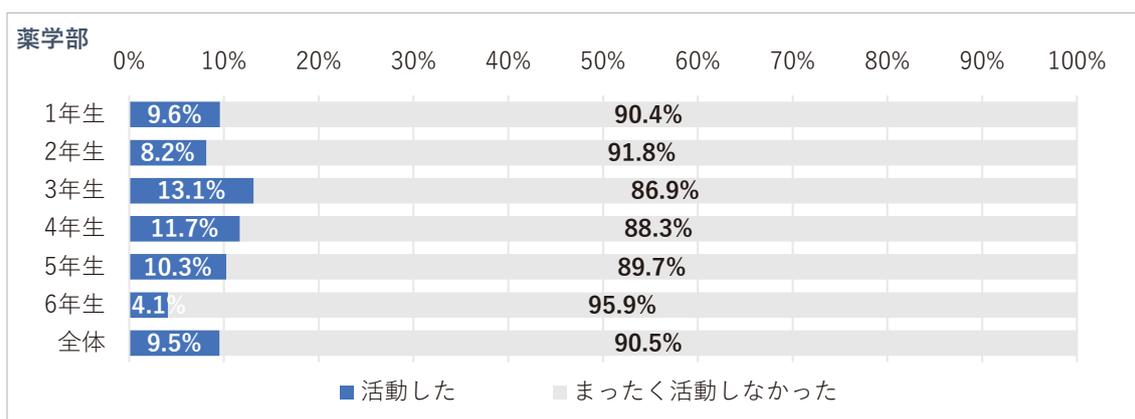
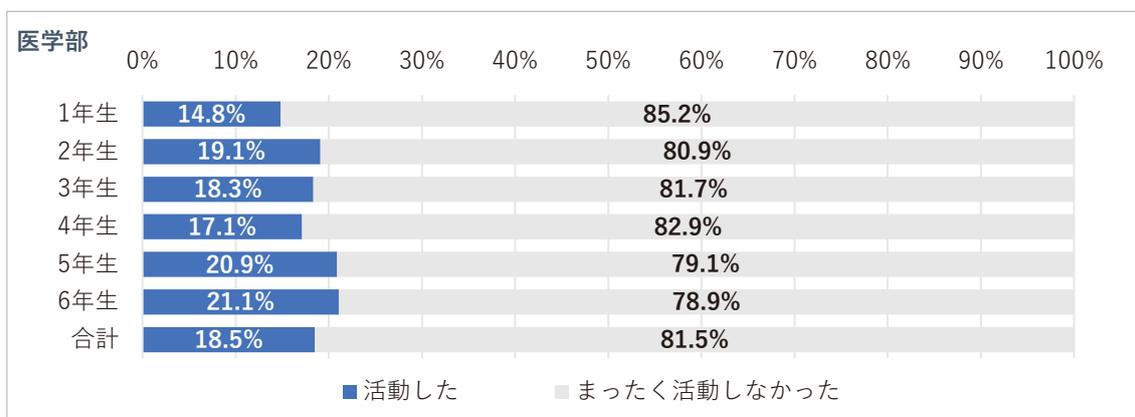
※加入者のみ回答



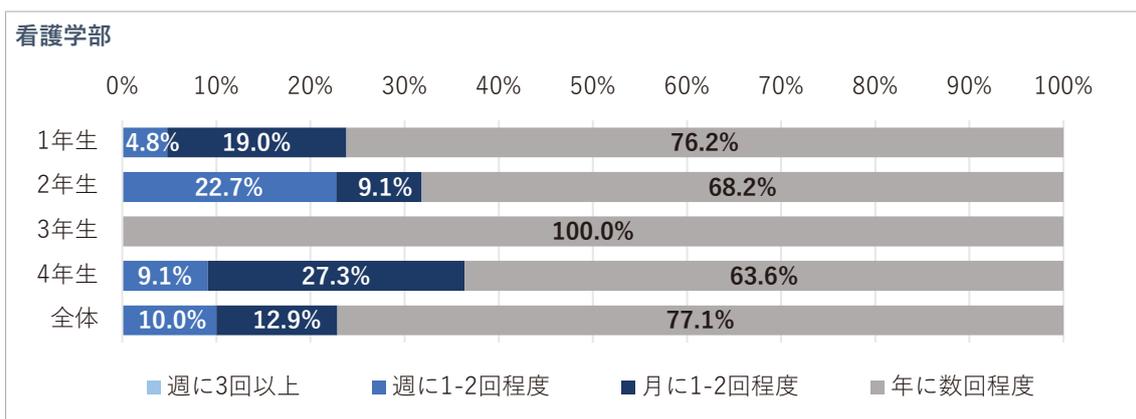
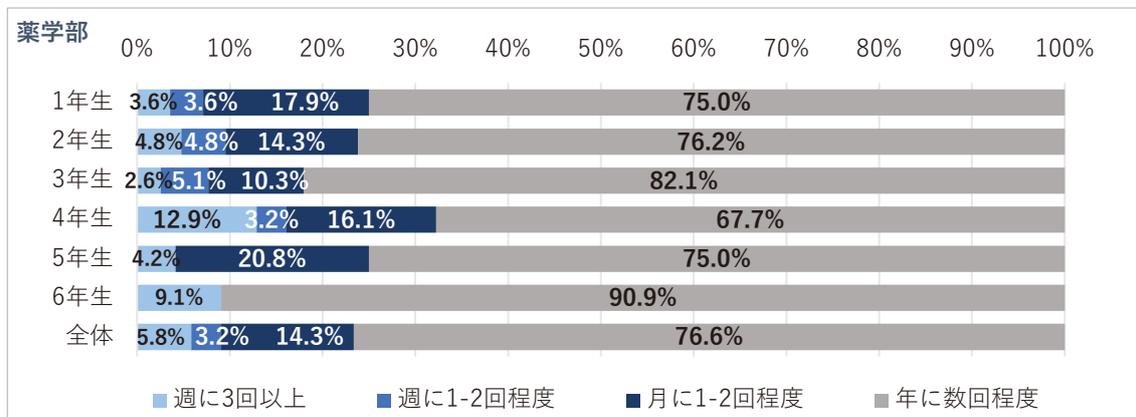
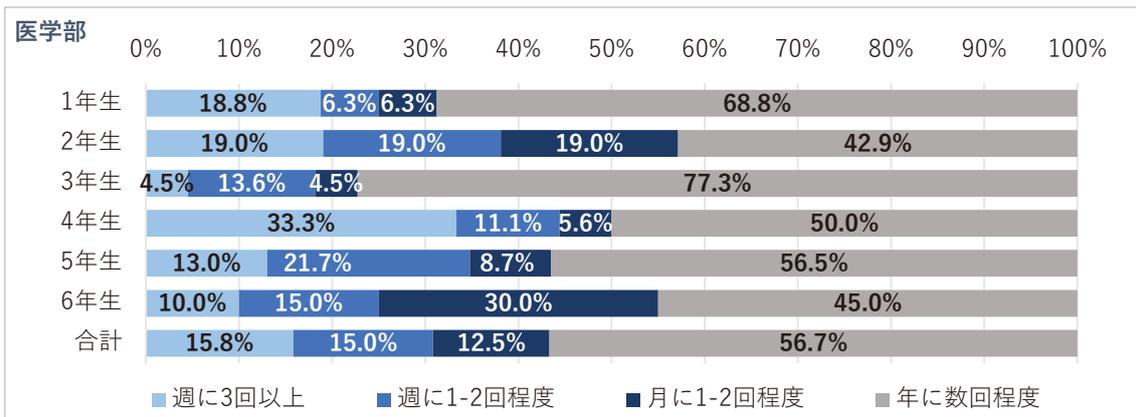
クラブ・サークル・同好会活動の満足度について、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた回答は、割合が高い順に医学部全体で77.4%、看護学部全体で71.7%、薬学部全体で64.3%である。

5. ボランティア活動

全体の活動状況



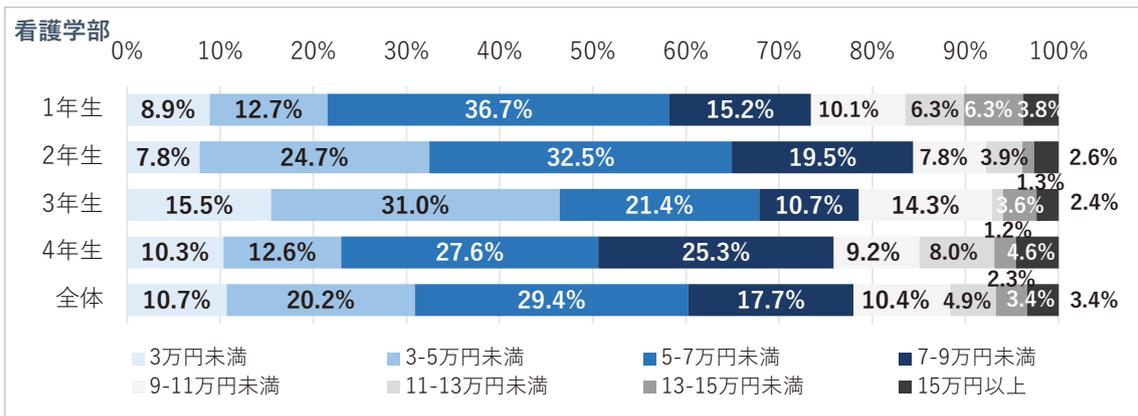
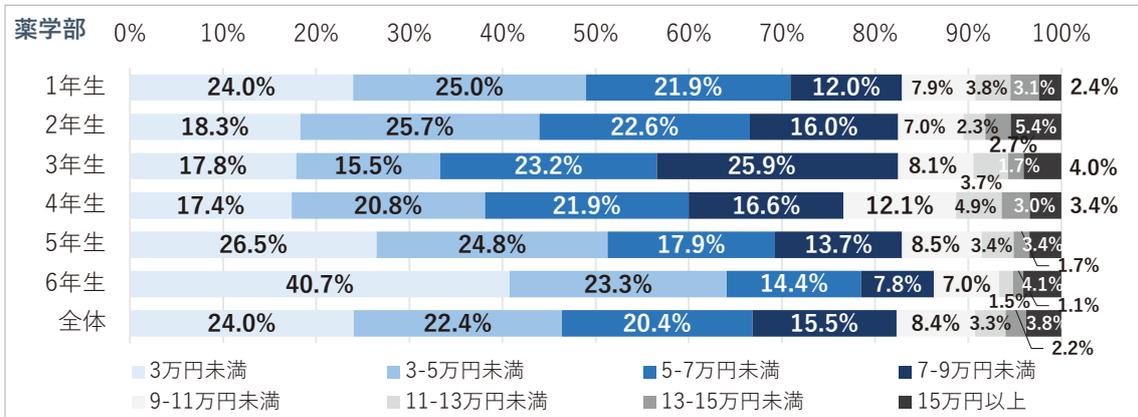
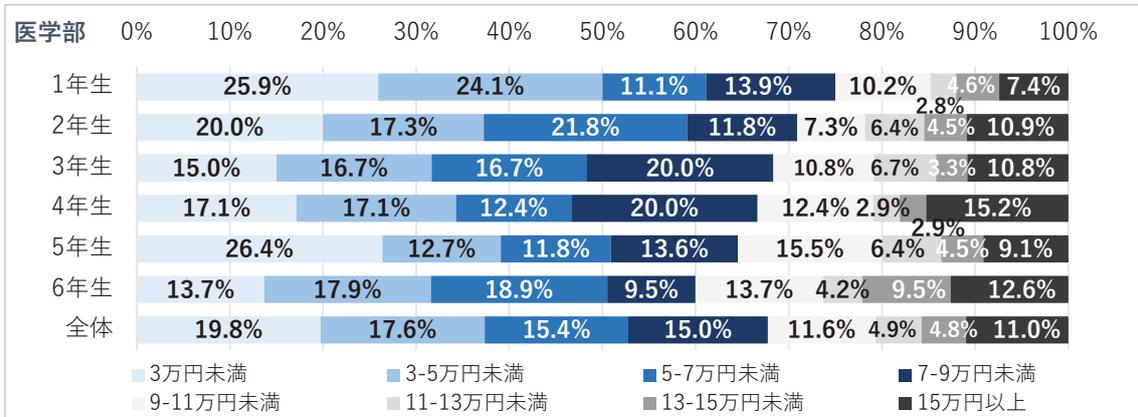
活動した学生の活動頻度



ボランティア活動に参加した学生は、割合が高い順に看護学部全体で 21.4%、医学部全体で 18.5%、薬学部全体で 9.5%である。活動頻度としては、3 学部とも「年に数回程度」がもっとも割合が高い。

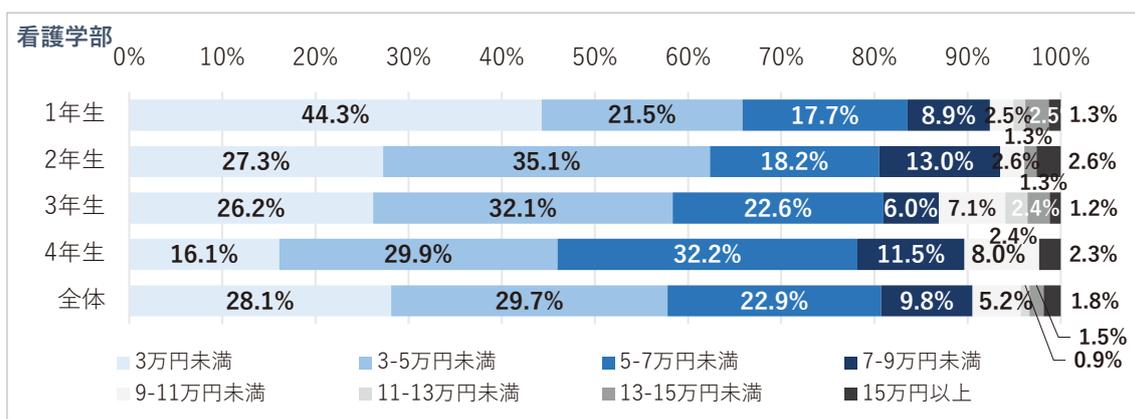
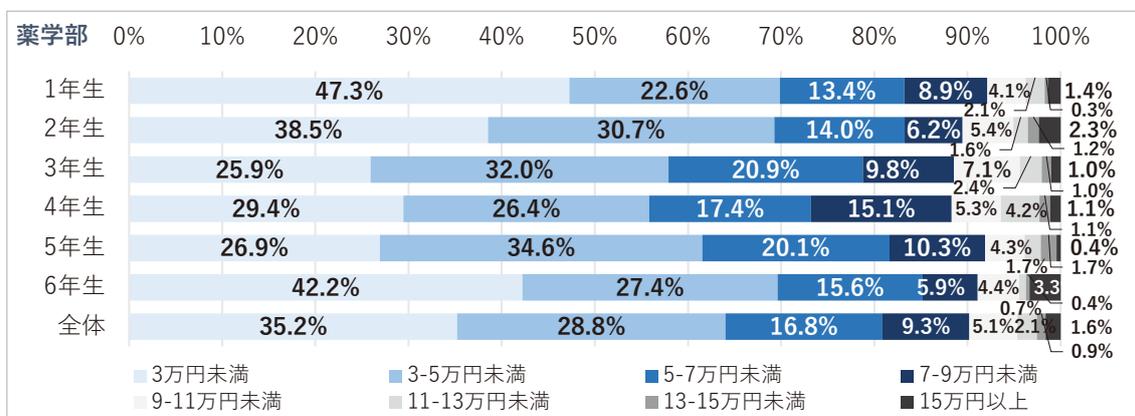
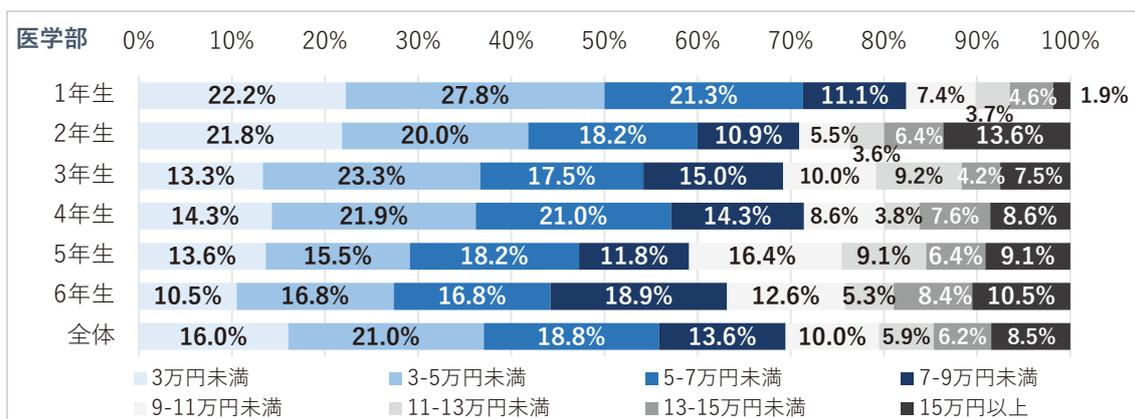
6. 今年度の経済状況

(1) 平均的な1か月あたりの総収入（アルバイト賃金、仕送り、小遣い、奨学金含む）



平均的な1か月あたりの総収入について、5万円未満の学生は、割合が高い順に薬学部全体で46.4%、医学部全体で37.4%、看護学部全体で30.9%である。一方、9万円以上の学生は、割合が高い順に医学部全体で32.3%、看護学部全体で22.1%、薬学部全体で17.7%である。

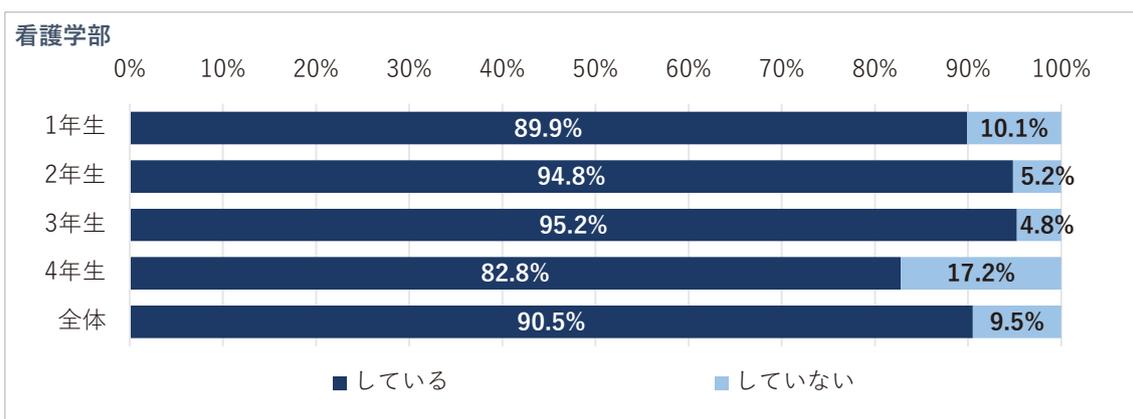
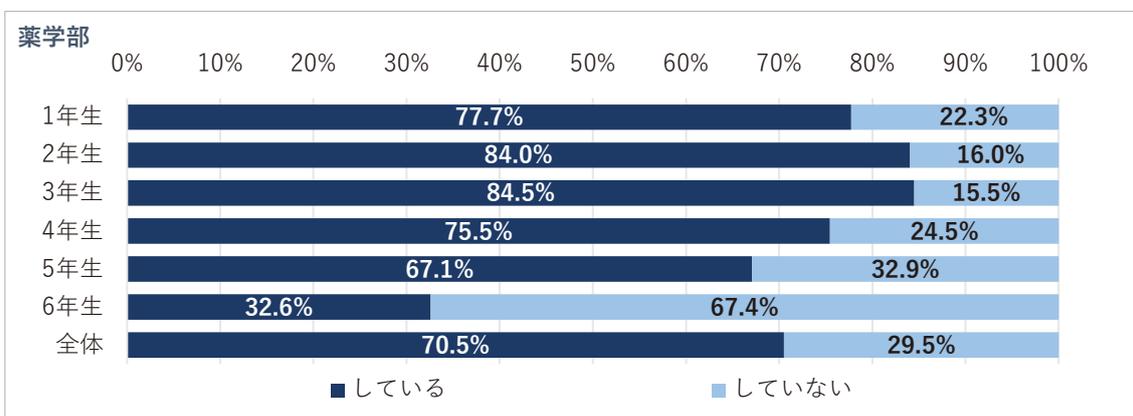
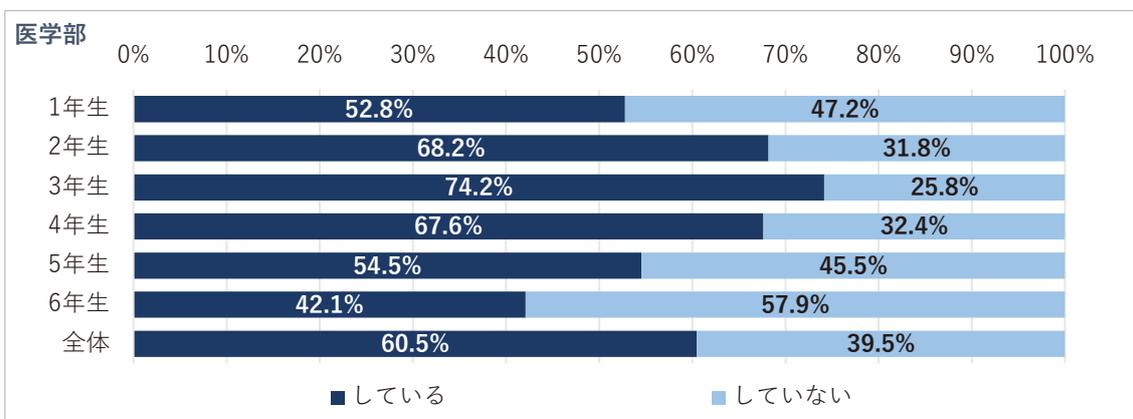
(2) 平均的な1か月あたりの総支出



平均的な1か月あたりの総支出について、5万円未満の学生は、割合が高い順に薬学部全体で64.0%、看護学部全体で57.8%、医学部全体で37.0%である。一方、9万円以上の学生は、割合が高い順に医学部全体で30.6%、薬学部全体で9.7%、看護学部全体で9.4%である。

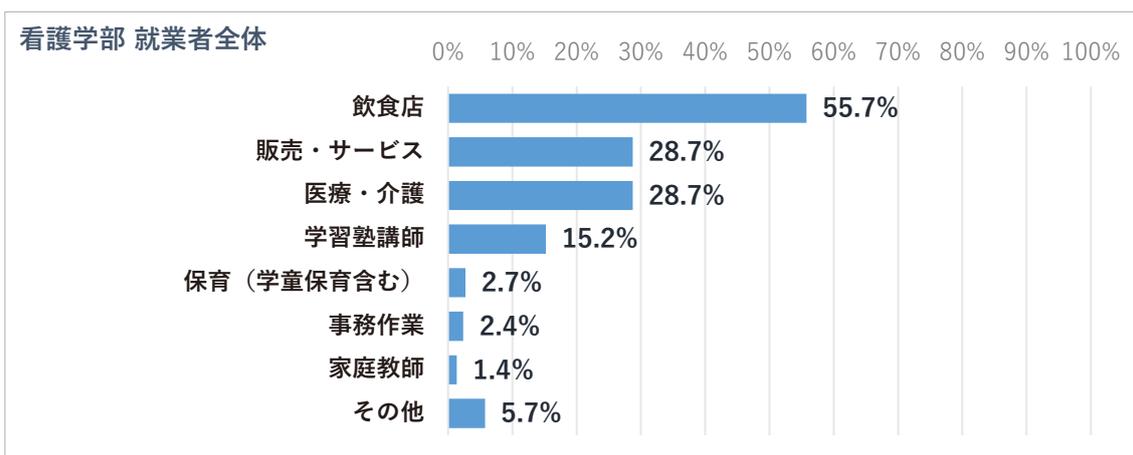
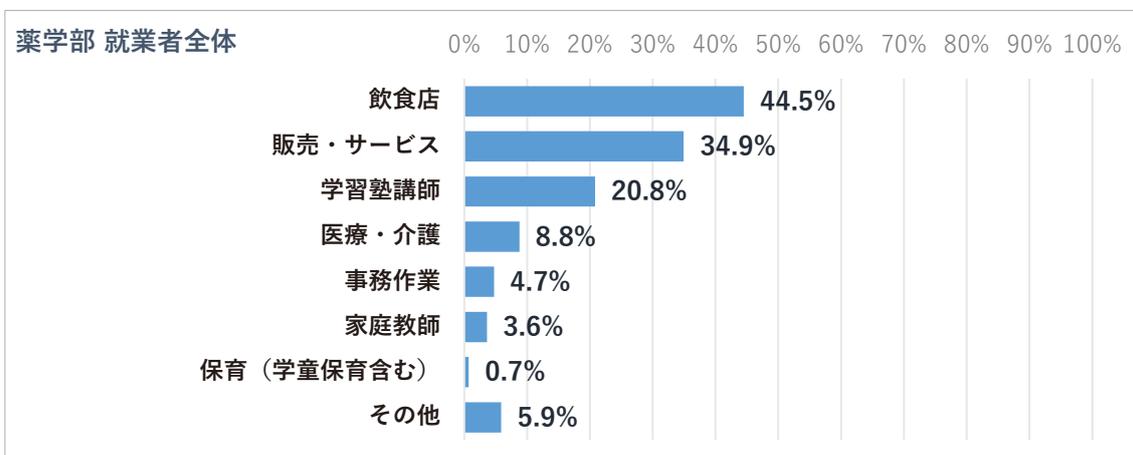
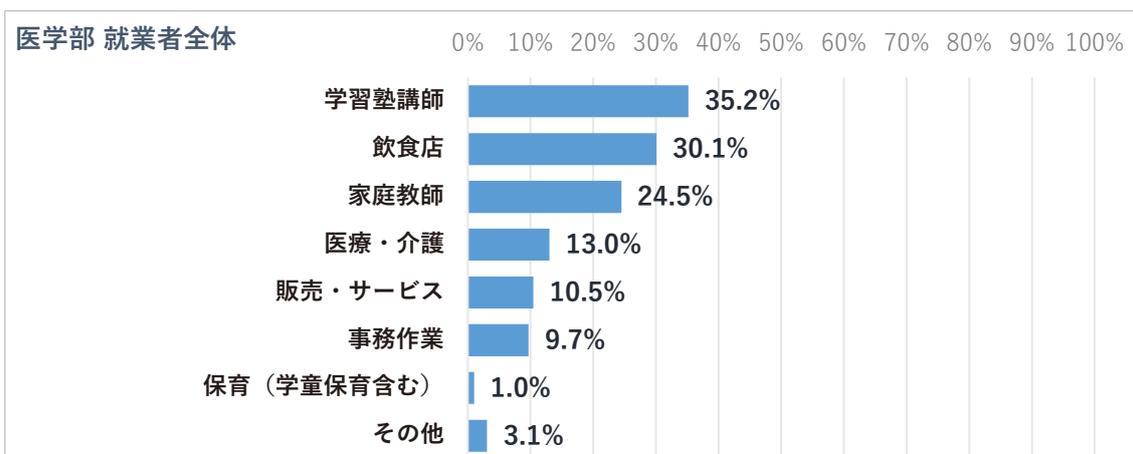
7. アルバイト

(1) 現在のアルバイト状況



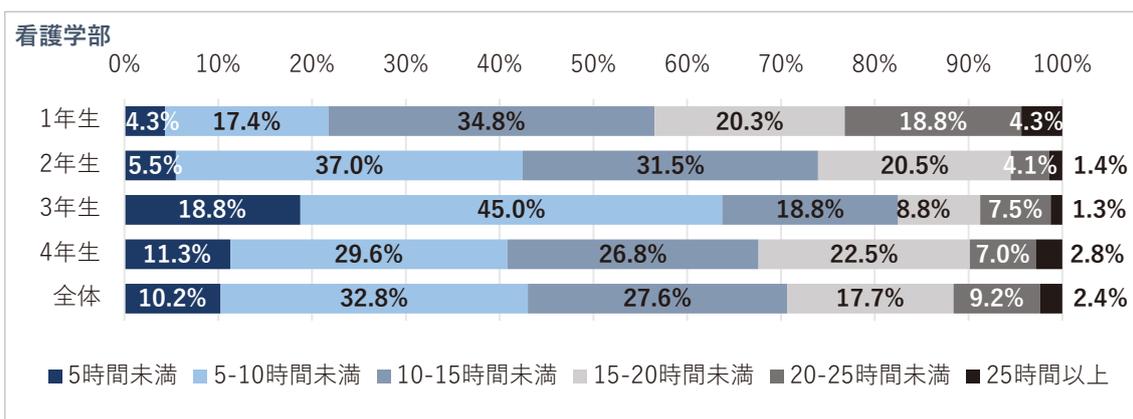
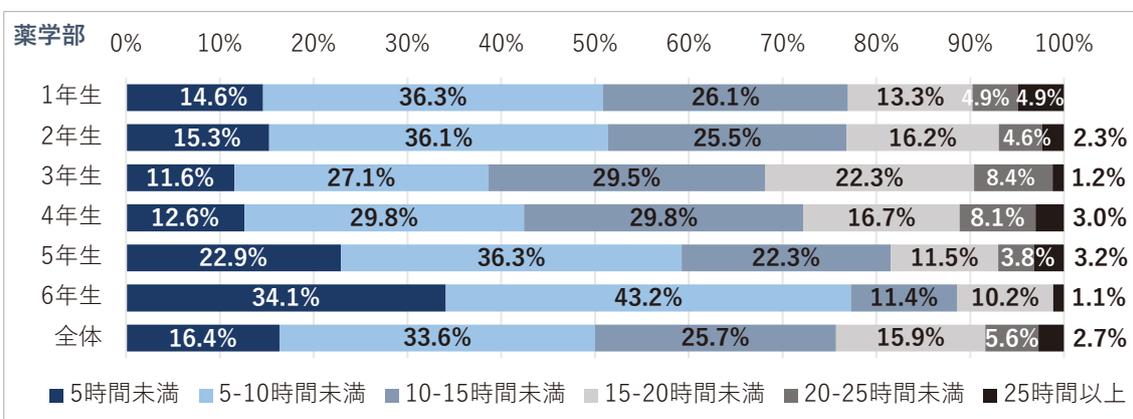
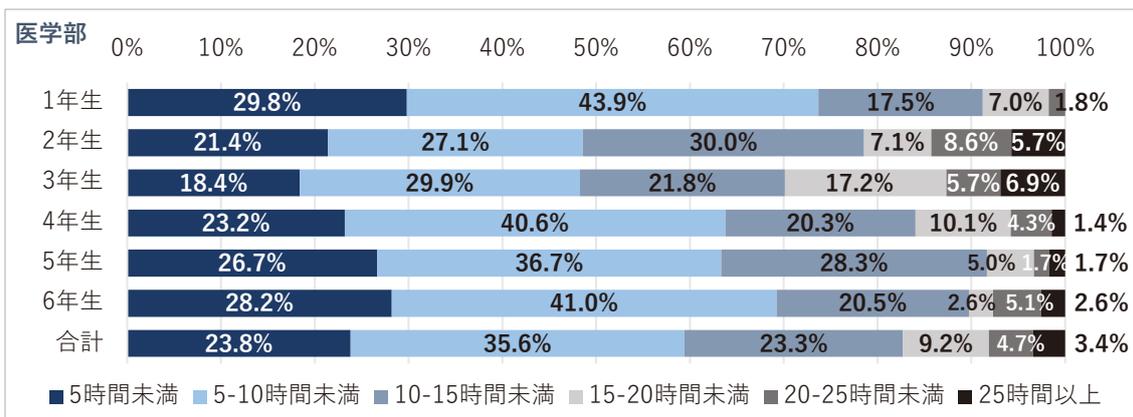
アルバイトに従事している学生は、割合が高い順に看護学部全体で90.5%、薬学部全体で70.5%、医学部全体で60.5%である。

(2) 現在行っているアルバイトの種類



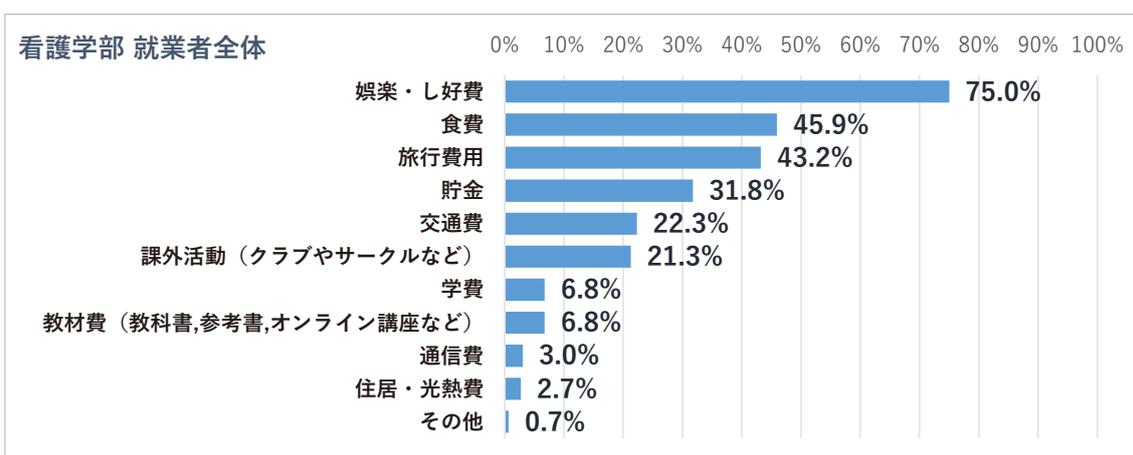
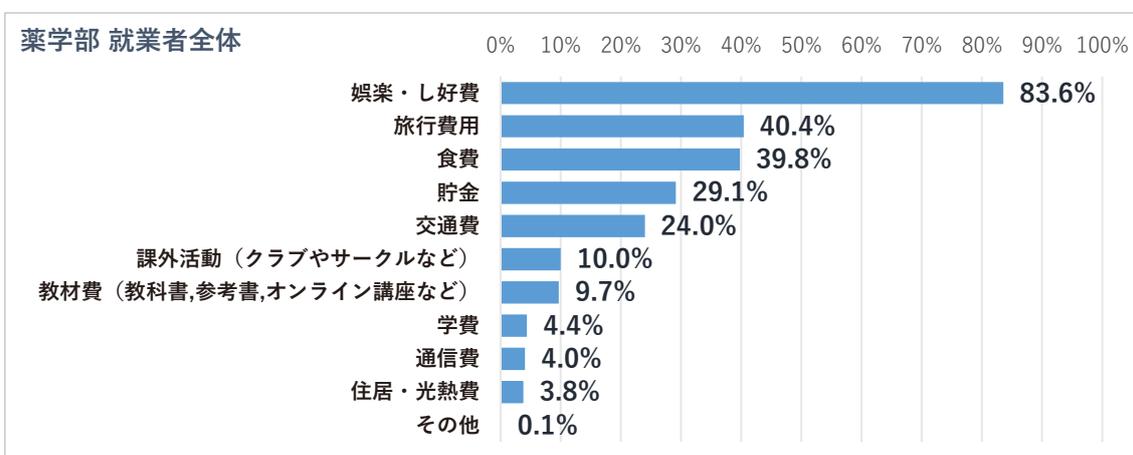
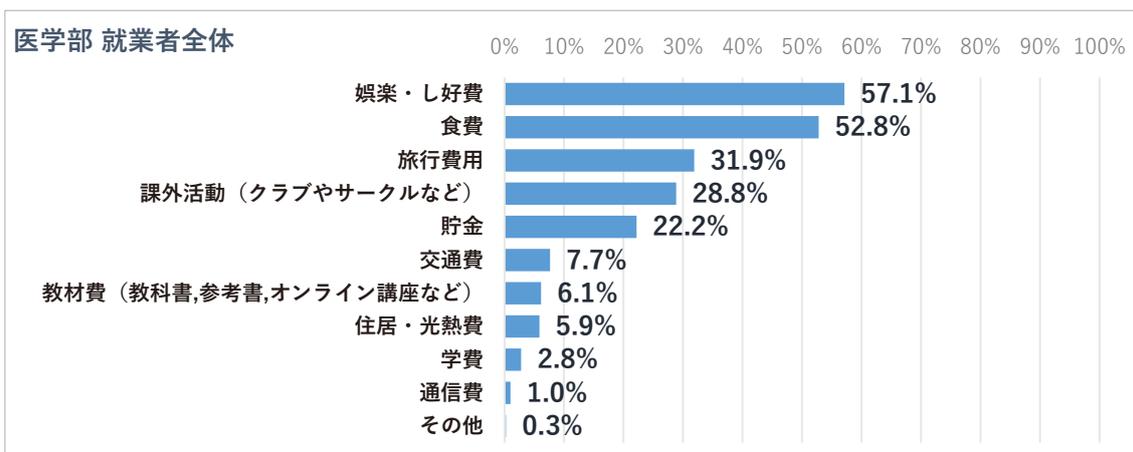
アルバイトの種類でもっとも割合が高いのは、医学部全体では「学習塾講師」で35.2%、薬学部全体では「飲食店」で44.5%、看護学部全体では「飲食店」で55.7%である。

(3) 平均的な1週間あたりの就労時間



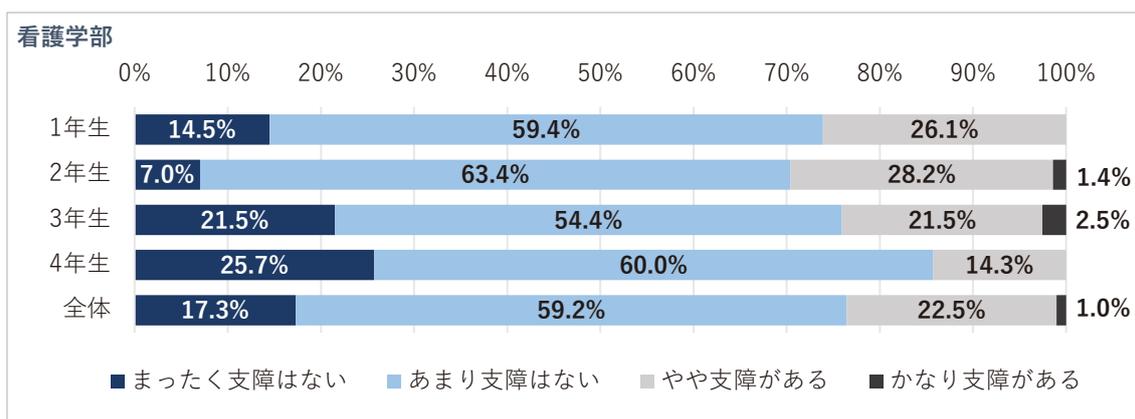
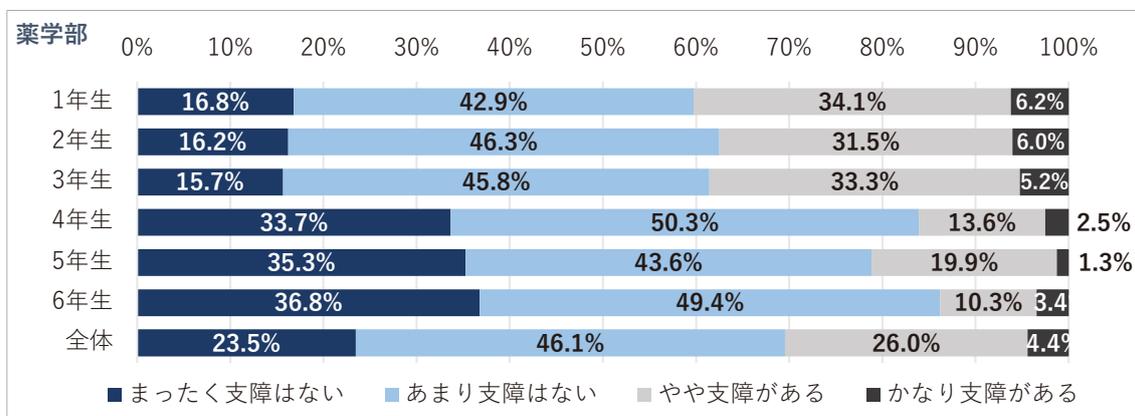
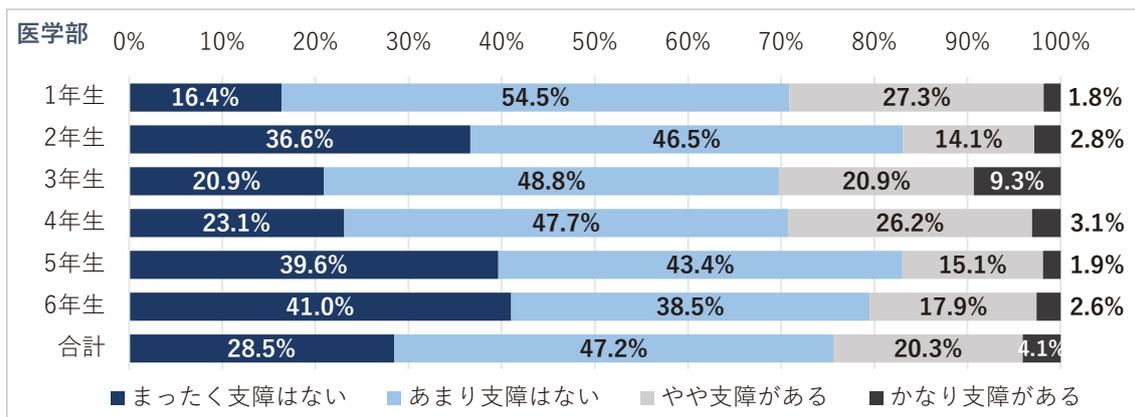
就業時間について、週「10時間未満」で就業している学生は、割合が高い順に医学部全体で59.4%、薬学部全体で50.0%、看護学部全体で43.0%である。

(4) アルバイト収入の使途



アルバイト収入の使途について、医学部、薬学部、看護学部ともに「娯楽・し好費」の割合がもっとも高く、医学部全体で57.1%、薬学部全体で83.6%、看護学部全体で75.0%である。

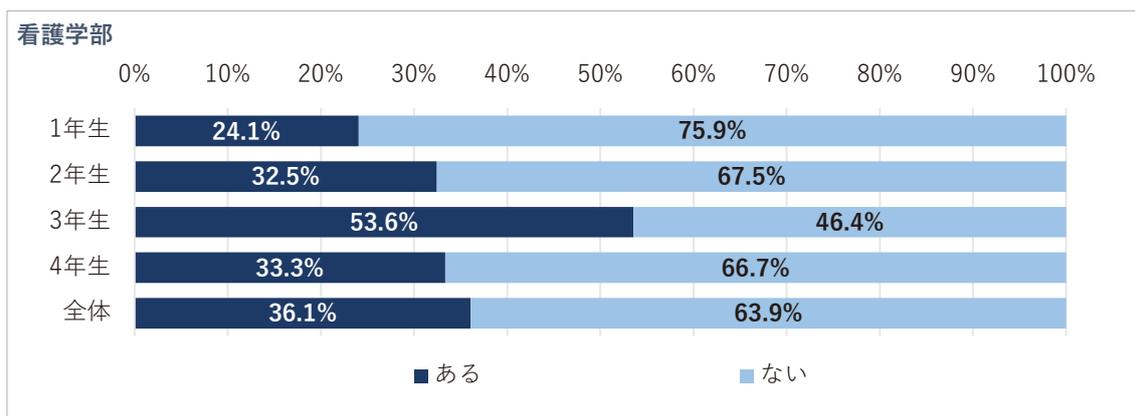
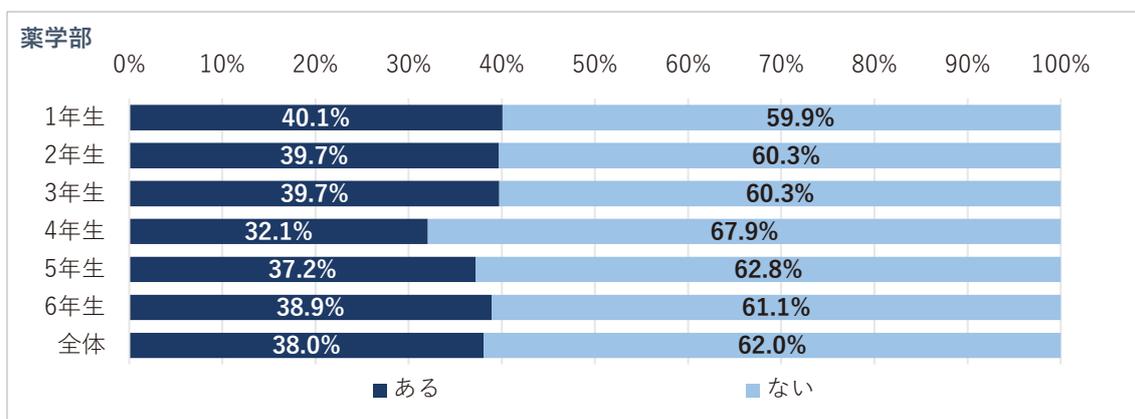
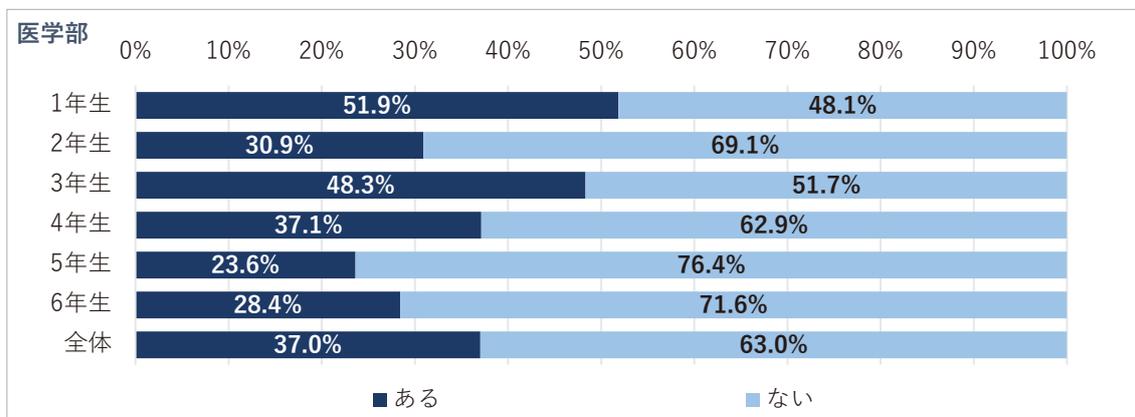
(5) アルバイトと学業の関係



アルバイトと学業の関係について、「まったく支障はない」あるいは「あまり支障はない」と回答した学生は、割合が高い順に看護学部全体で76.5%、医学部全体で75.7%、薬学部全体で69.6%である。

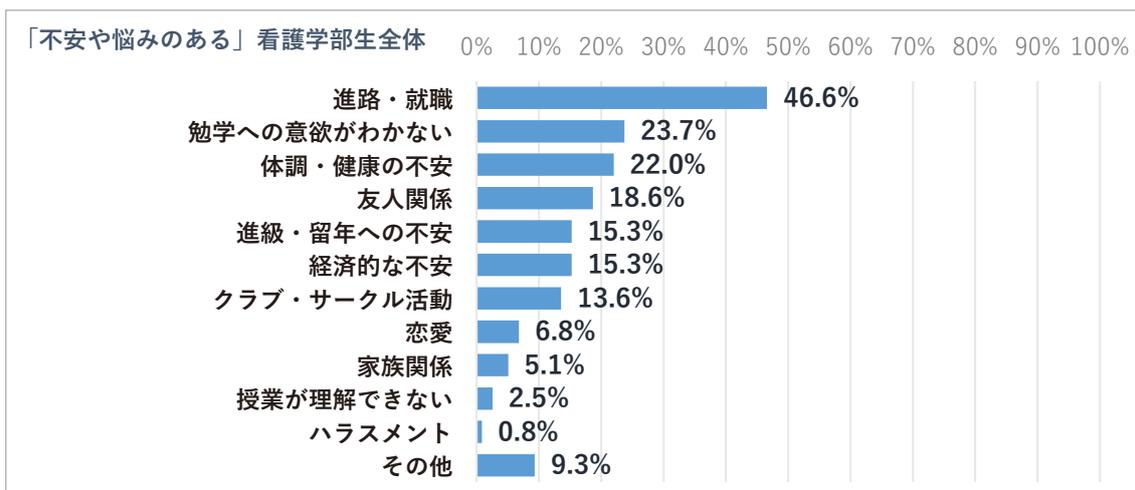
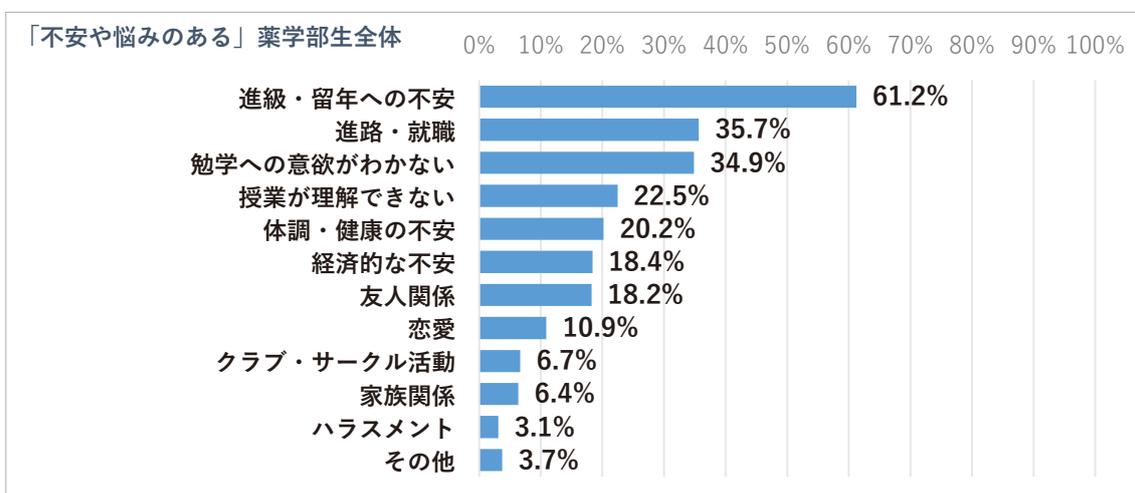
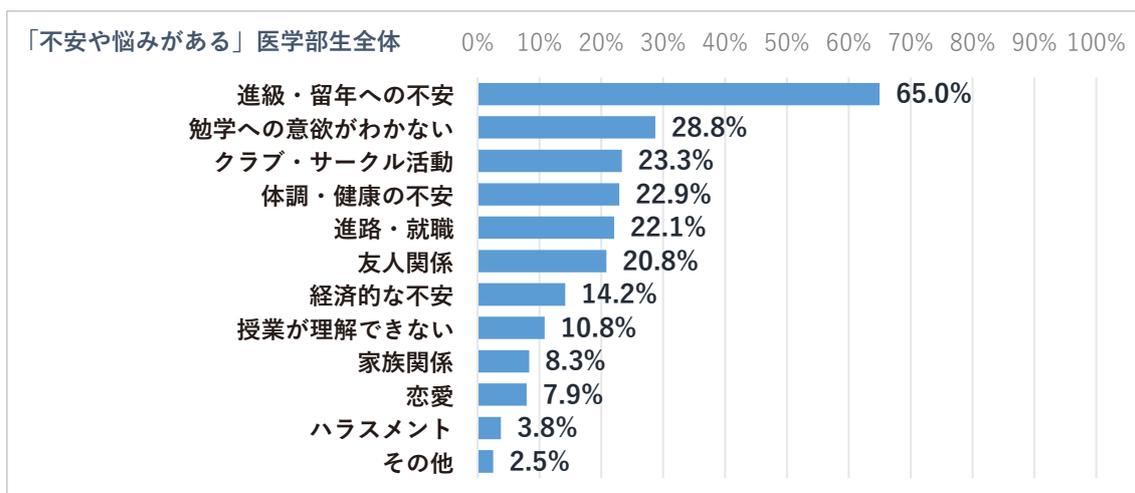
8. 不安や悩み

(1) 今年度の状況



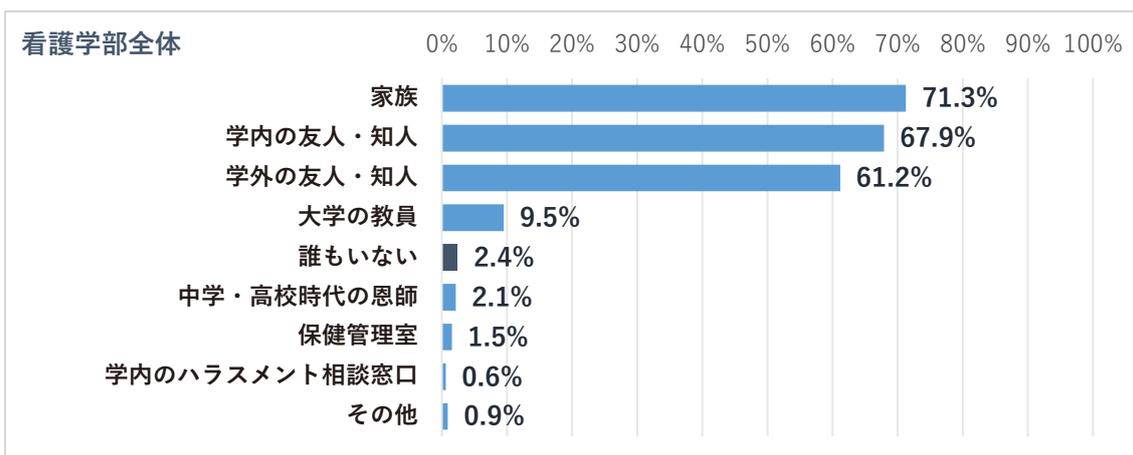
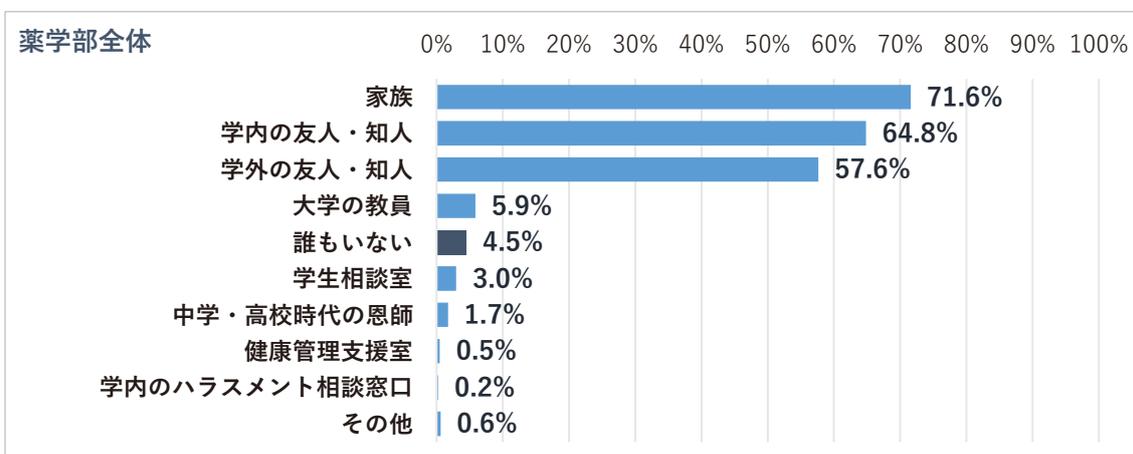
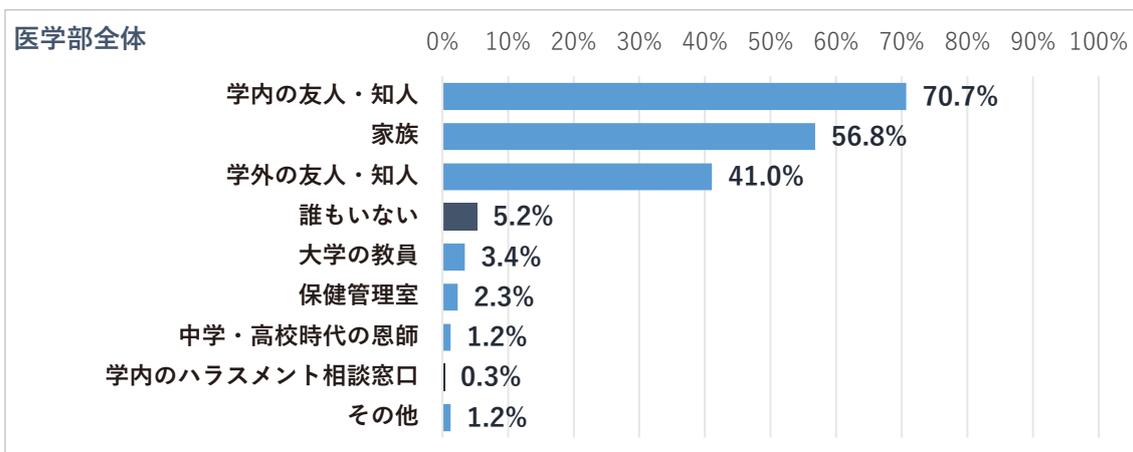
不安や悩みがあると回答している学生は、割合が高い順に薬学部全体で 38.0%、医学部全体で 37.0%、看護学部全体で 36.1%である。

(2) 今年度の不安や悩みの種類



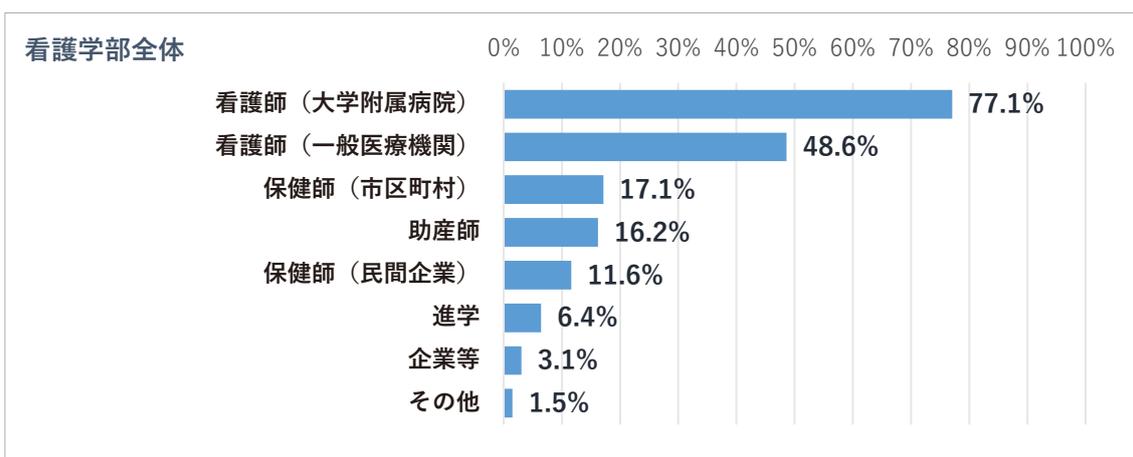
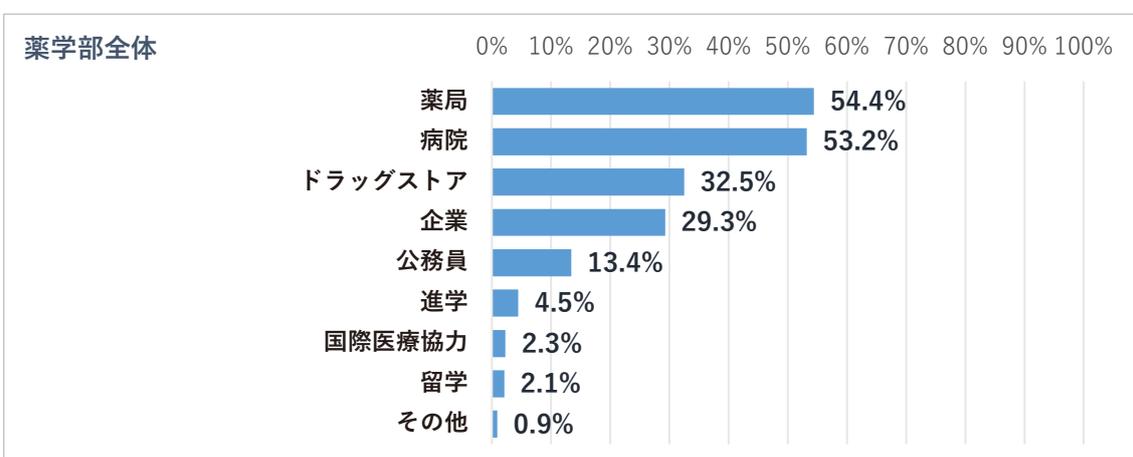
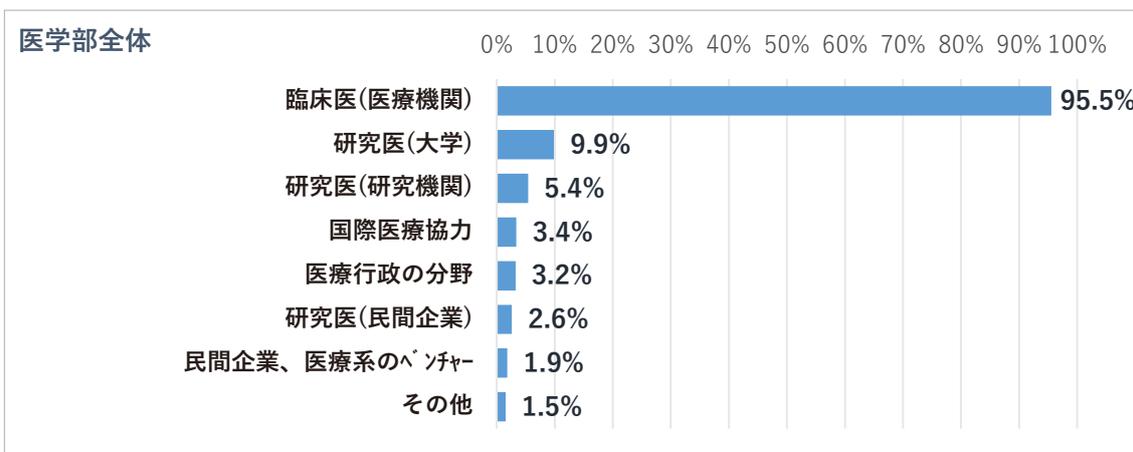
不安や悩みの種類で割合がもっとも高いのは、医学部と薬学部全体では「進級・留年への不安」で61～65%、看護学部全体では「進路・就職」で46.6%である。

(3) 悩みの相談相手



悩みの相談相手として割合が高いのは、医学部全体では「学内の友人・知人」「家族」「学外の友人・知人」、薬学部全体と看護学部全体では「家族」「学内の友人・知人」「学外の友人・知人」である。

9. 卒業後の進路

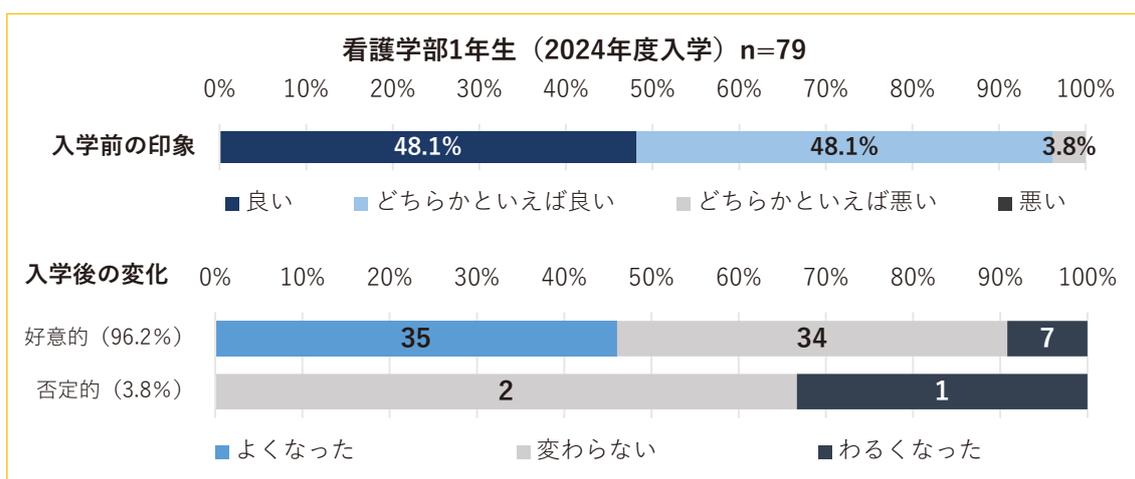
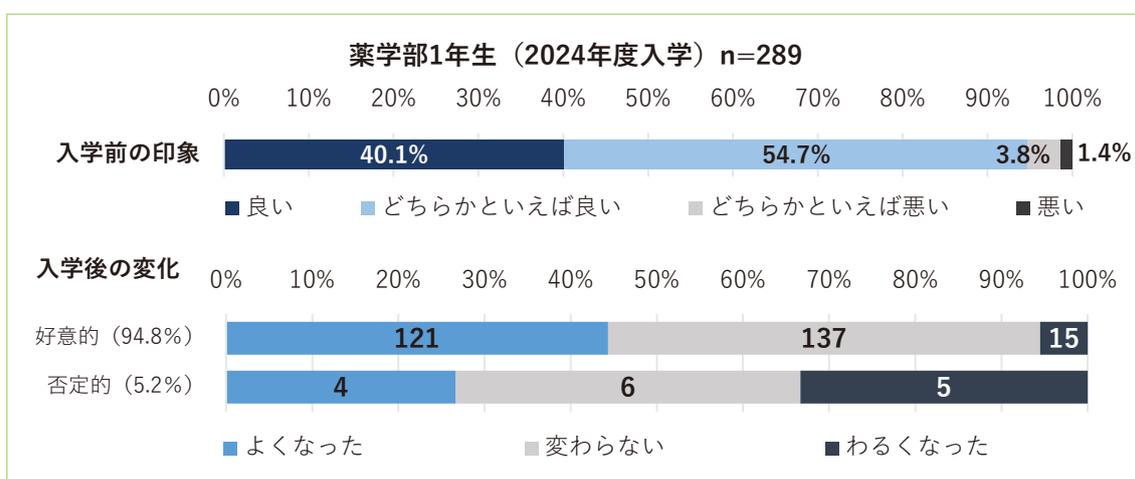
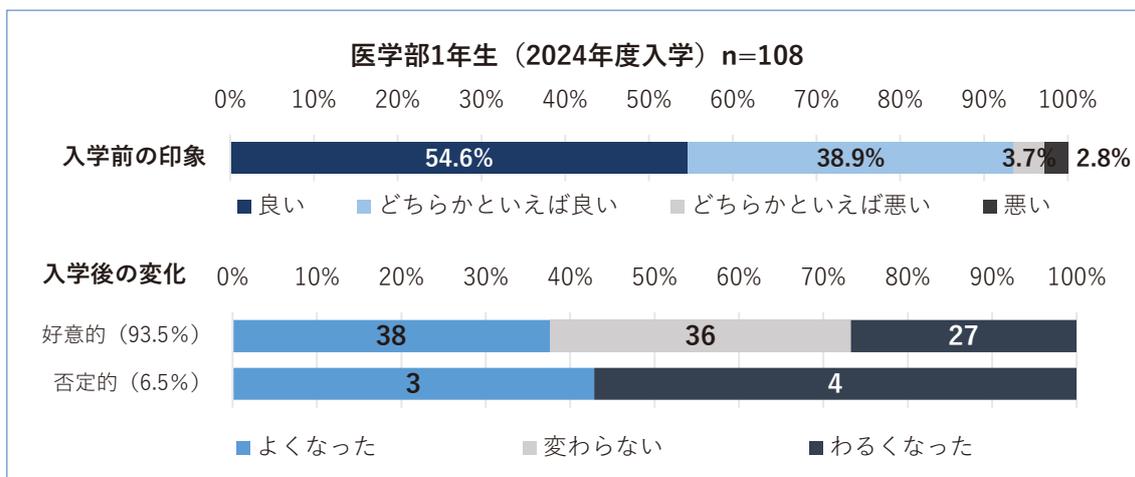


将来の進路として割合が高いのは、医学部全体では「臨床医」の95.5%、薬学部全体では「薬局」の54.4%と「病院」の53.2%、看護学部全体では「看護師(大学附属病院)」の77.1%と「看護師(一般医療機関)」の48.6%である。

III. 総合評価

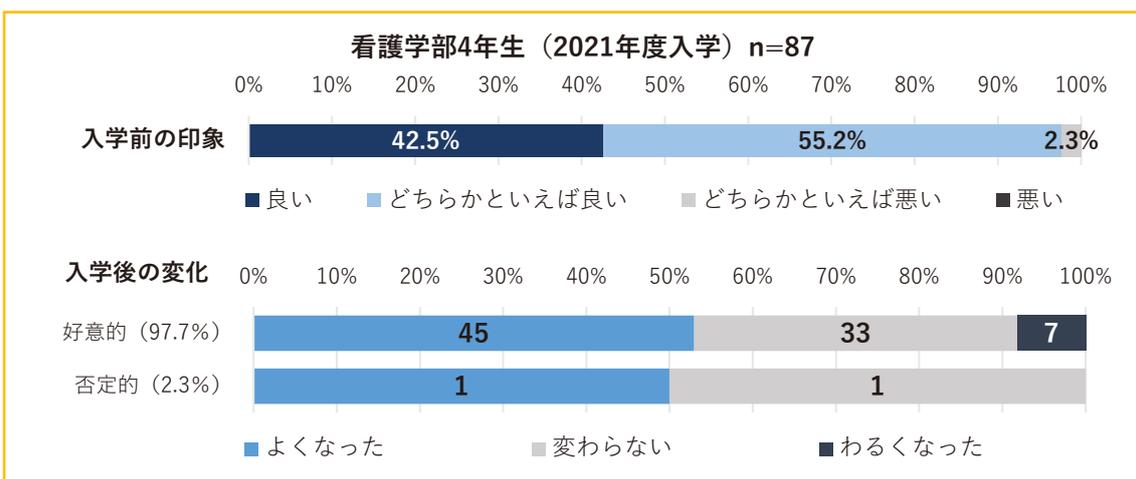
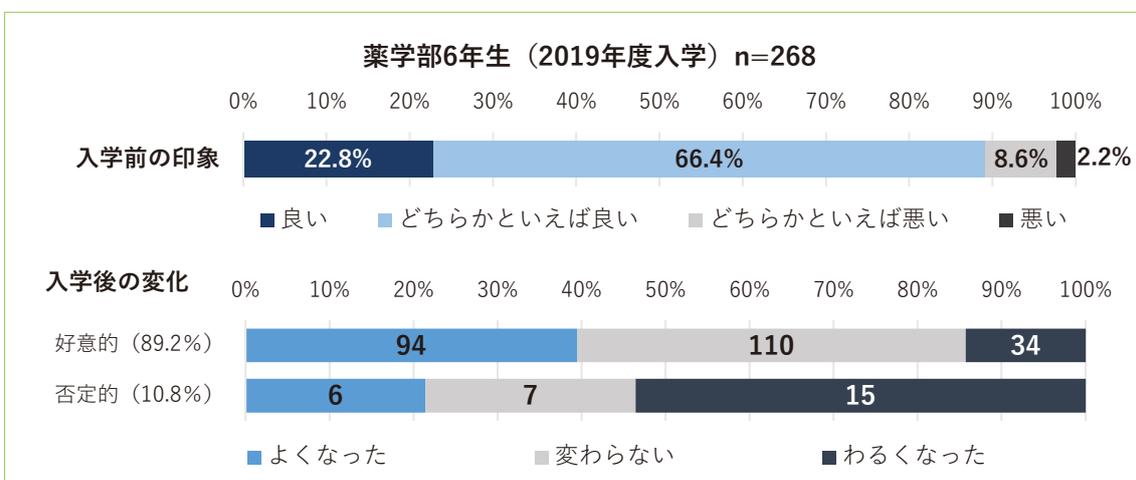
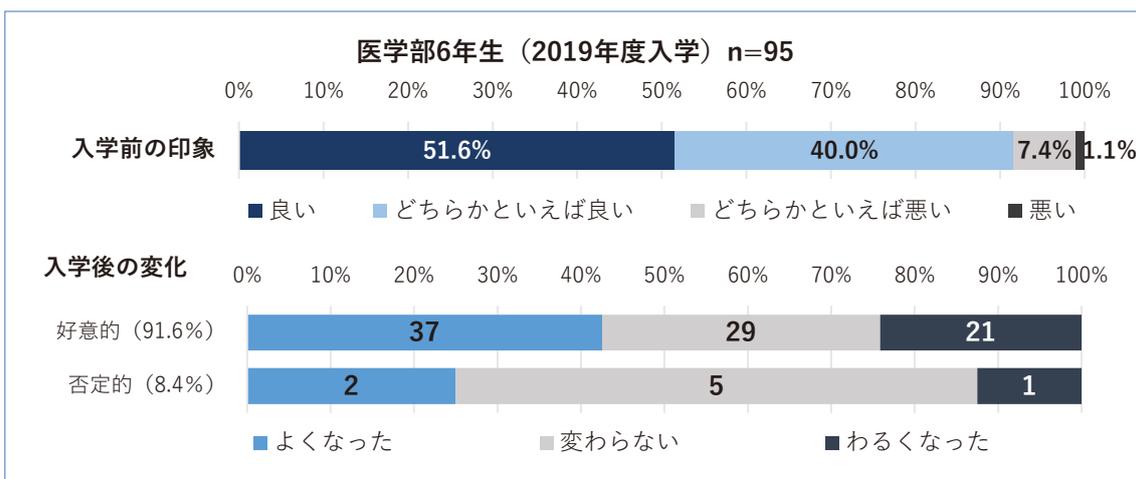
1. 入学前後の本学への印象 【1年生と最終学年のみ】

1年生



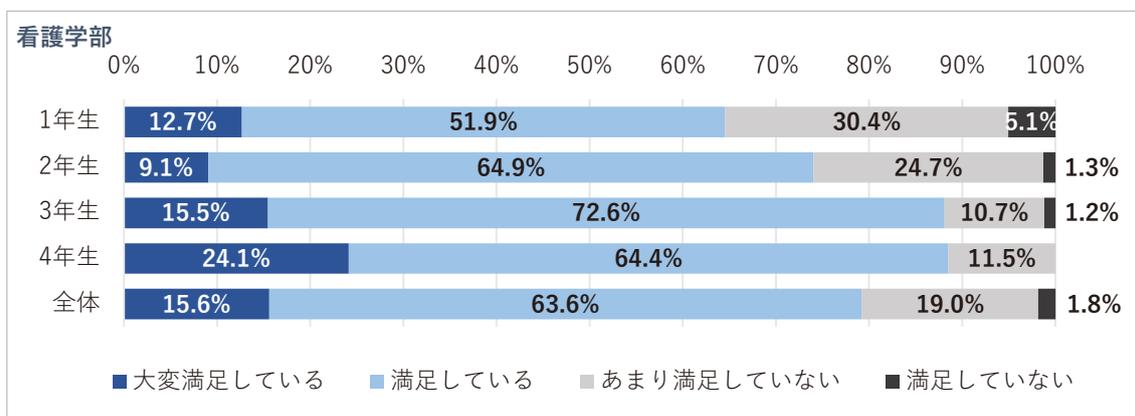
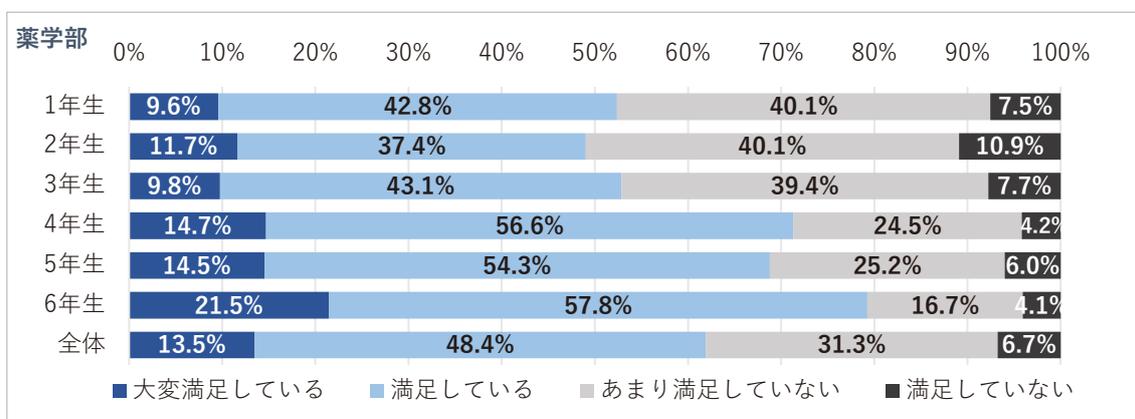
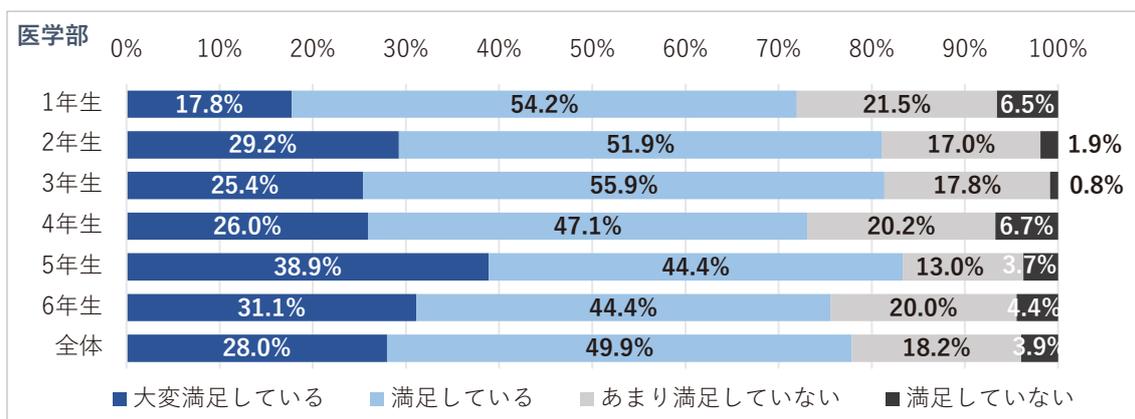
2024年度に入学した学生（1年生）の入学前の本学への印象について、好意的印象を持っていたという回答は、医学部全体で93.5%、薬学部全体で94.8%、看護学部全体で96.2%である。1年生終了時、入学後に印象がよくなったという回答は、入学前に好意的印象を持っていた場合、医学部全体で37.6%、薬学部全体で44.3%、看護学部全体で46.1%である。

最終学年



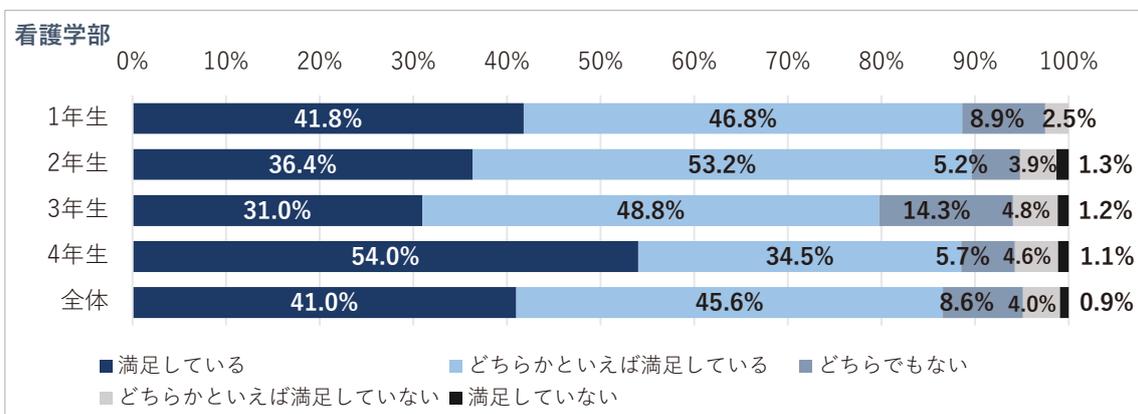
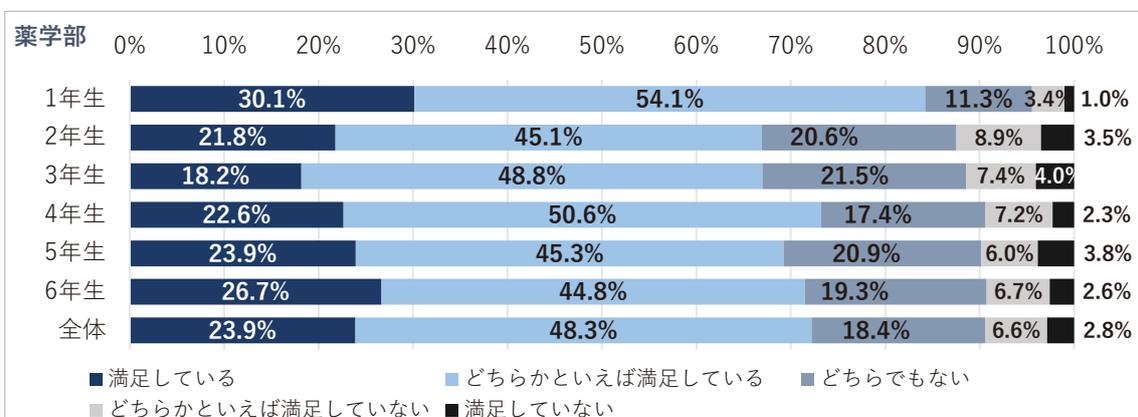
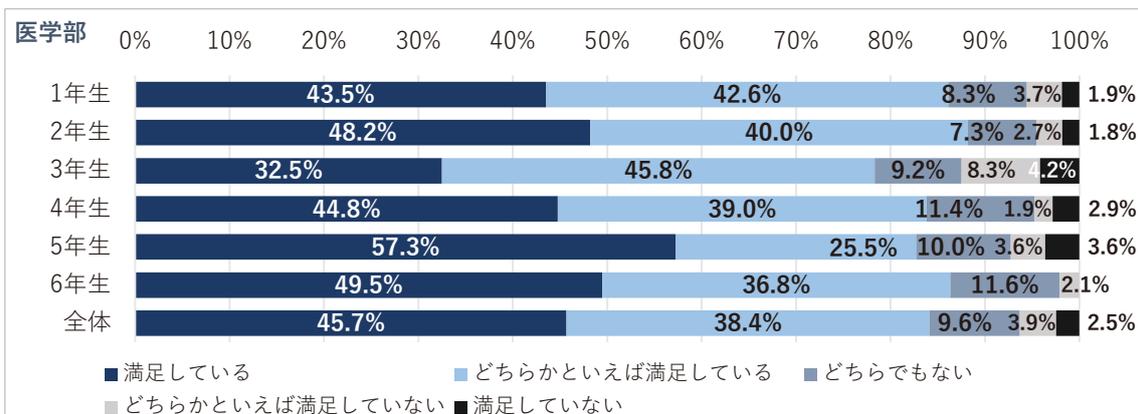
2018年度または2020年度に入学した学生（6年生または4年生）の入学前の本学への印象について、好意的印象を持っていたという回答は、医学部全体で91.6%、薬学部全体で89.2%、看護学部全体で97.7%である。最終年度終了時、入学後に印象がよくなったという回答は、入学前に好意的印象を持っていた場合、医学部全体で42.5%、薬学部全体で39.5%、看護学部全体で52.9%である。

2. 入学以降の総合的な学修成果（結果）の満足度



入学以降の総合的な学修成果（結果）満足度について学部全体で見ると、もっとも満足度が高いのは医学部で「大変満足している」が28.0%、「満足している」をあわせると77.9%が満足していると回答している。薬学部全体では、「大変満足している」が13.5%、「満足している」をあわせると61.9%、看護学部全体では「大変満足している」が15.6%、「満足している」をあわせると79.2%が満足していると回答している。

3. 大学生活全般の満足度



大学生活全般の満足度について学部全体でみると、もっとも満足度が高いのは医学部で「満足している」が45.7%、「どちらかといえば満足している」をあわせると84.1%が満足していると回答している。薬学部では「満足している」が23.9%、「どちらかといえば満足している」をあわせると72.2%が満足していると回答しており、看護学部では「満足している」が41.0%、「どちらかといえば満足している」をあわせると86.6%が満足していると回答している。

大阪医科薬科大学
キャンパスライフ・レポート 2024
(大阪医科薬科大学 学生調査)

2025年 8月 発行

大阪医科薬科大学 IR室
大阪医科薬科大学 教育機構
大阪医科薬科大学 学生生活支援機構

大阪医科薬科大学 IR室
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

OMPU
CAMPUS LIFE
REPORT
2024

2025.08



大阪医科薬科大学
Osaka Medical and Pharmaceutical University